

自己点検・評価報告書
(2024年度)

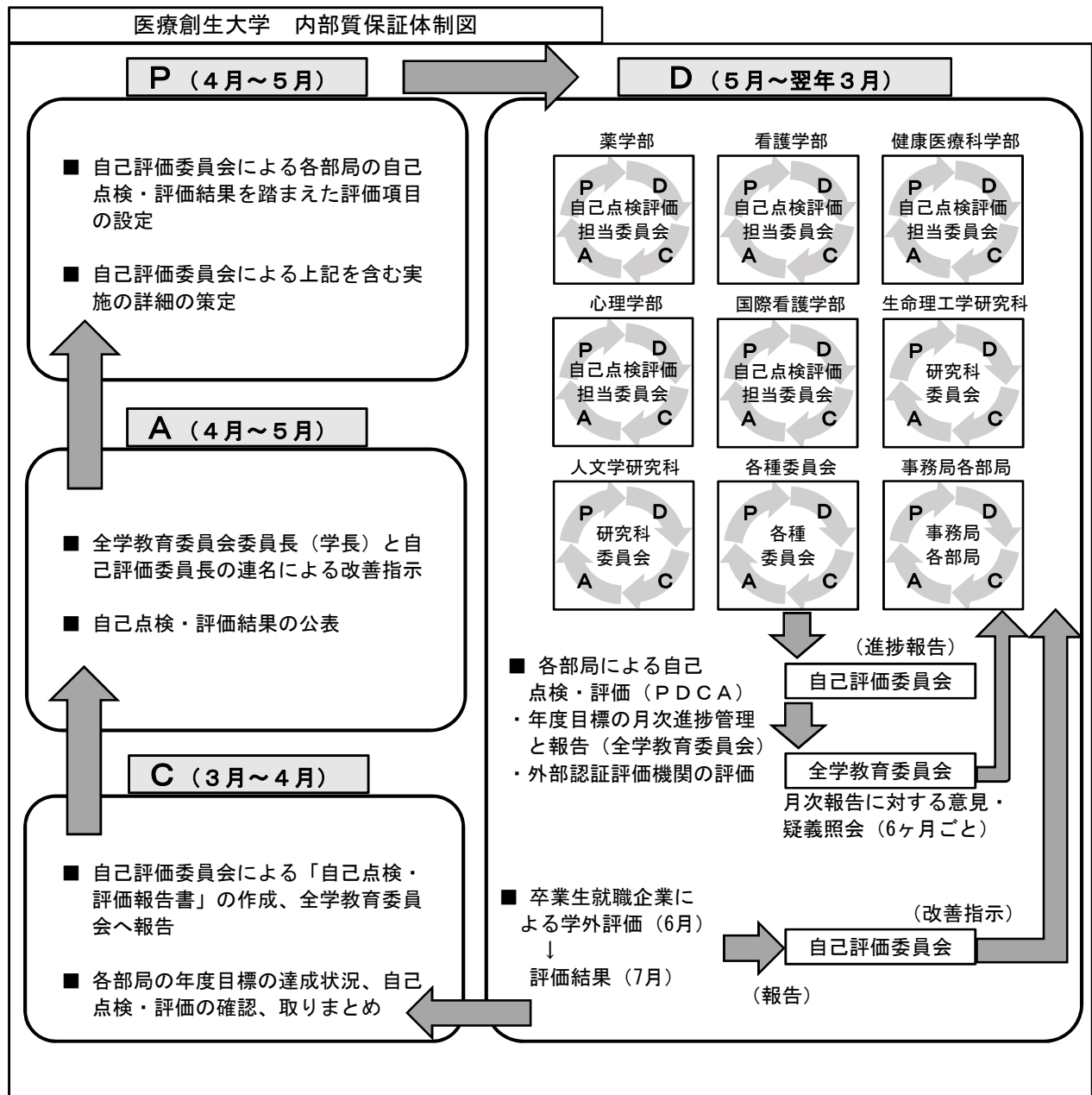
2025年5月21日

医療創生大学 自己評価委員会

本学では、「自己点検・評価に関する規程」を定め、毎年、自己点検・評価を実施することとしています。全学教育委員会を責任主体、本委員会を実施主体として、内部質保証体制に基づき、2024年度の自己点検・評価を行いましたので、以下のとおり報告します。

1. 医療創生大学内部質保証体制図	P. 1
2. 各部局の自己点検・評価（中期事業計画・アセスメントプラン）	
・薬学部	P. 2
・看護学部	P. 10
・健康医療科学部	P. 18
・心理学部	P. 26
・国際看護学部	P. 34
・生命理工学研究科	P. 44
・人文学研究科	P. 50
・自己評価委員会	P. 58
・教務委員会	P. 59
・学生生活委員会	P. 60
・FD・SD委員会	P. 64
・情報システムセキュリティ委員会	P. 65
・看護キャリア教育研究センター	P. 67
・法人	P. 68
・事務局企画課（いわきキャンパス）	P. 70
・事務局総務課（いわきキャンパス）	P. 75
・事務局教務学生課（いわきキャンパス）	P. 77
・事務局総務課（柏キャンパス）	P. 82
・事務局教務学生課（柏キャンパス）	P. 84
3. 改善課題	P. 91

P	自己点検・評価項目及び実施の詳細の策定 (規程第2条、3条)
D	各部局の教育活動 (PDCA) の確認・把握、学外評価に基づく各部局への改善指示
C	各部局の自己点検・評価結果の確認、検証、及び自己点検・評価報告書の作成 (規程第5条、6条)
A	検証結果に基づく全学教育委員長と自己評価委員長の連名による各部局への改善指示、及び自己点検・評価結果の公表 (規程第8条)



令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

薬学部	実施責任者	学部長	松本司
-----	-------	-----	-----

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

・入学定員充足率を100%にする。補佐的に志願倍率、合格率、歩留率を設定する。今後、福島県の18歳人口が減少していくことから、福島県内の入学者数を確保した上で、県外からの入学者数を増やす。

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・遠隔広報(動画、DM、HP、SNS、WEB版オープンキャンパス)
- ・対面広報(オープンキャンパス、高校ガイダンス、進学ガイダンス、高校訪問、高大連携、中学生向けガイダンス)

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【入学定員充足率】 100%	R7.4月
-----------------------	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・2023年度から開始した教員による高校訪問を拡張して継続している。
 - ・高校訪問時に使用する広報資料を作成し、配布した。
 - ・高校からの依頼により実施する模擬講義(出前講座)の回数を2023年度より増やした。
 - ・一日総合大学での講義を担当し、大学紹介・学部紹介の話題を取り入れた。
- 薬学部長が福島県立磐城桜が丘高校高等学校の評議委員会に出席し、校長および教頭と意見交換を行い、学生募集も兼ねて医療創生大学の広報活動を行った。
- ・オープンキャンパスでは、入試広報委員会が中心となって薬学部紹介の企画・立案を行った。
 - ・薬学部独自のSNSへの学生の学習の様子や各種行事についての情報を発信している。
 - ・オープンキャンパスでは、調剤体験などの体験型ブースで薬学部の魅力を伝えている。また、体験型ブースの次回予告を行いリピーターの獲得に力を入れている。
 - ・高大連携委員会が薬学部独自のオープンキャンパス案内チラシを作成し、高校や薬局に配布した。

【取組に対する自己点検・評価】

昨年度以上に広報活動の拡充が行われた。更なる広報活動に力を入れる。
特にSNSを使った広報では、フォロワーの増加を図る必要がある。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- ・学部紹介の話題を高校からの依頼により実施する模擬講義(出前講座)の中で取り入れ、志願者増を図った。
- ・出前講座での模擬講義の内容については、高校生目線で薬剤師の社会的役割とその魅力が伝わるように工夫を加えた。

【自己点検・評価】

4月-9月期で計画した、広報活動の拡充が行われた。

【取組に対する自己点検・評価】

入学者数は28名であり、昨年と同じ数値であった。定員充足率、46.7%と目標数値を大きく下回った。
一般入試および共通試験入試による志願者数は、大幅に減少したが、1月に募集停止を発表したためであり、致し方なしと考える。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

薬学部	実施責任者	学部長	松本司
-----	-------	-----	-----

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う
- ・質保証サイクルを実質化する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していく
- ・達成度評価の基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【就職率】 100% ※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。	R7.4月
---	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・薬学部就職委員会が、2024年度の薬学部就職支援年間計画を立案し、活動を開始した。
- ・就職内定状況を事務局と情報共有をしている。
- ・学生に求人情報を伝え就職の斡旋を行っている。
- ・低学年次からのキャリア教育(薬剤師のできる職業の説明、プレゼンの研修)を行った。

【取組に対する自己点検・評価】

内定状況は例年と遜色なく、今後薬学就職委員会による履歴書や小論文の添削、個別の面接練習を行う予定である。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- ・就職内定状況を教授会で共有した。
- ・学生に求人情報を伝え就職の斡旋を行った。
- ・キャリア教育研修を行った。
- ・学生の就職希望エリアの情報をもとに、企業の人事担当者と調整しつつ就職の斡旋を行った。

【取組に対する自己点検・評価】

- ・就職率は100%であった(国家試験不合格者を除く)。国家試験に合格した就職希望者は全員が就職した。
- ・国家試験に合格すればすぐに就職できる求人状況にある。国家試験不合格者に対しては、予備校の斡旋など国試対策に注力したい。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

薬学部	実施責任者	学部長	松本司
-----	-------	-----	-----

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う
- ・質保証サイクルを実質化する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していく
- ・達成度評価のに基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【国家試験合格率】 100% ※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。	R7.4月
---	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・国試対策委員会が中心となり作成した、1～6年生の年間スケジュールに従い、国試対策を実施している。
- ・国試対策の特別補講を5月から開始した。
- ・国試模擬試験の結果を個別面談でフィードバックし、弱点科目克服を目的とした学修指導を行っている。
- ・6年次生には、国家試験対策模擬試験の結果をフィードバックさせながら個別指導を行った。
- ・4年次生には、CBT体験受験を実施した。
- ・1年次生には、プレイメントテストの結果をフィードバックさせながらチューター面談を行った。

【取組に対する自己点検・評価】

例年通り、年間スケジュールに沿って、各学年の学生の学力の評価が行われており、チューターや学年主任・国試対策委員会委員長による個別指導も実施されている。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- ・薬学総合演習試験を行い、成績不良者に対して面談を行った。1月末には国家試験に向けて、学習方法の再度の助言を行った。
- ・薬剤師国家試験予備校講師ならびに教員による国試対策の補講を行った。
- ・国試対策委員会が中心となり作成した、1～6年生の年間スケジュール「2024年度 薬学部の国家試験対策年間計画」に従い、実施した。

【取組に対する自己点検・評価】

- ・本学の新卒の国家試験合格率は66.67%と全国平均の84.96%大きく下回った。
- ・国家試験では、合格基準点を大幅に下回る成績であった受験者もいたことから、基礎科目についての指導に力を入れたい。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

薬学部	実施責任者	学部長	松本司
-----	-------	-----	-----

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う
- ・質保証サイクルを実質化する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していく
- ・達成度評価のに基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【留年率】 5.3% ※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。	R7.4月
---	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・低学年での基礎学力の増強が必要であると考えられることから、留年防止を目的として空き時間を利用して補講を積極的に実施している。
- ・基礎学力の低い1年生を対象とした本学独自の個別指導型教育「クラムスクール」を本年度も開講した。
- ・留年対策の一環として学生の空き時間を利用して補講を行うように教授会で周知した。
- ・2024年度より始まった新カリキュラムでは、低学年での基礎学力増強を目指した科目編成による授業を展開している。

【取組に対する自己点検・評価】

昨年と同じく、1・2年生を対象とした補講が行われている。成績向上を目的として昨年度以上に積極的な補講を実施する。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- ・学生の空き時間を利用して補講を行った。
- ・後期中間試験の結果が不振であった学生を対象に学年主任およびチューターにより面談を行った。
- ・個別指導型教育「クラムスクール」を開講し、基礎学力の低い1年生を対象とした本学独自の指導を行った。

【取組に対する自己点検・評価】

- ・留年率(1～5年生)は2.7%(休学者を除く)であり、数値目標を達成した。
- ・次年度においても目標達成に向けて、1年生を対象とした補講を行うなど、各学年で成績向上を目的とした積極的な補講を実施する。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

薬学部	実施責任者	学部長	松本司
-----	-------	-----	-----

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・調査結果を活かした環境改善、各種支援の強化等により、学生満足度を70%を達成する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

・教職協働、学部横断による学生満足度調査内容の見直し ・検討された支援方策や改善内容について、学生に向けた適切な情報の公表 ・学生の心理面への調査検討、および実施	・各調査結果に基づく支援の検討、環境改善 ・教育指導 ・大学と保護者の情報共有を促進し、学生支援の連携を図るため調査を実施
---	---

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【離籍率】 3.0% ※アセスメントプランに基づくチェック項目(退学率)と一致。	R7.4月
--	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】 ・昨年度と同様に、チューター面談、学年主任面談、入学前課題資料(進研アド)によりミスマッチ入学者のリストアップを行っている。 ・空き時間を利用して補講を積極的に実施し、成績不振による離籍防止に取り組んでいる。 ・定期試験成績を全教員で共有している。 ・欠席の多い学生については、学年主任とチューターで情報を共有し、学生本人と保護者に対して積極的なコンタクトを試み対応している。 ・GPA面談以外にも必要に応じて三者面談を実施している。 ・父母会懇談会において、保護者が抱える不安等について対応した。 ・学費の相談に対応し、奨学金情報の提供を行っている。 【取組に対する自己点検・評価】 保護者が抱える不安等について対応するなど、離籍対策が行われている。学生情報については、チューター・学年主任だけでなく、教授会全体での情報共有を行っている。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください) ・学生の空き時間を利用して補講を行った。 ・後期中間試験の結果が不振であった学生を対象に学年主任およびチューターにより面談を行った。 ・後期においても、個別指導型教育「クラムスクール」を開講し、基礎学力の低い1年生を対象とした本学独自の指導を行った。 【取組に対する自己点検・評価】 ・退学率(1～6年生)は1.6%であり、数値目標を達成した。 ・基礎学力の低い学生の退学傾向が顕著である。次年度は、目標達成に向けて、1年生を対象とした補講を行うなど、各学年で成績向上を目的とした積極的な補講を実施する。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

薬学部	実施責任者	学部長	松本司
-----	-------	-----	-----

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・教育課程レベル:在学時

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【GPA】 学年ごとの平均値 **1年生 2.6、2年生 2.0、3年生 2.0、4年生 2.5、5年生 3.5、6年生 1.5**
 【成績分布状況】 下位1/4に該当するGPAの値 **1年生 1.5、2年生 1.5、3年生 1.5、4年生 2.0、5年生 3.7、6年生 0.5**
 【修得単位数】 必修科目の単位修得率 **100%**

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・基礎学力の低い1年生を対象とした本学独自の個別指導型教育「クラムスクール」を行っている。
- ・低学年での基礎学力の増強が必要であると考えられることから、留年防止を目的として空き時間を利用して補講を積極的に実施している。
- ・全学年に対して、留年対策の一環として学生の空き時間を利用して補講を行うように教授会で周知した。
- ・高学年の学生に対し、空き時間には下位学年の講義を聴講するように指導した。
- ・2～3年生で不得意科目を有する学生に対し、個別指導型教育「クラムスクール」への出席を推奨している。

【取組に対する自己点検・評価】

昨年と同じく、1～3年生を対象とした補講が行われている。昨年度以上に成績向上を目的として積極的な補講を実施する。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- 前期に引き続き、数値目標を達成すべく取り組みを行った。内容は、以下の通り。
- ・基礎学力の低い1年生を対象とした本学独自の個別指導型教育「クラムスクール」の実施。
 - ・低学年での基礎学力の増強が必要であると考えられることから、留年防止を目的として空き時間を利用して積極的な補講。
 - ・全学年に対して、留年対策の一環として学生の空き時間を利用して補講を行うように教授会で周知した。
 - ・高学年の学生に対し、空き時間には下位学年の講義を聴講するように指導した。
 - ・成績不振状態の2～3年生に対し、個別指導型教育「クラムスクール」への参加勧奨。

【取組に対する自己点検・評価】

・必修科目単位取得率100%を目指したが、1～5年生では16.8%の学生が未習得科目を有していた(休学者を除く)。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

薬学部	実施責任者	学部長	松本司
-----	-------	-----	-----

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・教育課程レベル:在学時

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【国家試験模試 外部模擬試験】 共用試験(CBT・OSCE)合格率 100%	R7.4月
---	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

・CBT対策の特別補講を行っている。
 ・CBT体験受験を実施するとともに、複数回のCBT模擬受験を実施し、試験結果を個別面談でフィードバックし、弱点科目克服を目的とした学修指導を行っている。
 ・模擬試験、体験受験の結果を全教員で共有している。

【取組に対する自己点検・評価】

CBT対策模試の結果、学力格差の存在が判明した。学生の客観的な学力評価を行い、学年主任およびチューターによる個別指導を実施する。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

・CBT対策として薬ゼミのWEB問題集を中心に学習するように指導した。進捗状況、正答率などのデータを教員で共有し、指導を行った。

【取組に対する自己点検・評価】

・WEB問題集を中心に学習するように指導したが、学習意欲が低くCBT対策の学習を行わないで試験に望む学生がいた。全員合格を目的としていたが、残念ながら不合格者が1名あり、数値目標は達成できなかった。
 ・次年度は目標達成に向けて、学習意欲が低い学生を重点的に指導したい。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

薬学部	実施責任者	学部長	松本司
-----	-------	-----	-----

【2023年度自己点検・評価報告に基づく改善課題への取組み状況】

■改善課題及び改善指示

【改善課題】

入学定員充足率が目標値に達していません(100%に対し、46.7%)。また、留年率が目標値を上回っています(5.4%に対し、10.5%)。

【改善指示】

入学者の基礎学力が留年率、離籍率、国家試験合格率に影響を与えることから、広報活動のターゲット層を明確にしてください。また、特徴的な学部教育が高い国家試験合格率を支えていると考えられることから、その中身が分かるような広報活動の強化を行ってください。

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・福島県内の進学指導重点校をターゲットとし、広報活動を行った。
- ・本学薬学部に入学者の出身高校に対し、重点的な広報活動を行った。

【取組に対する自己点検・評価】

高校訪問を行うにあたって、福島県内の進学指導重点校、進学指導拠点校およびキャリア指導推進校などの特徴に合わせたアピール内容を検討する。また、リクルート社による2024年度の入学者アンケートによりターゲット層の調査結果を基に広報戦略について検討を開始した。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- ・薬学部入試広報委員会による企画で、学園祭では薬学に関する体験型イベントを開催し、高校生や父兄への啓蒙活動を行った。
- ・広報活動の拡充が行われ、また積極的な高校訪問を実施するなど、入学定員充足に向けた募集活動を実施した。

【取組に対する自己点検・評価】

- ・1月上旬に募集停止のアナウンスを行ったにもかかわらず、昨年と同数の入学者数であった。募集停止のアナウンスを行わなければ、昨年来を上回る入学者数を確保できたと考ええる。12月までの広報活動であったが、広報活動については、入学者数から取り組みを評価すると一定の成果があったものと考ええる。
- ・留年率は、目標数値を達成したが、ギリギリの成績で進級したものが多く、基礎学力のさらなる強化を図る必要がある。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

看護学部	実施責任者	学部長	樺山定美
------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

・入学定員充足率を100%にする。補佐的に志願倍率、合格率、歩留率を設定する。今後、福島県の18歳人口が減少していくことから、福島県内の入学者数を確保した上で、県外からの入学者数を増やす。

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・遠隔広報(動画、DM、HP、SNS、WEB版オープンキャンパス)
- ・対面広報(オープンキャンパス、高校ガイダンス、進学ガイダンス、高校訪問、高大連携、中学生向けガイダンス)

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【入学定員充足率】 100%	R7.4月
-----------------------	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- 看護学部として積極的な広報活動を通して魅力や特色を広く知らせることにより認知度を向上させる
本年度は、看護学部の魅力や特色を広く知らせることにより認知度をより向上させるため事務局と連携を強化し、より多くの高校へ学部教員が本務とのバランスを考慮しながら訪問することを目指す。
- 看護学部の次年度新入生(1年生)定員充足率を引き上げる
定員充足率100%を目指す。
- 看護学部のオープンキャンパス来校者数を150%まで引き上げる
オープンキャンパス内容の充実を図る。また、看護学部のイメージ向上も重要な機会であるため、本看護学部の教育内容や学習環境について積極的に公開(教室や演習室の見学、各領域における学科体験等)するとともに、在学生や卒業生の活躍などについてもアピールする。
- 看護学部と地域社会(特にいわき地区)の連携を強化する
公開シンポジウムの開催、渉外活動の促進、出前講座の受け入れや社会貢献活動について、本務とのバランスを考慮しながら推奨していく。

【取組に対する自己点検・評価】

広報活動としては、学部紹介、体験コーナー等の内容を充実させるとともに、リピーターを増やす観点から、毎回異なる体験を企画した。また、来校者が「入学したい」と思えるよう、教員および学生が生き生きとして実施できるような基盤体制を構築した。出前講座および高校訪問の実施状況は、9月末で16校(高大連携2校やオープンキャンパスライト対応も含む)を実施済みであり、さらに後期も9校の実施がすでに決まっており、本年度の入試出願にもつながっているため、継続して定員充足に向けて実施していく。地域との連携強化については、10/19(土)に公開シンポジウムを開催する予定であり、社会貢献活動の推進を図っていく。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- 看護学部として積極的な広報活動を通して魅力や特色を広く知らせることにより認知度を向上させる
本年度は、看護学部の魅力や特色を広く知らせることにより認知度をより向上させるため事務局と連携を強化し、より多くの高校へ学部教員が本務とのバランスを考慮しながら訪問することを目指す。
- 看護学部の次年度新入生(1年生)定員充足率を引き上げる
定員充足率100%を目指す。
- 看護学部のオープンキャンパス来校者数を150%まで引き上げる
オープンキャンパス内容の充実を図る。また、看護学部のイメージ向上も重要な機会であるため、本看護学部の教育内容や学習環境について積極的に公開(教室や演習室の見学、各領域における学科体験等)するとともに、在学生や卒業生の活躍などについてもアピールする。
- 看護学部と地域社会(特にいわき地区)の連携を強化する
公開シンポジウムの開催、渉外活動の促進、出前講座の受け入れや社会貢献活動について、本務とのバランスを考慮しながら推奨していく。

【取組に対する自己点検・評価】

本年度、看護学部は事務局との連携を強化し、高校訪問などの広報活動を通じて、学部の魅力や特色を積極的に発信し、認知度向上に努めた。新入生の定員充足率向上に向けた取り組みにより、昨年度より志願者数の増加にはつながったものの、定員充足率100%には至らなかった。次年度以降も、目標達成に向け継続的に取り組んでいく。オープンキャンパスでは、教育内容や学習環境の公開、在学生・卒業生の紹介を行い、来場者数の増加と学部イメージの向上に寄与した。さらに、公開シンポジウムの開催や出前講座の受け入れを通じて、地域連携と社会貢献の強化にも取り組んだ。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

看護学部	実施責任者	学部長	縦山定美
------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う
- ・質保証サイクルを実質化する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していく
- ・達成度評価のに基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【就職率】 100% ※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。	R7.4月
---	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・3年生に対する早期の進路調査
採用試験の時期が3年生の2月ごろからと早まっていることから、例年8月下旬に行っていた3年生の進路調査を5月(5/23)に繰り上げ、早い段階から就職支援を開始すると共に、9月に行う学内就職説明会参加施設選出の参考資料とした。
- ・キャリア・就職支援室の整理と専用使用
学習室としても兼用されていた部屋を、キャリア・就職支援室として専用使用できるよう整備し、就職相談、オンラインによる採用面談、求人面談にいつでも使えるようにした。また、今年度からは、送付されてきた採用に関するパンフレットをファイルに挟むだけでなく、約2週間ごとに、新着資料の連絡を3年生と4年生に対し行うこととした。
- ・各学年担当教員を配置した支援プログラムの構築
各学年に担当教員を配置し、その学年次に適切な支援を検討してもらい、プログラムを構築した。
- ・学内就職説明会の実施
9月7日(土)13:30から、3年生および2・4年生の希望者を対象に学内就職説明会を実施した。施設は31施設、学生は3年生43名、2年生3名、計46名が参加した。3年生は、具体的に自分の就職について検討できること、4年生は、まだ受験施設を決めかねている学生のきっかけとなること、2年生は、就職に対するイメージを持つことを目指し実施した。

【取組に対する自己点検・評価】

9月末日現在、内定報告者は65名(就職率82%)であり、昨年度の30名(41%)を大きく上回っている。これは、採用時期が早まったこともあるが、キャリア・就職支援室の整備や新着採用情報がタイムリーに入手できたことも影響したと考える。また、学年に対する支援において、3年生への支援を早期に繰り上げて対応したことにより、学内就職説明会への参加率が86%と高値であったり、インターンシップへの参加者の増加がみられたりと、就職に対する意識が強まっていると考える。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- ・1～3年生に対するキャリア支援プログラムの実施
各学年に担当委員を配置し、当該学年に適した内容・時期を考慮の上、1年生は1月に「実習マナー講座」、2年生は12月に「就職スタートアップ・自己分析講座」、3年生は1月に「採用試験対策講座」を実施した
- ・ホームカミングデイの開催
開部後、「母校で同級生や教員、在学生と親睦を深める」「お互いの近況を共有したり悩み事を相談し、明日から看護を頑張る活力とする」「キャリアについて教員とともに学び、考え、看護専門職者としての新たな一歩につなげる」を目的に、初めてのホームカミングデイを開催した。内容として、親睦会の他に、卒業生から国家試験の勉強法や就職試験の準備の仕方などを学ぶ、「卒業生・在学生シンポジウム」を実施し、参加者は卒業生25名、在学生44名であった。
- ・1～3年生に対し、進路調査を行った。回収率は休学者を除き100%であり、現段階の進路希望を確認できた。
- ・キャリア就職支援室の資料の整理、充実を図るとともに、専用の部屋としての学生への周知を図った。
- ・4年生に対する内定報告書提出の促しおよび一覧の整理を行った。

【取組に対する自己点検・評価】

2024年度卒業生の就職率は100%であり、目標は達成できた。1～3年生に対して実施した支援プログラムについては、アンケート結果において全学年ほぼ全員が役立ったと回答しており、支援につながることができたと評価するが、学年ごとの特徴を分析し、より適した支援を検討していく必要がある。また、進路調査は100%の回収率であったため、進路に対する分析を行えたこととおもに、次年度に向けた指導対策を検討できた。

ホームカミングデイは、在学生・卒業生の効果を確認できたが、課題をもとにさらなるブラッシュアップが必要である。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

看護学部	実施責任者	学部長	樺山定美
------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う
- ・質保証サイクルを実質化する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していく
- ・達成度評価のに基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【国家試験合格率】 看護師 100%、保健師 100%(資格取得を希望する者を分母とする)
※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

1-3年生:ガイダンス時に国家試験対策計画および学習方法についてオリエンテーションを行うとともに動機付け支援を行い、前期の学習成果を確認するため、9月に確認テストをC-learningで行った。また、各学年に国家試験対策委員会を設置し、学生と教員が一体となり取り組む体制を構築した。さらに、他の学年との交流を行い、学習状況や取り組む工夫点を共有しそれぞれの学生委員が自主的に取り組み相談ができる体制を構築した。4年生:ガイダンス時に国家試験対策計画および学習方法についてオリエンテーションを行うとともに動機付け支援を行った。4月から模擬試験を設定することで成績低迷者をスクリーニングし学習計画の立案、方法などを学生とともに確認し、知識と技術の定着を目指した。また、模擬試験ごとに成績結果を提示し、振り返りを行うため学生オリエンテーションを設定した。成績低迷者には模擬試験の振り返り、必修ラスパ(参考書)、出た問70の順に進めることと、必修ラスパは進捗を管理するためチェックリストを用いて可視化するように指導した。その他、保護者面談、学習環境整備、教員を対象とした成績低迷者への学習支援に関する研修会(自己点検・FDSD委員会)を開催した。

【取組に対する自己点検・評価】

1-3年生:学習への動機付けおよび学習確認テスト、他学年との交流をすることにより学習環境も整えることができた。年度末の模擬試験に向け、苦手分野を学生自身が克服できるように学習支援を行う。
4年生:前期は必修問題の得点40点以上の学生が8割を目標とし取り組んだ。初回の模擬試験結果は必修40点未満31名、2回目は39名、3回目は43名、4回目は38名と目標には至らなかった。しかしながら、一般状況設定を含めると、全国平均よりも高く、昨年度よりもよい結果であった。これらのことから概ねこれまでの学習支援の効果が現れている。しかしながら、模擬試験の結果およびこれまでの出席状況などを加味し分析した結果から、成績低迷者も抽出し特徴を把握することができた。そのため、さらなるハイリスクアプローチが必要である。成績低迷者は学内での学習を必須として1日あたりの課題を提示することにより学習習慣の構築につとめ、苦手分野の克服への支援を行う。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

1-3年生:ガイダンス時に国家試験対策計画及び学習方法についてオリエンテーションを行うとともに動機付け支援を行い、後期の学習成果を確認するため、1-2月に模擬試験を設定した。また、各学年に国家試験対策委員会を設置し、学生と教員が一体となり取り組む体制を構築した。さらに、他の学年との交流を行い、学習状況や取り組む工夫点を共有しそれぞれの学生委員が自主的に取り組み相談ができる体制を構築した。4年生:ガイダンス時に国家試験対策計画及び学習方法についてオリエンテーションを行うとともに動機付け支援を行った。必修問題及び一般状況設定問題の得点で成績低迷者をスクリーニングし、苦手分野及び学習計画の学習計画の立案、方法などを学生とともに確認し、知識と技術の定着を目指した。成績低迷者には学習計画については手帳にいつまでに何をやるか、この計画は達成されているのかを書くように指導し学生と教員間で学習状況を共有できるようにした。学習内容は、模擬試験の振り返り、必修ラスパ(参考書)、出た問70の順に進めることと、必修ラスパは進捗を管理するためチェックリストを用いて可視化するように指導した。その他、保護者面談、学習環境整備、チューターと連携をし学習支援の強化を図った。

【取組に対する自己点検・評価】

1-3年生:学習への動機付けおよび学習確認テスト、他学年との交流をすることにより学習環境も整えることができた。年度末の模擬試験では全員が受験でき、振り返りの補習を行った。補習では教員に希望を伝える学生がおり、主体的に学ぶ姿勢が見られた。4年生:後期は必修問題の得点40点以上、一般状況設定165点以上を目標とし学習支援を行った。国家試験の結果は看護師国家試験が89.6%(77人中69人合格)、保健師88.2%(17人中15人合格)であった。看護師国家試験は、昨年度よりも合格率が上がったが全国平均よりも低かった。また、年度内に実施した模擬試験の結果では全国平均よりも高い結果であった。これらのことから概ねこれまでの学習支援の効果が現れていると考える。今後は、成績低迷者を早期にスクリーニングし、学習習慣の構築につとめ、苦手分野の克服への支援を行う。また、精神的に支援が必要な学生もみとめられたことから、学習支援とあわせて精神的な支援についても強化することが必要である。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

看護学部	実施責任者	学部長	樺山定美
------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う
- ・質保証サイクルを実質化する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していく
- ・達成度評価のに基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【留年率】 **5.3%**

※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- 1) 離籍リスクのある学生の早期発見・早期対応
 - ・定期試験成績下位や授業欠席が目立つ学生に着目し、教員から早期に関わりを持つような体制を構築する。
 - ・学生の出席状況を定期的に確認し、欠席が多い学生を特定する。また、学期当初だけでなく、毎月の教授会で欠席傾向がある学生の早期把握を各教員に呼びかけていく。具体的には15コマ授業の場合、2回欠席でチューターにつなげる。
 - ・GPA 面談・欠席が多い学生への面談を学生生活委員会と連携し、教員と学生との面談を継続的に行い、学業上の問題や生活上の困難がないかを確認して、必ず関連する教員間でGaroon上のスペースなどで情報共有を行う。また、学生のみならず保護者との連携も強化していく。
- 2) カリキュラム改正に向けて、現行カリキュラムの課題整理をカリキュラム委員会と連携して実施する。

【取組に対する自己点検・評価】

離籍や留年防止のために、学生の出席状況把握について、毎月の教授会で、欠席傾向がある学生の早期把握について周知を行い、Garoon上のスペースを活用して、学部長、副学部長、学科長、各学年主任で把握に務めた。

カリキュラム改正については、学内のカリキュラム委員会にて昨年度から検討を重ねてきている状況で、最終段階であったが、本学の将来構想や学部編成変更に伴い、修正案について検討を行っている。今後、全学の一般教養科目などの決定を受けて学部としての新カリキュラム内容を確定していく予定である。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- 1) 離籍リスクのある学生の早期発見・早期対応
 - ・定期試験成績下位や授業欠席が目立つ学生に着目し、教員から早期に関わりを持つような体制を構築する。
 - ・学生の出席状況を定期的に確認し、欠席が多い学生を特定する。また、学期当初だけでなく、毎月の教授会で欠席傾向がある学生の早期把握を各教員に呼びかけていく。具体的には15コマ授業の場合、2回欠席でチューターにつなげる。
 - ・GPA 面談・欠席が多い学生への面談を学生生活委員会と連携し、教員と学生との面談を継続的に行い、学業上の問題や生活上の困難がないかを確認して、必ず関連する教員間でGaroon上のスペースなどで情報共有を行う。また、学生のみならず保護者との連携も強化していく。
- 2) カリキュラム改正に向けて、現行カリキュラムの課題整理をカリキュラム委員会と連携して実施する。

【取組に対する自己点検・評価】

本年度、定期試験成績不振や欠席が目立つ学生に対する早期支援体制を整備(学部長(学部長代行)、副学部長、学科長、各学年主任が常に気になる学生を把握できるようにGaroon上スペースで情報共有を実施した)し、定期的な出席確認やチューター連携による面談を実施した。また、欠席が多い学生への対応を学生生活委員会と連携して行い、教員間で情報共有を徹底するとともに、保護者との連携も強化した。また、カリキュラム改正に向けてカリキュラム委員会と協働し、現行カリキュラムの課題整理に取り組んだ。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

看護学部	実施責任者	学部長	樺山定美
------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

・調査結果を活かした環境改善、各種支援の強化等により、学生満足度を70%を達成する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

・教職協働、学部横断による学生満足度調査内容の見直し ・検討された支援方策や改善内容について、学生に向けた適切な情報の公表 ・学生の心理面への調査検討、および実施	・各調査結果に基づく支援の検討、環境改善 ・教育指導 ・大学と保護者の情報共有を促進し、学生支援の連携を図るため調査を実施
---	---

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【離籍率】 3.0% ※アセスメントプランに基づくチェック項目(退学率)と一致。	R7.4月
--	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

・前期学生面談を実施した。また、成績不振者や希望者には、適宜面談を実施した。面談結果は、速やかに学年主任や学科長に報告し、教授会やGaroon上のスペースなど「気になる学生」についての情報を教員間で共有することで、学部全体で各学年や個別に応じた、きめ細やかな学生支援につなげている。

・生活面や健康面、学習面に問題がある学生については、必要に応じて、個別に保護者を呼び面談を行っているほか、保護者から要請があれば、担任等が面談に応じている。

・毎月の教授会で欠席傾向がある学生の早期把握を各教員に呼びかけている。具体的には15コマ授業の場合、2回欠席でチューターにつなげている。

・離籍防止の取り組みの一環として、チューターの再配分や学園祭準備・学生ボランティアの支援に取り組んでいる。

・4月看護学部イベント企画として、新入生の大学生活に対する不安軽減、新入生相互や上級生、教員との交流を深め、大学生活を実りある有意義なものにしてもらうことを目的に「新入生歓迎会」(球技大会等)を実施した。

・4月1日(土)に新任教員を対象にオリエンテーションを実施した。看護学部についての理解を深め順応してもらうことを目的に、新任および現任教員の自己紹介、委員会説明、構内案内等を実施した。

【取組に対する自己点検・評価】

4～9月間は、退学者2名であった。内訳:精神的な不調:1名、繰り上げ合格者(他校の入試ミス):1名)
 学生生活の満足度を高めることや離籍防止を念頭に置いた活動については概ね達成しており、従って評価出来るものとする。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

・学園祭において、LFAの学生を中心に学生主体で企画・運営できるよう支援した。

・初めて病院実習に臨む1年生を対象に「看護宣誓式」を企画・運営した。また、記念品として大学ロゴ入りトートバックを贈呈した。

・後期学生面談を実施した。成績不振者や希望者には、適宜面談を行った。

・学生生活満足度調査を実施した。看護学部学科および学生生活全体に対する満足感を満たすためには、「授業内容」、「就職・キャリア支援体制」、「自習室・自習スペース」、「教室設備」の満足度を高めることが有効であることが示唆された。また、学生生活の支援については、チューターと学生の関係性をさらに強化する必要があることが示唆された。

・第16回いわきサンシャインマラソンやいわき市該当献血キャンペーンにおける学生ボランティアを支援した。

・卒業時アンケート調査および学生満足度調査の結果から、学生支援に関する改善点を抽出し改善策について取りまとめた。改善項目は「学生と教職員との関係向上」であることが推察され、これらに対する取り組みを検討していくこととなった。

・看護学部学位記授与式を実施し、タイムスケジュール通りに滞りなく式を終えることができた。卒業生及び保護者から高い評価を得ることができた。

【取組に対する自己点検・評価】

4月1日現在の離籍率は1.9%であり、目標は達成している。看護学部の特徴として、臨地実習をきっかけに学業継続が困難になる傾向があることが推察される。また、修学意欲の低下による退学者もみられることから、学業支援やメンタルサポート体制の強化が必要である。学生満足度向上を目指し、学部全体で教員の教育力の向上や教員の流動性を防ぐための対策を検討していく必要がある。しかしながら、学生生活を念頭に置いた活動については概ね達成しており、従って評価出来るものとする。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

看護学部	実施責任者	学部長	樺山定美
------	-------	-----	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・教育課程レベル:在学時

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【GPA】 学年ごとの平均値 **1年生 2.62、2年生 2.62、3年生 2.94、4年生 2.94**
 【成績分布状況】 下位1/4に該当するGPAの値 **1年生 2.3、2年生 2.3、3年生 2.6、4年生 2.6**
 【修得単位数】 **必修科目の単位修得率 100%**

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

・1年生: 高校から大学教育への変化に対応できるように、教員による手厚い教育指導、教育環境を整えている。
 ・2年生: 授業における欠席者や授業態度も含め、気になる学生に対して早期発見できるよう支援体制の構築を行っている。離職や留年にもつながるため、運営員会・教授会で報告できるように構築している。
 ・3年生: 5月から12月まで隣地実習が続くため、心身ともに健康に気を付け、実習が実施できるように最新の注意を払っている。また、臨地実習でしか体験できない臨地実習指導も積極的に行っている。
 ・4年生: 卒業研究、統合実習などや、国家試験の合格が重要になる。その為、卒業研究の指導教員がチューターとなり、教育指導を一貫して実施している。

【取組に対する自己点検・評価】

・学習状況、ならびに教育評価や改善については、問題があれば運営委員会・教務委員会を通じて支援体制を実施している。また、気になる学生においては、Garoon(スペース)を活用しているため、早期に情報共有を図ることができている。この継続が学習支援につながりGPAの底上げにつながると考える。
 ・臨地実習に関しては、教員はもちろん病院スタッフの指導者が細やかに指導して頂き、学生は効果的な学習が実施できていると評価する。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

・1年生: 高校から大学教育への変化に対応できるように、教員による手厚い教育指導、教育環境を整えている。
 ・2年生: 授業における欠席者や授業態度も含め、気になる学生に対して早期発見できるよう支援体制の構築を行っている。離職や留年にもつながるため、運営員会・教授会で報告できるように構築している。
 ・3年生: 5月から12月まで隣地実習が続くため、心身ともに健康に気を付け、実習が実施できるように最新の注意を払っている。また、臨地実習でしか体験できない臨地実習指導も積極的に行っている。
 ・4年生: 卒業研究、統合実習などや、国家試験の合格が重要になる。その為、卒業研究の指導教員がチューターとなり、教育指導を一貫して実施している。

【取組に対する自己点検・評価】

後期は、各学年の特性に応じた支援体制を整備した。1年生には、高校から大学への移行を円滑にするため、図書館の学習センターの活用を促進し、手厚い教育指導と教育環境を提供した。2年生では、欠席や授業態度に課題が見られる学生を早期に発見し、離職や留年防止に向けた支援体制を教務委員会と学生生活委員会が連携して構築した(Garoon上のスペースを活用して情報共有を実施)。3年生は、長期にわたる臨地実習を安全かつ円滑に実施できるよう、実習委員会と学生生活委員会が連携し、各実習科目担当教員と共に心身の健康管理に努めた。4年生には、卒業研究や統合実習、さらには国家試験合格に向けて、特に国家試験対策委員会を中心に、指導教員が丁寧に教育支援を行った。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

看護学部	実施責任者	学部長	縦山定美
------	-------	-----	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・教育課程レベル:在学时

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【国家試験模試 外部模擬試験(看護師)】 受験率 100% 【国家試験模試 外部模擬試験(保健師)】 受験率 100%	R7.4月
--	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

(看護師:国家試験模試 外部模試試験)

・4年生を対象に外部模試も含め年間計画を作成している。各学生の得点推移を把握しながら、学習成果をチューターと共有しながら学習サポートを行っている。また、6月以降は成績が振るわない強化生について、学習できる環境を設定し、学習体制の強化を図り、出席確認や学習指導を随時行った。指導内容は、必修科目を最優先とし学生の苦手とする内容の強化を行い、学習の方法などアドバイスも行っている。

・9月までに5回の全国模試が実施され、必修科目40点以下の学生は第1回31名、第2回39名、第3回43名、第4回38名、第5回36名であった。

(保健師:国家試験模試 外部模試試験)

・保健師の模試として「第1回 ほけもし」が実施された。得点率が60%未満の学生が19名中5名であった。

【取組に対する自己点検・評価】

・国家試験模試において、昨年度より大幅に成果をあげており、必修は全国(134校)の順位も41位となっている。しかし、各模試によるばらつきが見られているため、看護師・保健師ともに、学力の向上が求められる。引き続き、チューターを活用しながら、学習指導の評価ならびに強化指導を行う必要がある。

・6月からキックオフとなった国家試験の年間計画に基づき、1年生から4年生の国家試験対策は順調に遂行されている。特に4年生の学習成果は今の所向上し続けており評価できる。今後も、強化生個々に対する学習評価・指導を行っていく必要がある。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【国家試験模試 外部模擬試験】

4年生の看護師の外部模擬試験は毎月(8月以外)実施し、計11回/年実施し、受験率は100%であった。また、保健師は学内国家試験模試1回、外部模擬試験は3回実施した。自己都合により保健師国家試験未受験を選択した学生(1名)を除き保健師の外部模試受験率は100%であった。また、1～3年生についても1回/年の看護師国家試験模擬試験を実施した。各模擬試験終了直後は自己採点結果を早期にフィードバックし国家試験対策アドバイスを提供した。分析結果は国家試験対策支援内容や方法の改善に役立てた。4年生に関しては、各種模擬試験の都度、成績不振者に対して個別面談を実施し、学生一人ひとりの現状を把握した上で、チューターとも連携し、学習意欲や成績向上を目指した支援とともに、メンタル面についても丁寧にサポートした。

【評価】

外部模擬試験の受験率は看護師国家試験および保健師国家試験ともに100%であったことから、学生自身が受験時の実力がわかる、成績の経過がわかる、弱点がわかる、試験に慣れることにつながったものと考えられる。その成果は、年度内に実施した模擬試験の結果で全国平均よりも高い結果であったことからもうかがえる。今後は評価指標を検討した上で、外部模擬試験の結果から学生ごとの学修状況を考察し、特に成績が振るわない学生を早期に抽出し、個別性に応じた支援方法を検討していきたい。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

看護学部	実施責任者	学部長	樺山定美
------	-------	-----	------

【2023年度自己点検・評価報告に基づく改善課題への取組み状況】

■改善課題及び改善指示

【改善課題】

入学定員充足率が目標値に達していません(100%に対し、47.5%)。また、国家試験合格率が目標値に達していません(100%に対し、85.5%)。

【改善指示】

学部内の様々な取組は積極的に行われていますが、入学定員充足率が目標に達していない現状を分析し、それに基づいた改善策を実施してください。また、留年率、離籍率が低いことから学生の学修意欲は比較的高く、教育内容も本学学生には適切であることが推察されます。しかし国家試験合格率は、全国レベルには達していないことから、国家試験対策の改善を行ってください。

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

・入学定員充足として、高大連携を活用し、福島県立いわき湯本高校ならびに福島県立いわき総合高校へ出張講義を行っている。いわき湯本高校においては、3年生を対象に、2024年4月～2025年1月まで毎週木曜日に2コマ授業を行い、看護の基礎となる授業を行いながら大学教育で看護を学ぶ意味も含め、大学教育として本学の魅力を伝えつつ講義を実践している。その他にも、いわき湯本高校では探求学習も含め、医療系大学を目指す学生1年生～2年生において課題探求授業を行っている。いわき総合高校は授業コマ数は少ないものの、2・3年生を対象に講義を実施している。
・オープンキャンパスや高校向けの出前講座においては、昨年度よりも創意工夫した内容を実施している。高校生へ向けて教員や本校の学生が積極的に声をかけて本学のアピールを実践している。
・国家試験対策は、年間計画通り対策を実施している。学生の成績推移も徐々に上昇してきている。(国試対策 参照)

【取組に対する自己点検・評価】

・高大連携、出前講座、オープンキャンパスなど、昨年度よりより積極的に本校の強みを伝えていけると考える。高校生のニーズをさらに把握して、積極的なアプローチを行っていく必要がある。また、看護学部の弱みは、国家試験の合格率が全国平均より低いため今年度の結果を良いものにする必要がある。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

オープンキャンパスの内容を創意工夫し、特に在学生との交流を通して、看護学部を身近に思ってもらえるようなプログラムを実施した。また、高大連携事業の継続、高校生を対象とした出前講座、地元の小学生および保護者の大学見学、公開シンポジウムなど様々な機会を設けて、看護学部について広く知っていただき、関心を持っていただくことを目指した広報活動に取り組んだ。国家試験対策については、年間計画に準じて支援しつつ、毎月実施した模擬試験結果を詳細に分析し、状況に応じて柔軟に支援内容や方法を修正した。特に成績低迷者に対しては、チューターと協働し、大学で学習することを習慣化させ手厚くサポートした。結果、1月の看護師全国模擬試験では必修40点未満が5名、165点未満は9名で、昨年度よりも合格率が大きく上昇することが推察された。保健師国家試験対策では、公衆衛生看護学の教員が追加で国家試験に関する集中講義を行うなど丁寧に支援を行った。

【取組に対する自己点検・評価】

2025年度の入学者は42名で昨年度より4名の増加であった。しかし、入学定員充足率は76%であり、数値目標には達しなかった。引き続き、広報活動を充実・強化するとともに、時代に応じた教育内容や方法を検討していく必要がある。看護師国家試験合格率89.6%、保健師国家試験合格率95%で、看護師国家意見合格率は全国の合格率(95.9%)よりも低値であり、国家試験対策支援を強化が必要である。国家試験終了後の学生アンケート結果から、4年生の4月から本格的な学習に取り組んだ学生は不合格者である確率が低いことが明らかとなった。そのため、低学年からの国家試験対策をさらに充実させ、早くから国家試験対策の必要性を認識させる必要がある。また、国家試験結果から、大学での自己学習における出席率が高かった成績低迷者は概ね合格ラインにいたと考えられ、大学において学習する意義があるため継続していきたい。さらに、不合格者はメンタルコントロールが十分ではなかったことが推察されたことから、メンタルサポートの充実を図る。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

健康医療科学部	実施責任者	学部長	古川勉寛
---------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

・入学定員充足率を100%にする。補佐的に志願倍率、合格率、歩留率を設定する。今後、福島県の18歳人口が減少していくことから、福島県内の入学者数を確保した上で、県外からの入学者数を増やす。

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・遠隔広報(動画、DM、HP、SNS、WEB版オープンキャンパス)
- ・対面広報(オープンキャンパス、高校ガイダンス、進学ガイダンス、高校訪問、高大連携、中学生向けガイダンス)

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【入学定員充足率】 100%	R7.4月
-----------------------	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

[理学療法学科] 大学HPの内容を拡充するとともに、HP内「今日の大学」や学科SNSを活用し、学科の活動などを頻繁に発信した。オープンキャンパスでは、参加者を対象にしたアンケート結果に基づき、参加者が学生や教員と直接話することができる時間を確保した。また、月に1回、指定校に対して、学科の活動をまとめたDMを郵送し、指定校推薦入試の志願者確保を図った。その他、福島県および隣県の高校に高校訪問を行い、ガイダンスや模擬講義を実施した。

[作業療法学科] 大学HPに「県内唯一のWFOT認定校」となったことを追記し、1期生の働く様子の紹介や「県内就職率」などの就職情報を拡充するとともに、学科SNSで取り組みを発信した。オープンキャンパスでは高校生の興味を喚起する体験型のプログラムも充実させた。また、福島県および隣県(茨城、新潟、宮城)の高校を訪問し、ガイダンスや模擬講義を通して作業療法の独自性や仕事の魅力を伝達した。

【取組に対する自己点検・評価】

[理学療法学科] オープンキャンパスのアンケート結果より、大学HPを閲覧している参加者が多いことを確認でき、HPを利用した情報発信が有効である可能性が考えられた。高校訪問や模擬講義等を実施した高校の参加者が多く、一定の効果があつたと考える。今後、指定校推薦入試の受験者を増やすために検討を重ね、受験者の動向を見て効果検証をしていく。

[作業療法学科] 各種SNSの登録者数、フォロワー数が増えておらず、今後コンテンツの見直しや掲載頻度の増加を進めなければならない。また、指定校の進路指導担当教員に対し、認知度向上に向けたDMの郵送やその他の方略の検討が必要である。その他、今後の入試の出願状況を参考に効果を検討する必要がある。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

[理学療法学科] 前期より継続して広報活動を実施した。具体的には、HP内「キャンパスレポート」や学科SNSを活用した学科の活動の発信、月に1度の指定校に対するDMの郵送を実施した。また、模擬講義やガイダンスは可能な限り対応した。今後の広報への活用を目指し、いわきFCとの取り組みについて、先方と協議を行い、その発信方法を決定した。加えて、世界理学療法連盟の教育認証評価を受審し、日本初となる認証取得による学科の認知度向上を目指し活動した。

[作業療法学科] 国際交流場面や地域貢献等の取り組みを学科SNSで発信した。オープンキャンパスでは高校生の興味を喚起する体験型のプログラムも充実させた。また、ガイダンスや模擬講義への参加も積極的に引き受け作業療法の独自性や仕事の魅力を伝達した。

【取組に対する自己点検・評価】

[理学療法学科] 46名の入学者であり、令和6年度の40名以上の獲得ができたものの数値目標を達成することはできなかった。入試の出願状況、新入生に対するアンケート等により、広報活動の効果判定を実施し、継続したより効果的な広報活動の実施を目指す。

[作業療法学科] 14名の入学者であり、数値目標を達成することができなかった。前期と同様に、各種SNSの登録者数、フォロワー数が増えておらず、新たな企画(認知症サポーター養成講座や認知症カフェの開催、農協などの学外機関との連携等)を広報するなど、さらなるコンテンツの見直しや掲載頻度の増加を進めなければならない。また継続課題として、指定校の進路指導担当教員に対し、認知度向上に向けたDMの郵送やその他の方略の検討が必要である。その他、学部統合に向けたアンケート調査で定員枠を超えた希望があり、今後の広報活動を通じて確実に出願につなげるよう確実に働きかけていく必要がある。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

健康医療科学部	実施責任者	学部長	古川勉寛
---------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う
- ・質保証サイクルを実質化する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していく
- ・達成度評価のに基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【就職率】 100% ※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。	R7.4月
---	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】*10/9現在

就職内定者率:理学療法学科44.6%、作業療法学科40.9%

就職内定者数:理学療法学科30人(就職希望者65人中)、作業療法学科9人(就職希望者22人中)

以下の通り、就職活動の支援を行った。

4月:第1回求人説明会開催(Zoom)(参加施設数:16施設)

7月:第2回求人説明会(対面:本学会場)(参加人数80人、参加施設数:45施設、参加学生数:OT22、PT63)

9月:第4回以降の求人説明会は学生の就職希望先がほぼ確定していることから中止

その他、4年生個人に対してチューター教員による徹底した就職相談を実施するとともに、葵会グループへの就職をつなげるため、学生からの相談があった場合は随時葵会グループの病院、施設を紹介した。

【取組に対する自己点検・評価】

昨年度の同時期と比較すると、現時点での就職率は理学療法学科44.6%(昨年同時期51.8%;就職希望者56名)、作業療法学科40.9%(昨年同時期69%;就職希望者29名)と低くなっているが、就職率の決定は最終的には来年2~3月頃であることを鑑みると、高い水準であると考えている。この背景には、前述したチューター教員の役割明確化の影響が大きく、就職活動全体として順調に進捗しているものと評価できる。これまでの学生の動向から、未内定の学生のほとんどが10~12月にかけて面接試験等の予定があることを確認している。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

1. 就職率:理学療法学科 100%、作業療法学科 100%

2. 就職者数:理学療法学科は、58人(就職希望者 58人中)が内定を決めた。4人は国家試験終了後に就職活動を開始し、3名が3月中に内定、1名は進路変更を希望し就職辞退となった。作業療法学科では就職希望者16人全員が内定を決めた。

3. 取り組みの内容

12月:作業・理学療法学科 コミュニケーション講座(1年生対象:作業14人、理学39人参加)

3月:作業・理学療法学科合同履歴書の書き方講座(3年生対象:作業26人、理学59人参加)

作業療法学科・理学療法学科ともに4年生に対する求人説明会は、参加希望学生がいないため8月以降中止した。チューター教員による個別の就職支援活動は継続して実施した。

【取り組みに対する自己点検・評価】

就職率については、国家試験合格後に就職活動を開始した学生がいたものの、最終的に理学療法学科、作業療法学科ともに100%となった。この要因としては、チューター毎による個別の徹底した就職支援活動の効果であると評価できる。また、2月の国家試験までに就職内定が決まらない学生が理学療法学科・作業療法学科にそれぞれいたが、就職担当教員と情報を共有しながら焦らず就職先を見つけることができており、全体として、順調な就職活動であったと評価できる。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

健康医療科学部	実施責任者	学部長	古川勉寛
---------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う
- ・質保証サイクルを実質化する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していく
- ・達成度評価のに基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【国家試験合格率】 100% ※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。	R7.4月
---	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

4年次の学外実習終了後、7/2に第1回目の国家試験オリエンテーションを開始し、これまでに学習スケジュールや学習方法について計4回のオリエンテーションを実施した。毎日の学習スケジュールとして、国家試験対策本の1日あたりのページ割りを作成するとともに、全4年生を対象とした特別講義(生理学セミナー、筋骨格系セミナー)を開催した。また外部模試における成績不良学生を対象とした居残り学習による学習支援を継続した。学習スケジュールには、グループワークを円滑に進めるためのチームビルディングを目的としたソーシャルアクティビティ、ストレス発散を目的としたフィジカルアクティビティ、各グループのリーダーから学習状況を聴取するリーダーミーティング、オンラインドリルを使用した1週間の学習範囲のオンラインテストを組み込み、多面的に学年全体の管理を行なった。7/27、28には国家試験対策教員セミナーに国試対策学部リーダー2名が参加し、研修内容について学部FDを行うとともに学生に伝達した。

その他、早期からの国家試験対策として、1年生から4年生を対象にした学部統一模擬試験を実施し、国家試験に対する意識付けを行うとともに、得意分野、苦手分野などのフィードバックを行なった。

【取組に対する自己点検・評価】

学習スケジュールの提示により、学習の進捗は良好に管理されている。成績不良学生に対する居残り学習の内容についても、昨年度と比較し今年度は国家試験対策教員セミナーにて紹介されたペア学習を早期に導入することで、充実が図れていると考える。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

11月までの期間、4年生全員に対しフィジカル・ソーシャルアクティビティプログラムを提供し、ストレスマネジメントを行った。12月からは、模擬試験にて合格点に満たない学生に対して授業時間外を利用した教員との口頭試問の時間を設け、個別での学習サポートを2月まで継続した。また遅出出勤の教員を配置し、学内で夜間まで学習している学生のサポートを行うとともに、教員立ち会いのもと土曜日登校を促し学習時間を延ばした。6回の模擬試験を分析し、学生アンケートと模試の得点率が低い領域について教員からの特別講義(発達、心電図、神経系、生理学、装具学)を実施した。国家試験直前まで週に1度リハドリルを用いた小テストを実施し、オンライン上で随時学習状況を把握した。国家試験対策本の繰り返し学習を推奨し、反復回数が規定の回数に満たない学生に対して面談を行った。理学療法/作業療法セミナーIIでは、本試験と再試験を実施し、合格点に満たない学生(PT学科2名、OT学科1名)は留年として復習の機会を設けた。

【取組に対する自己点検・評価】

国家試験合格率は、自己採点の段階であるが以下の通りである。

[理学療法学科]93.4%であり、数値目標の100%には到達しなかった。国家試験直前の外部模試では学内平均が全国平均まで届くようになった。今後は早期より全国平均を目標に国家試験対策を実施していく。

[作業療法学科]81.0%であり、数値目標の100%には到達しなかった。

今回の結果を分析した結果をもとに、両学科ともにより早期に躓いている学生を特定し個別介入を開始する必要がある。また成績不振学生の抽出基準をより厳格化することが効果的と考えられる。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

健康医療科学部	実施責任者	学部長	古川勉寛
---------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う
- ・質保証サイクルを実質化する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していく
- ・達成度評価のに基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【留年率】 5.3% ※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。	R7.4月
---	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

全学年を対象に授業態度や出席状況が不良な学生に対する声かけや面談などの対応、成績不良者への声掛けや面談などの対応を実施した。また、学生の学習効果や学生への過度な負担を考慮し、試験日程が重複しないよう科目間でスケジュール調整を実施した。授業の質を向上させるために、学生からの「授業改善アンケート」に基づき科目ごとに課題点・改善案を分析した。1年次科目で学習支援が多く必要となる専門基礎科目(解剖学、生理学)では、モジュラーシステムを昨年度より引き続き導入し、継続した学生支援を図った。また、理学療法学科1年次には学生間の繋がりを強化することを目的に、学生間交流を持つ機会を授業時間外に設けて定期的に実施した。

【取組に対する自己点検・評価】

前期科目の「人体の構造Ⅰ」「人体の構造Ⅱ」「人体の機能Ⅰ」に対しモジュラーシステムを導入し、2回目の期末試験の合格者は約60%、平均点も1回目より約10点向上し、取り組みとしての成果をあげることができた。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

前期から引き続き、全学年を対象に授業態度や出席状況が不良な学生に対する対応、成績不良の学生への対応、試験日程の調整を実施した。また、モジュラーシステムを採用する科目は4科目とし、期末試験を不合格となった学生に対して学習支援プログラムを実施し、再試験前に科目担当者によるフィードバックを実施した。

[理学療法学科]1年生:0%(留年なし)、2年生:3.6%(2名留年)、3年生:4.8%(3名留年)、4年生:1.6%(1名留年)

[作業療法学科]1年生:0%(留年なし)、2年生:4.8%(1名留年)、3年生:7.1%(2名留年、うち1名は休学)、4年生:4.5%(1名留年)

【取組に対する自己点検・評価】

[理学療法学科]1年生は留年なく全員進級となった。2年生は2名留年となった。3年生は3名留年となった。4年生については1名留年であった。個別の学生には面談を継続し、メンタル面のケアを行った結果、離席とはならず留年に留まったと考える。学科としては、目標数値を達成していることから、取り組みには一定の効果を認めるものの、学科、各学年毎に対応を実施する必要があると考える。

[作業療法学科]1年生以外の学年で1~2名の留年者があった。再試験となった学生にはチューターが個別に面談し、本試験時の学習状況の確認と再試験までの学習計画を立てた。一部の学生が合格点に至らなかったことから、出来るだけ早い段階で効果的に学習できているかを確認し、指導していく必要がある。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

健康医療科学部	実施責任者	学部長	古川勉寛
---------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

・調査結果を活かした環境改善、各種支援の強化等により、学生満足度を70%を達成する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

・教職協働、学部横断による学生満足度調査内容の見直し ・検討された支援方策や改善内容について、学生に向けた適切な情報の公表 ・学生の心理面への調査検討、および実施	・各調査結果に基づく支援の検討、環境改善 ・教育指導 ・大学と保護者の情報共有を促進し、学生支援の連携を図るため調査を実施
---	---

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【離籍率】 3.0% ※アセスメントプランに基づくチェック項目(退学率)と一致。	R7.4月
--	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

チューターガイドラインに準じて、チューター面談を実施し、C・Dと評価された学生に対して、チューターおよび学科主任、学部長補佐との三者面談を行うとともに、その結果を学部長に随時報告した。学業不振、出席率の低い学生については学科内で共有し、学部長、学部長補佐、学科主任、学年主任と情報共有を図り、学生支援に役立てた。また、出席率の低い学生や再試験対象者に対し、学年主任および学部長との三者面談を実施し、学生の状況を確認するとともに学生指導を行った。GPAが低い学生や留年、離籍リスクが高い学生に対しては、週ごとに定期的な個別の学習支援を実施した。心身的な問題を抱えている学生に対して、保健管理センターやユニバーサルデザインセンターを利用し支援を継続した。

理学療法学科では、正規授業時間外に設けたクラスルームを導入し、講義内容の復習、臨床実習に向けた実技練習を行い、学年全体の学習支援の強化を図った。

【取組に対する自己点検・評価】

些細な状況変化に対して情報共有を徹底し、早期に面談を実施することで学生の学習・生活状況の把握に努めている。理学療法学科では、今年度から定期的な個別の学習支援を開始し、継続して実施している。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

[理学療法学科]1年7.3%(3/41名)、2年9.1%(5/55名)、3年8.1%(5/62名)、4年3.2%(2/63名)、学科全体6.8%

[作業療法学科]1年23.5%(4/17名)、2年0%(0/21名)、3年0%(0/28名)、4年0%(0/22名)、学科全体4.5%

学生生活委員会のガイドラインに従い、各種面談の実施、教員間で注意を要する学生情報の共有に努めた。加えて、専任教員と学年主任を中心とした学習支援を毎週実施した。理学療法学科では、授業時間外のクラスルームや短期留学生など、学生のモチベーション維持に努めた。作業療法学科では短期留学生受け入れの他、学年をまたいだ活動・交流を行い、将来像の確立やモチベーション維持に努めた。

【取組に対する自己点検・評価】

[理学療法学科]学生サポート専任の教員を設け、体系的に学習支援の仕組みを運用をスタートさせたことは評価できると考える。一方で、クラスルームや短期留学などのイベントや個別支援を実施したものの、金銭面の問題や精神的な問題、学業の問題により離席につながる学生が多い傾向があった。教員間で情報を共有し、学生ごとの学習支援を行なっているが十分な効果は得られなかった。学業の関するサポートのほか、情意面に対する指導を行っていく必要がある。

[作業療法学科]教育歴が豊富な教員が増えたこともあり、全体に学習の定着が改善した印象がある。また、1年生の学習支援や学年間の交流の機会を増やしたことは、上下両方の学年により緊張感をもたらし、授業時間外の交流にもつながった。課題として、今年度の離席は主に学業不振によるものであった。これまでの学習状況の経過を個別に把握し、課題に合わせた指導をしなければならない。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

健康医療科学部	実施責任者	学部長	古川勉寛
---------	-------	-----	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・教育課程レベル:在学時

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【GPA】 学年ごとの平均値 **2.5**
 【成績分布状況】 下位1/4に該当するGPAの値 **2.0**
 【修得単位数】 必修科目の単位修得率 **95%**

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

全学年を対象に成績が向上するよう、成績不良の学生に対する学習支援を継続した。

【取組に対する自己点検・評価】

GPA結果が出ていないものの、成績の目標を達成するための取り組みは実施できたと考える。今後GPAの結果を元に再度評価を実施したいと考えている。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

[理学療法学科]1年生の平均値は2.25、2年生の平均値は1.92、3年生の平均値は2.68であった。成績分布状況として、1年生は1.79、2年生は1.4、3年生は1.9であった。必修科目の単位修得率は95%であった。
 [作業療法学科]GPA平均値は1年生:1.96、2年生:2.29、3年生2.79。下位1/4に該当するGPAの値は1年生は1.1、2年生は1.7、3年生は1.9であった。必修科目の単位修得率は91%であった。

【取組に対する自己点検・評価】

[理学療法学科]必修科目の単位修得率が目的を達成できたことは進級にも表れていると感じる。ただ、GPAおよび下位1/4学生の平均GPAの値が目標に達しなかったことは、学生への教育方法を改める可能性があると感じている。学習支援体制の強化や、下位層への学習サポートを充実したものにしていくことで底上げを実施し、全体的な学習状況を改善していく必要があると考える。
 [作業療法学科]3年生の平均GPAのみ目標値に届いたものの、それ以外は目標に満たなかった。特に、1年生の下位1/4の成績が伸びなかった。後期の取組としては、各学年の段階に応じ、全体に学習へのモチベーションを持たせるような工夫を行った。また、上級生の一部の試験においては5択の問題を減らし、記述の回答を求めることで知識の精緻化を目指した。想定以上に学生たちはしっかりと取組み、一定の成果を挙げたと考えている。次年度は1～2年生にもこのような取組を進めていきたい。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

健康医療科学部	実施責任者	学部長	古川勉寛
---------	-------	-----	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・教育課程レベル:在学時

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【国家試験模試 外部模擬試験】 受験率 100%(4年生)	R7.4月
--------------------------------------	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

9/3に4年生全員を対象とし、第1回目の外部模試(医歯薬模試)を実施した。今後は、10/28(三輪模試)、11/22(アイベック模試)、12/2(医歯薬模試)、1/6(三輪模試)、1/23(医歯薬模試)、2/4(アイベック模試)を予定している。

【取組に対する自己点検・評価】

9/3(火)第1回医歯薬模試受験率 理学療法学科:100%、作業療法学科:100%

平均点 理学療法学科:125±25点、作業療法学科:125.3±21

国家試験対策における外部模試の重要性を学生に周知し100%の受験率となった。

外部模試終了後、学生が模試の振り返りを行い、自らの学習結果の振り返りと今後の対策を考える機会を設けている。また、模試結果の分析を行い、教員から学生へのフィードバックと成績不良者への面談などを定期的実施している。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

受験対象者において、下記6回の外部模試受験率は理学療法学科100%、作業療法学科100%であった。(①第1回三輪模試10/28、②第1回アイベック全国公開模試11/22、③第2回医歯薬模試12/2、④第2回三輪模試1/6、⑤第3回医歯薬模試1/23、⑥第4回アイベック全国公開模試2/3) 前期より継続した国家試験対策を行い、それぞれの平均点は、理学療法学科が①107点、②145点、③141点、④142点、⑤168点、⑥202点、作業療法学科が①105点、②127点、③143点、④137点、⑤163点、⑥173点であった。各模試の終了後に、模試の結果を分析した上で、教員から学生へフィードバックを行い、国家試験対策の学修成果を評価し、学修支援に繋げた。特に、模試の分析結果より導かれた成績不良者に対しては、特別なサポートを行なった。

【取組に対する自己点検・評価】

外部模試の受験率は両学科ともに100%となり、教育経過の可否化を継続することができた。学部にて評価指標を検討した上で、外部模試の結果から学生ごとの学修状況を評価し、特に成績不振の学生を早期に抽出、支援に役立てていく。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

健康医療科学部	実施責任者	学部長	古川勉寛
---------	-------	-----	------

【2023年度自己点検・評価報告に基づく改善課題への取組み状況】

■改善課題及び改善指示

【改善課題】

入学定員充足率が目標値に達していません(PT:100%に対し、66.7%、OT:100%に対し、37.5%)。

【改善指示】

オープンキャンパスやSNSを利用した広報活動などの取組は積極的に行われていますが、入学定員充足率の向上に結びついていない現状を詳細に分析し、その結果に基づいた改善策を実施してください。

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

[理学療法学科]過去の入試種別の入学者数を分析し、今年度の入学者が大きく減少した原因は、指定校推薦入試の出願者数が減少したことと考えた。そこで、指定校推薦入試の出願者数を増やすことを目的に、今年度から指定校の高校訪問を開始した。訪問時には、本学科の教育の特色などを説明した。また、全ての指定校に対して、月に一度、学科の取り組みを紹介するダイレクトメールを郵送し、認知度の向上に努めた。

[作業療法学科]学科で運用しているSNSの更新頻度がバラついており、特にYouTubeの最新更新日が9か月前など、一部のコンテンツが更新されておらず、十分な情報発信ができなかった。

[学部]国際交流委員会を設置して、活発な国際交流活動を行い、海外留学ができない学生であっても気軽に参加できる取り組みを行うとともに、国際交流の取り組みを外部に発信した。

【取組に対する自己点検・評価】

[理学療法学科]指定校推薦入試の出願はまだ開始されていないため、現時点では取り組みの効果を評価することはできない。しかし、今後、高校訪問を行った学校を中心に、指定校推薦入試の出願者数を確認する必要がある。また、訪問時の説明内容や訪問先の選定についても再検討し、より良い効果を上げられるよう戦略を立案する必要がある。

[作業療法学科]コンテンツの見直しや、掲載頻度の向上などフォロワー数向上に向けた取り組みに課題がある。また、指定校の進路指導担当教員への認知度向上のためにダイレクトメールを郵送するなど広報活動の検討が必要である。その他、今後の入試の出願状況を参考に効果を検討する必要がある。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

[理学療法学科]世界理学療法連盟の教育認証評価を受審することによる教育・研究の質の向上、シンガポール短期留学プログラムや短期留学生の受け入れなどの積極的な国際交流活動を通じて、学科の特色を創出し、より効果的な広報につなげるための取り組みを実施した。

[作業療法学科]学科のSNS等の掲載頻度は毎月を更新されるよう取り組みを強化したが、YouTubeのコンテンツ作成に遅滞があるなど一部のコンテンツの作成リテラシーを向上できず、情報発信の広がりや欠いていた。

【取組に対する自己点検・評価】

[理学療法学科]昨年度と比較して出願数は増加しており、一定の効果があつたと考えられる。また、今後は入学者の状況を分析し、効果的な広報活動の指針を立案することが必要である。

[作業療法学科]昨年度と比較して、入学者は横ばいであり、さらなる募集戦略を進める必要がある。また、学部統合に向けたアンケート調査で定員枠を超えた希望があり、今後の広報活動を通じて確実に出願につなげるよう確実に働きかけていく必要がある。具体的には、アンケート対象校を中心に、高校訪問の早期実施や活動量の強化をし募集につなげていく。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

心理学部	実施責任者	学部長	大原貴弘
------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

・入学定員充足率を100%にする。補佐的に志願倍率、合格率、歩留率を設定する。今後、福島県の18歳人口が減少していくことから、福島県内の入学者数を確保した上で、県外からの入学者数を増やす。

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・遠隔広報(動画、DM、HP、SNS、WEB版オープンキャンパス)
- ・対面広報(オープンキャンパス、高校ガイダンス、進学ガイダンス、高校訪問、高大連携、中学生向けガイダンス)

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【入学定員充足率】 100%	R7.4月
-----------------------	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ①出前講座等について 今年度は、出前講座・出張講座のちらしを更新した。高校生相手の出前講座・模擬講義は4件、中学・高校の保護者や教員を対象とした出張講座は9件、企業等の依頼による出張講座は3件、学科ガイダンスや進路ガイダンスは2件であった。
- ②学部講演会について 9月21日に学部の無料講演会を実施した。高校生の参加はなかったものの、地元教育関係者からの参加が複数みられたことから、受験者の増加に直結する業務ではないものの、将来的な地元高校生の受験機会を増やす種まきにつながると考え、来年度以降も実施を検討する。
- ③オープンキャンパスについて 今年度のOCの来場記念のマスキングテープのデザインを3種類提供した。来場者からはおおむね好評を得られた。リピーターを増やす施策として、今年度はウソ発見器を毎回実施したり、次回の参加を促すためにマスキングテープの宣伝を行った。

【取組に対する自己点検・評価】

- ①OC参加者 高校3年生のOC参加者は、44名(昨年度55名)であった。地域別にみると、福島県内は22名(昨年度25名)と大きく変更はないが、茨城・山形・宮城の近接領域で7名(昨年度19名)と大幅に減少している。1・2年生は43名(昨年度49名)と微減にとどまっている。参加者減少は、マイナスの評価といえる。
- ②出前講座等 企業や保護者を対象とした出張講座は年々増加傾向にある。地元等に心理学部の知名度アップにつながったと言える。出前講座や学科ガイダンスで対応した高校生が、今年のOCに参加した例がみられた。後期に増加する高校1・2年生向けの出前講座などに積極的に参加し、来年度のOC参加を促すような取り組みの有効性が示唆される。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- ①受験者数 総合型選抜・学校推薦型選抜受験者(27名)一般1期・共通利用1期の受験者(17名)と、とくに前期入試の受験者数が昨年度よりも減少しており、一般・共通利用者の合格者の歩留まりにもよるが、入学定員充足率は70～80%の達成となる見込みである。入学定員100%の達成は難しい。
- ②2025年度入学学生に対する主な広報活動は前期で終了し、次年度に向けての広報活動がメインとなった。10月以降は、高校生向けの出前講座6件、高校の教員や保護者などを対象とした出張講座9件、学科・進学ガイダンス8件(うち3件はオンライン)、大学見学会は3件の担当があった。学科ガイダンスのうち、学科教員で対応できなかったものが4件であった。

【取組に対する自己点検・評価】

- ①受験者数とOC参加者の状況 総合型選抜・学校推薦型選抜受験者(27名)のうち、OC参加者は20名であった。一般1期・共通利用1期の受験者(17名)のうち、OC参加者は2名であった。OC参加者(高校3年生)42名のうち、20名は受験につながらなかった。昨年度に比べると、OCに来場しつつも受験につながらなかった学生が増加している。アンケートの結果、満足度は低くないことから、「楽しいOC」から「卒業後の進路などを見据えたOC」へのシフトが必要であることが示唆される。
- ②出前講座等 企業や高校の教員・保護者を対象とした出張講座の増加により、知名度のアップにつながったと言える。とくに1・2年生を対象とした学科ガイダンスが増加傾向にある。ガイダンスに参加した高校生に3年次のOCへの参加を促す取り組みを加え、3月以降のOCに該当する高校生の来場がどのくらい増えるのかを確認し、次年度以降の検討材料とする。
- ③新学部設立にあたり、心理学科が見えにくくなる可能性がある。アピールの手法について事務などと協力する体制が求められる。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

心理学部	実施責任者	学部長	大原貴弘
------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う
- ・質保証サイクルを実質化する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していく
- ・達成度評価のに基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【就職率】 100% ※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。	R7.4月
---	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

(1) 9月現在の状況と目標達成についての予測

就職希望者における内定取得率 88.5%

内訳 公務員志望を含む就職希望者 26名 公務員合格を含む内定取得者 23名 内定未取得者数 3名

他 進学 希望者数9名 進学先決定者 8名 進学先決定率 88.9% 卒業目標およびその他 5名

現状の内定取得率は、全国平均94.2%、関東・近畿・中部地方以外で93.3%である。これらと比較すると内定取得率は低いといえる。しかし、地方では就職活動の開始、ならびに企業側の採用活動開始時期も遅い傾向にあることを踏まえると、また、就職希望者で内定取得に至っていない学生数も3名であり、今後の支援により目標数値達成の可能性は高いと考えられる

(2) 取り組みの内容

4年生については、就職担当者からゼミ担当教員の支援依頼およびハローワーク活用の呼びかけを行っている。また、進路未決定のゼミ教員と頻繁に学生情報の共有を実施している。

3年生については、キャリアデザイン2およびキャリアデザイン総合演習1の授業で、就職活動、進学と進路希望に応じて具体的な準備(エントリーシートのブラッシュアップ、面接対策など)を実施しているところである。

【取組に対する自己点検・評価】

4年生の就職内定率や進学先決定率の数値から、現在の取組は有効に機能していると判断している。3年生についても就職環境が大きく変化しないかぎり現状の支援方法は有効だと思われる。今後は、(株)リクルートの担当者と連絡を取りながら、就職環境が変化した場合の対応策をあらかじめ考えておく必要があると思われる。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

(1) 3月末の状況(実績)

就職希望者における就職先決定率 100%

内訳 公務員志望を含む就職希望者 26名 うち就職決定者数 26名

進学希望者 9名 うち進学決定者 9名

卒業目標およびその他進路志望者 5名

就職希望者全員が就職先を決定したことから数値目標は達成した。

(2) 取り組みの内容

4年生については、就職支援担当者からゼミ担当者へ進路活動(就活、進学)サポートを依頼し、ゼミ単位で悩んでいる、行き詰っている学生への支援、例えば、民間企業への就職活動の場合、学生に適したツール、たとえばハロー卒の活用などのアドバイスを行ってきた。

3年生についてはキャリアデザイン2やキャリアデザイン総合1の授業において、進路活動に必要な準備、エントリーシートの作成や面接への準備のための模擬面接の実施など実施してきた。

【取組に対する自己点検・評価】

4年生について数値目標を達成しており支援の効果が認められたと推測できる。このため、支援の取り組みが適切であったと評価する。3年生についてもすでに内々定を取得した学生がいることから、現時点での取り組みに一定の効果があったと考えられる。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

心理学部	実施責任者	学部長	大原貴弘
------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う
- ・質保証サイクルを実質化する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していく
- ・達成度評価のに基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【国家試験合格率】 ※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。 心理学検定合格率 受験科目の70%以上	R7.4月
---	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】心理学検定の合格に向けては学生に対して、希望者に向けては勉強指導を行っている。

【取組に対する自己点検・評価】

心理学検定受験者23名のうち、特一級合格者は5名、1級合格者は12名、2級合格者は2名であった。
 特一級合格はA領域5科目+B領域5科目のすべてに合格しており、1級合格者はA領域+B領域のうち8科目合格しており、2級合格者は5科目合格した。受験者で見るとA領域のみの受験者が10名、B領域の受験者が12名、A+B領域の受験者が8名であることから、73.9%が受験科目7割以上を合格していた。つまり、数値目標は達成されたと考えられる。
 一方で、受験者のうち認定がされなかった4名も、いくつかの領域は合格しており、十分な成果は見られていると考えられる。今後、心理学検定の問題で質問等がある場合には、適宜対応していく。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

2024年度8月期の心理学の受験結果は、特1級2名、1級4名、2級2名、認定なし1名であった。したがって、受験者の88.8%が合格していた。したがって、数値目標は達成されたと考えられる。

【取組に対する自己点検・評価】

従来は、大学院進学希望者によって心理学検定の受験者が20名前後であったが、大学院進学希望者の低下に伴い、受験者も減少している。したがって、心理学検定の受験によって得られるメリットを周知徹底し、心理学検定の受験者の増加を見込みたい。また、心理学検定受験者が各個人で勉強を実施しており、勉強の指導の確保が出来ていないことから、自学自習用の参考書等を充実させ、学生の自学自習に向けた環境整備を実施する必要がある。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

心理学部	実施責任者	学部長	大原貴弘
------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う
- ・質保証サイクルを実質化する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していく
- ・達成度評価のに基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【留年率】 5.3% ※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。	R7.4月
---	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

(1) 現状

在籍者数168名(1年38名、2年51名、3年40名、4年39名)のうち、今期の留年者1名であった。留年率0.60%となる。
このまま推移すると、数値目標は達成できる見込である。

(2) 取組の内容

心理学部の進級判定は基本的に総修得単位数を基準としている(3年次への進級では、これに加えて基礎演習1、2の単位取得が求められる)。こうした背景から、これまでの留年した学生の行動からすると、留年に至るまでに、授業欠席が嵩む、レポート等提出物の未提出、試験の放棄が重なったケースがほとんどである。そこで取組としては、月に一度開催される学年主任連絡会で授業態度についての学生情報を収集し、必要ならばチューターに対応をとるようお願いすることを行っている。また、半期に1度実施しているチューター面談においても、成績を確認し、履修計画を修正するなどの指導を実施している。

【取組に対する自己点検・評価】

実績の数値からすると、留年防止の取組は有効に機能していると判断できる。ただし、これまでの留年と異なるケースが出てくる可能性も考えられるため、学生の行動を丹念に観察し、行動を分析することを継続していく必要もあると考えられる。これについては、学年主任連絡会で話題として取り上げ、学生の状況をモニターしていく。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

(1) 現状

在籍者数168名(1年生38名、2年生51名、3年生39名、4年生40名、10月1日現在)のうち、今期の留年者は2名であり、留年率は、1.2%となる。前の期と合計すると、留年者3名であり、通算留年率は、1.8%であり、数値目標は達成している。

(2) 取り組みの内容

月に1度定例で開催される学年主任連絡会の構成員が各学年のチューターから情報提供を受け、それを集約し、留年につながりそうな行動をとっている学生がいないかチェックしている。その上で、教授会で情報を提供し、できる限り事前に学生へのアドバイス、指導を行う取り組みを実施してきた。また、半期に1度実施しているチュー他面談において、チューターが学生の成績を確認しながら、留年しないよう指導を行っている。

【取組に対する自己点検・評価】

実績値から判断すると留年防止の取り組みは有効に機能していると判断できる。今後も学生の行動、成績をチューターおよび学年主任、さらに学年主任連絡会でモニターしながら留年防止に努めていく。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

心理学部	実施責任者	学部長	大原貴弘
------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

・調査結果を活かした環境改善、各種支援の強化等により、学生満足度を70%を達成する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

・教職協働、学部横断による学生満足度調査内容の見直し ・検討された支援方策や改善内容について、学生に向けた適切な情報の公表 ・学生の心理面への調査検討、および実施	・各調査結果に基づく支援の検討、環境改善 ・教育指導 ・大学と保護者の情報共有を促進し、学生支援の連携を図るため調査を実施
---	---

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【離籍率】 3.0% ※アセスメントプランに基づくチェック項目(退学率)と一致。	R7.4月
--	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】 (1) 現状 在籍者数168名(1年38名、2年51名、3年40名、4年39名)であり、今期の退学者は1名であった。したがって、離籍率は0.595%となる。現状では、数値目標達成は可能と予想される。 (2) 取組の内容 学年主任連絡会を月に一度開催し、要注意学生や要支援学生についての情報を交換し、それを教授会にてアナウンスし、情報を共有している。加えて、学年主任連絡会開催前の週に、学年主任から授業担当者へ情報提供を呼びかけている。また、前後期に実施するチューター面談の記録を学生カルテへ記入し、学部教員が閲覧できる環境を構築し、要注意学生へ迅速に対応できるように取り組んでいる。 【取組に対する自己点検・評価】 今期の退学者が1名に留まった点を考慮すると、上記の取組は有効に機能していると判断している。ただし、退学者は2年次編入生であり、中途入学者への対応を準備しておく必要があるかもしれない。学年途中で学部へ加入した場合、すでに構築されている人間関係の中に組み込まれるといった特殊な環境におかれるため、適応が難しい学生が出てくる可能性がある。そのため、担当チューターが他の学生よりも丁寧な対応をとることも必要かもしれない。こうした点が今後の課題の1つと考えられる。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください) (1) 現状 在籍者数168名(1年生38名、2年生50名、3年生39名、4年生40名、10月1日現在)であり、今期の離籍者は3名であり、離籍率は1.8%であった、本年度の通算離籍者は4名となり、4月1日時点での在籍者数を分母とすると、離籍率は2.4%であり、数値目標は達成できた。 (2) 取り組みの内容 学年主任連絡会を月に一度定期的に実施し、離籍につながりそうな学生の情報を収集、集約し、それを他の教員とも情報共有し、必要ならばチューター面談を実施できるようにしている。またメンタルの不調から授業の欠席さらには離籍に至る学生もいることから、場合によっては学生相談につなげていくことに取り組んでいる。 【取組に対する自己点検・評価】 離籍率を目標数値内に納めることができたため、離籍防止の取り組みは適切に機能していると判断できる。とはいえ、今後も離籍防止のためには、現在の体制について改めて点検を実施し、より効果的な離籍防止体制と対策を検討することも必要と考える。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

心理学部	実施責任者	学部長	大原貴弘
------	-------	-----	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・教育課程レベル:在学時

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【GPA】 学年ごとの中央値 **2.0**
 【成績分布状況】 下位1/4に該当するGPAの値 **1.5**
 【修得単位数】 必修科目の単位修得率 **100%**

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】前期授業の担当者が、基準に従って適切に評価を行った。数値目標は事前に周知されているが、そのことによる歪みは生じていない。科目の特性に従って成績分布に違いは見られるが、成績評価は担当教員の裁量内にあると考えられる。

【取組に対する自己点検・評価】

・GPAの学年ごとの中央値

1年前期が2.97、2年前期が2.76、3年前期が2.89、4年前期が3.00とすべての学年で目標の2.0を超える値となった。

・成績分布状況

下位1/4に該当するGPAの値は、1年前期が2.63、2年前期が1.89、3年前期が2.17、4年前期が2.00とすべての学年で目標値の1.5を越える値となった。

上記2つの指標についての結果から、目標よりも、実際の学生の分布は上方にあることがわかる。昨年と同様に4年生を除くと、1年前期が最も高い値で、2年前期が底になっている。今後、3年後期に向かっての上昇傾向が現れるか注目すべき点である。専門教育が本格的に始まることで一旦成績の低下を見せた学生たちが適応していつている過程がうかがえる。評価が適切に行われていることを示す結果である。

・修得単位数

「必修科目の単位修得率」については、前期段階で達成することができなかった。科目ごとの単位修得率(%)は、「心理学への招待」97.4、「心理学基礎演習1」98.0、「心理学実験1」92.0、「心理学統計法2」89.1、「学習・言語心理学」96.0、「発達心理学2」95.9、「感情・人格心理学」92.0、「社会・集団・家族心理学2」98.0、「キャリアデザイン1」100、「心理学特殊演習1」100であった。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

後期授業を担当者が適切に行い、基準に従って成績評価を行った。数値目標を事前に伝えることで個別の科目における成績評価が歪んでしまうことを避けるため、結果としての基準達成を重視し、成績評価については、担当教員の裁量、判断に任せている。

【取組に対する自己点検・評価】退学・休学予定者は分析から除外した。

・GPAの学年ごとの中央値

1年後期が3.17、2年後期が2.83、3年後期が3.29とすべての学年で目標の2.0を超える値となった。

・成績分布状況

下位1/4に該当するGPAの値は、1年後期が2.76、2年後期が2.31、3年後期2.68とすべての学年で目標値の1.5を越える値となった。上記2つの指標についての結果から、目標よりも、実際の学生の分布は上方にあることがわかる。1年前期が最も高い値で、2年前期が底になり、3年後期に向かって上昇している傾向を読み取ることができる。専門教育が本格的に始まることで一旦成績の低下を見せた学生たちが適応していつている過程がうかがえる。評価が適切に行われていることを示す結果である。なお、4年生については、卒業後のためデータを得ることができなかった。他の学年も含めてより簡便に成績分布状況を把握できるようなシステムの導入が求められる。

・修得単位数

「必修科目の単位修得率」については、前期段階で達成することができなかった。科目ごとの単位修得率(%)は、「心理学統計法1」94.6、「心理学研究法」100、「知覚・認知心理学」94.4、「発達心理学1」100、「臨床心理学概論」97.4、「社会・集団・家族心理学1」94.4、「心理学基礎演習2」100、「心理学実験2」89.8、「キャリアデザイン2」100、「心理学特殊演習2」100、「心理学コンピュータ演習」100であった。昨年度に比べて、「心理学実験2」の単位取得率が悪く9割を切っている。同様の傾向が次年度も続くのかどうか引き続き注視する必要がある。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

心理学部	実施責任者	学部長	大原貴弘
------	-------	-----	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・教育課程レベル:卒業時(後)(DP評価)

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【大学院進学率】 内部進学希望者中 80%	R7.4月
------------------------------	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

大学院進学に向けては、希望者に対して勉強会等を実施し、勉強の指導や研究計画書の指導を行った。
大学院志望者9名のうち、現在までに、8名(88.9%)が大学院に合格している。

【取組に対する自己点検・評価】

大学院への合格率は数値目標を達成しており、十分な成果があげられている。また、まだ合格していない1名については、コロナ感染により受験が困難であった学生であり、他大学の進学も視野に入れていることから、適切な対応を実施する。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

2024年度に大学院進学を希望した学生9名すべてが大学院に合格している。ただし、外部受験(東北大学、福島大学)を希望していた学生は不合格となっていた。
2025年度に大学院受験を希望する学生に対しては、模擬面談や研究計画書の作成、大学院試験に向けた指導を実施した。

【取組に対する自己点検・評価】

大学院希望者すべてが大学院に合格しているが(100%),進学希望者の中には外部受験を失敗した学生もあり、必ずしも学生の希望に沿った結果ではなかったと考えられる。また、合格基準に満たない学生もいたことから、大学院受験希望の適性についても検討し、進路相談等のアドバイスなども必要と考えられる。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

心理学部	実施責任者	学部長	大原貴弘
------	-------	-----	------

【2023年度自己点検・評価報告に基づく改善課題への取組み状況】

■改善課題及び改善指示

【改善課題】

入学定員充足率が目標値に達していません(100%に対し、61.6%)。

【改善指示】

学部のような取組は積極的に行われていますが、入学定員充足率が前年度を下回った原因を詳細に分析し、それに基づいた改善策を実施してください。

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

高校生を対象とした出前講座、保護者や教員、企業等空の依頼を受けての出張講座、学部講演会など様々な機会を設けて、高校生本人、並びに高校生を取り巻く家族、教育関係者等に対して、心理学部について広く知っていただき、関心を持っていただくべく、様々な活動に取り組んだ。

【取組に対する自己点検・評価】

オープンキャンパスの参加者が昨年度と比較して減少したことは、取り組みが結果につながっておらず、今後検討を要する点である。しかし、この点は、高校生人口が減少している現状も考慮して判断する必要があると考える。一方で、出前講座や学科ガイダンスで対応し、その後オープンキャンパスに参加した高校生が見られた例からは、出前講座を通しての接触がオープンキャンパスの参加につながる可能性があるため、出前講座や出張講座などを通しての早期の接触の有効性が示唆された。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

10月以降は次年度に向けての広報活動がメインとなった。高校生向けの出前講座6件、高校の教員や保護者などを対象とした出張講座9件、学科・進学ガイダンス8件(うち3件はオンライン)、大学見学会は3件を担当し、2026年度入試に向けて、心理学部を広く知っていただくべく活動を行った。

総合型選抜・学校推薦型選抜受験者(27名)、一般1期・共通利用1期の受験者(17名)で、とくに前期入試の受験者数が昨年度よりも減少しており、最終的な入学者は29名となり、定員充足率72.5%であった。

【取組に対する自己点検・評価】

総合型選抜・学校推薦型選抜受験者27名のうち、OC参加者は20名であった。一般1期・共通利用1期の受験者17名のうち、OC参加者は2名であった。OCに参加した高校3年生42名のうち、20名は受験につながらなかった。昨年度に比べると、OCに来場しつつも受験につながらなかった学生が増加している。アンケートの結果、満足度は低くないことから、「楽しいOC」から「卒業後の進路などを見据えたOC」へのシフトが必要であることが示唆された。

企業や高校の教員・保護者を対象とした出張講座の増加により、知名度のアップにつながったと考える。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

国際看護学部	実施責任者	学部長	川口孝泰
--------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

入学定員充足率を100%にする。補佐的に志願倍率、合格率、歩留率を設定する。今後、18歳人口が減少していくことから、県外からの入学者を増やす。

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・広報用媒体の充実(WEB版のオープンキャンパス等)
- ・対面広報(オープンキャンパス、高校ガイダンス、進学ガイダンス、高校訪問、高大連携、中学生向けガイダンス)

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【入学定員充足率】 100%	R7.4月
-----------------------	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

■広報関連

- ・オープンキャンパスを6回実施し、参加者数は5月18日31名、6月22日55名、7月20日96名、8月3日103名、8月24日152名、9月7日29名の合計466名であり、本年度9月時点での合計数は、昨年度の総合計295名を上回った。
- ・ホームページからも大学の魅力を伝えるために、What's Newおよび教員紹介ページ等のコンテンツの充実を図っている。
- ・大学事務と教員が密に連携しつつ、本年度より広報学生委員を任命して学生も含めてオープンキャンパス等の広報活動を行うことで、訪問者のニーズに沿った本学部の活動や入試等の状況に関する最新情報を提供することを目指している。
- ・大学説明会は、メインエリア(千葉・茨城・埼玉・東京)において、業者依頼をもとに参加している。
- ・高校訪問については、千葉県内・埼玉県内・茨城県内を中心に実施している。
- ・本学部在籍学生の出身校、OC来場者個人に向けたダイレクトメールもお送りしている。

■入試関連

- ・総合型選抜入試Ⅰ期の出願者数32名であった。(出願期間:9/13~9/27)10月5日に試験実施。

【取組に対する自己点検・評価】

広報については、大学説明会や高校訪問の順調な進捗、ホームページやオープンキャンパスの充実等により、オープンキャンパスの来場者が増加し、入試の受験者数の増加につながったと評価できる。
今後も引き続き広報活動の充実を図り、受験者数を増やす必要がある。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

◆広報関連

- ・後期オープンキャンパスは4回開催した。参加者は11月9日(土)23名、12月7日(土)18名、1月25日(土)26名、3月22日(土)66名で、前期に引き続き各回の来場者は昨年度を上回った。積極的な広報活動によってオープンキャンパスの来場者を伸ばすことができた。来場者の2~3割がリピーターであり、入試の出願者でもあったことから広報活動の効果はあったと評価できた。
- ・本年度より在学生による授業紹介を取り入れ、来場者からは好評価を得た。
- ・神田女学園との高大連携協定を締結し、来年度より開始予定である。受験生の確保に向けて本学部の魅力を伝えていく。
- ・ホームページやSNSを効果的に活用し、幅広い地域からの学生募集活動を引き続き進める。

◆入試関連

- ・2025年4月の入学人数は83名で定員充足率は104%で数値目標は達成した。
- ・2025年の志願者は177名(2024年度108名)、受験者は165名(102名)、合格者129名(93名)、辞退者1名(4名)、入学者83名(69名)で、昨年度よりも増加した。本年度は補欠合格者も出し、入学者が確保できた。
- ・今後も多くの受験生が受験機会を得られるように、入試日程を今年同様に確保する必要がある。特に社会人入試では、能力や判断力を評価できるように、入試方法を再検討し社会人入学確保に向けた取り組みを検討している。

【取組に対する自己点検・評価】

入学定員充足率が104%であり数値目標が達成した。これは、大学説明会や高校訪問等の積極的な広報活動によってオープンキャンパスの来場者を伸ばし、入試の出願に繋がったことが考えられ、広報活動の効果があったと評価できた。来年度も引き続き積極的な広報活動を工夫展開し本学の魅力を伝えつつ受験生を確保する方策を展開していく必要がある。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

国際看護学部	実施責任者	学部長	川口孝泰
--------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・国家試験合格に向けた学力の担保
- ・教育の質を保証する体制(サイクル)の確立
- ・学生の国際交流に向けた交流拠点の開拓

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・年間の各単位において、国家試験対策定期目標指数「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」などを検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指す
- ・学生の学習到達度の検証や学生の学修成果の結果を受けて、教育支援のための研修会や情報交換会を継続的に実施する

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【就職率】 **100%**

※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・6月5日に3年次学生を対象に第1回の就職ガイダンスを実施した。
- ・1年次と2年次の学生には、8月1日と2日に就職ガイダンスを実施した。
- ・就職支援室の関連資料を整理し、学生が活用できるように整備を行った。
- ・就職支援室に届いた各種採用情報を公開・設置し、各学年に就職に関する情報閲覧を促した。
- ・4年次学生には、チューターによる就職面談対策や履歴書の確認などを実施している。
- ・9月期までの就職内定の学生数は4年生81名のうち61名であった。
- ・就職内定の報告率は、10月10日時点で75%である。
- ・12月24日に3年次学生を対象とした第2回就職ガイダンスを予定している。

【取組に対する自己点検・評価】

4年生に対する就職支援は、チューターを介して100%内定に向けた支援を実施してゆく必要がある。また、国試対策とも併せて学修到達度などの検証や教育支援対策に向けた取り組みを継続的に行っていく必要がある。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- ・3年生に対する就職ガイダンス(履歴書の書き方や面接対策に関する)を12月に実施した。
- ・3年生に対する病院説明会を12月に実施した。
- ・4年生に対する就職試験にむけた小論文添削、面接指導などはチューターを中心に個別対応を行った。
- ・インターシップ、合同就職説明会などの情報は適宜、学生に情報発信した。

【取組に対する自己点検・評価】

・就職内定率は99%であり目標100%に満たなかった。学生は計画的に就職活動を行うことができ、進学1名・就職79名の計80名の学生の内定が決定した。残り1名は就職を希望せず、看護師国家試験の可否後に検討したいとの申出があり、本人および保護者の意向を尊重し対応したが、全学生の内定先の決定には至らなかった。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

国際看護学部	実施責任者	学部長	川口孝泰
--------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・国家試験合格に向けた学力の担保
- ・教育の質を保証する体制(サイクル)の確立
- ・学生の国際交流に向けた交流拠点の開拓

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・年間の各単位において、国家試験対策定期目標指数「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」などを検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指す
- ・学生の学習到達度の検証や学生の学修成果の結果を受けて、教育支援のための研修会や情報交換会を継続的に実施する

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【国家試験合格率】 **100%**

※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・1年次から3年次学生に対する国家試験対策の企画として、3種類の取り組みを行っている。まずは、「すきまclub(空き時間を利用した勉強会)」を、9月は金曜日、10月は火曜日に実施している。「わんわんクエスト(ランク形式で成績表示)」では、8月13日及び9月11日に実施した。参加学生は固定化しており、不参加学生に対しては参加を促している。その他「チューターゼミ(チュータによる勉強会)」では、1年生に対しては、9月6日に確認テストを実施した。その結果下位および欠席学生24名を対象に、国試過去問の解説動画をメインに視聴してもらい確認テストを行った。2年生に対しては、9月4日に確認テストを実施した。成績下位学生に対しては、自主学習としてチューターの研究室前に進捗表を用意し、実施状況を記載し可視化した。3年生に対しては、国試ゼミを実施しているが、62名中34名が不参加であった。
- ・4年次の学生に対しては、上記3種類の企画に加えて、模擬試験の実施を行った。5月～7月に実施した模試結果により、下位20名を対象に夏期補講、8月13日(火)～8月30日(金)に実施した。出席者は61名(遅刻2名含む)、欠席者20名であった。模擬試験を9月4日に実施した。

【取組に対する自己点検・評価】

4年次学生においては、国家試験勉強は追い込みの時期になっている。自主学習の場を提供したり積極的な模擬試験の受験を促しているが、受験率は75%程度となっている。欠席者については外部模擬試験も良くない状況であり、今後の追い込みに向けて教員の一層の介入が求められる。10月2日にテコム看護による模擬試験を実施予定である。この試験結果により、テコムの伴走サービス『テコムのてらこや』を開始する予定である。とくに成績下位者に対しは、個別面談を予定し、学習の啓発を行っていく予定である。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

4年生81名が国家試験を受験。国試自己採点の結果 ボーダー150-155点予想とすると、最大17名不合格の見込みであった。最終的にはボーダー148点、必須問題40点以上が合格ラインであったため9名が不合格であった。合格率は88.9%で目標値の全員合格100%には達せなかった。不合格者のうち6名は就職予定の病院で看護助手として採用、1名は就職予定の病院とは異なる病院での看護助手を希望。就職先が未定であった1名については、保護者と相談の後、今後大学側も次年度の受験に向けて支援していくこととなった。1～3年生については、保護者に模試の結果を送付した。とくに1年生の結果は芳しくなかった。A評価は1名のみで、ほぼC・D評価であった。チューターにフォローを依頼した。新入生の入学時学力は年々低下している傾向にある。低学年模試などを活用して学力向上に向けた取り組みを検討している。

【取組に対する自己点検・評価】

来年度4年生については、業者模試を4回～6回程度に減らす方向で検討する。受験の回数よりも、実施した模試の結果を丁寧に復習し、一回の学修成果をしっかりと高めていく方向での検討の必要性が求められた。R6年度の実績評価から、4～8回程度での企画が妥当だと考えられる。次年度の模擬試験計画においては、1年から3年次まではこれまで通り年間2回の模試を実施、4年生については、5回程度の模試と直前模試の活用を含めて検討していくことが現時点のデータからは最も効果的と考えられる。フル模試の初回が6月19日からのスタートで予定している。しかし、成績把握とその対応の時期としては遅かったと思われる。夏休み前から成績下位の学生に対するフォローをしっかりと行い、夏休み明けには個別支援体制をしっかりと立てていくことが重要であると考えられる。R6年度に不合格となった学生に対するフォローについては、具体的な取り組みの提案を早急に立てていくことが必要である。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

国際看護学部	実施責任者	学部長	川口孝泰
--------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・国家試験合格に向けた学力の担保
- ・教育の質を保证する体制(サイクル)の確立
- ・学生の国際交流に向けた交流拠点の開拓

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・年間の各単位において、国家試験対策定期目標指数「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」などを検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指す
- ・学生の学習到達度の検証や学生の学修成果の結果を受けて、教育支援のための研修会や情報交換会を継続的に実施する

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【国際交流拠点(臨地実習先)の開拓】 3ヶ所	R7.4月
-------------------------------	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・国際看護学実習Ⅰの実習先として既に2か所を確保済である。
- ・国際看護学実習Ⅱの第1回の実習先としてタイ王国ランパーン県総合病院を選択。本病院をベースにして地域医療/訪問看護/伝統医療の実習を実施(4年次、選択科目)した。
- ・国際交流委員会としては;第4回(2024年度)の国際交流シンポジウムを企画中であり、2024年10月に開催予定。内容:JICA及びShareを通して国際活動をしてきた2名の講演者を招き、主に東ティモールとソロモン諸島の国際看護活動の講演依頼した。
- ・学生たちとの小グループでの意見交換イベントを企画中。卒業後の国際看護フィールドにおけるキャリア開発支援の一環と考えている。

【取組に対する自己点検・評価】

国際看護実習Ⅲについては、初めての企画運営であったため1年をかけての入念な準備時間を設けたことで(例:実習目的などの詳細な説明及びタイ王国を選んだ理由などを事前に文書で整えた、学生の学習目的を各自明確にして事前にコミュニケーションを開始等)。国際交流委員会については、2020-2021年は教員のグローバル意識を高めるシンポジウム(ベトナム、タイ、中国出身看護師、ブータン王国とフィンランドの関係者)を開催。2023年度(11か国の海外出身大学生との交流企画/運営)からは学生を中心とした活動に軸足を置き、2024年度は海外での看護活動を中心としたシンポジウムを計画している。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- ・例年通り、国際シンポジウムを10月12日にテーマを「海外における看護活動 ～海外で活動経験のある先輩看護師に聞く～」と題して前期の計画に沿って行われた。会場は、医療創生大学国際看護学部体育館で実施。国際的な活動経験を持つ2名の講師を招いて各20分間の講演後、参加者と講師が2つのグループに分かれ、グループごとにディスカッションを行った。参加者は、学生が22名(1年生:3名、2年生:1名、3年生:7名、4年生:11名)であった。教員の参加は9名であった。
- ・国際交流拠点は、現状では2拠点のままである。目標の3拠点に向けた取り組みを引き続き行っていく。

【取組に対する自己点検・評価】

- ・国際交流シンポジウムについては、12月までの開催が効果的である。引き続き検討していく。
- ・1年生、2年生の参加が少なかった。低学年から国際関連の催しには興味を持ってもらえるような工夫が必要である。
- ・今後は、学友会主催の学園祭の時期との兼ね合いも考慮し、同時開催なども含めた検討も現実的と思われる。フレッシュャーズセミナー等の時間に国際関連の催しを組み入れるのもよい。ポートフォリオや履歴書の社会活動について、国際関連の活動としてアピールできるなどのアドバイスも必要である。
- ・国際性に触れる機会を1年生より段階的に作る必要もある。シンポジウム以外にも国際的な催し事を実施し、国際性を積極的に触れることのできる機会を設けて他大学との差別化をする必要がある。
- ・本学在籍の海外出身の学生や柏たなか病院の海外出身の看護師が語る場を設けるのも身近な取り組みとして検討する必要がある。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

国際看護学部	実施責任者	学部長	川口孝泰
--------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・国家試験合格に向けた学力の担保
- ・教育の質を保证する体制(サイクル)の確立
- ・学生の国際交流に向けた交流拠点の開拓

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・年間の各単位において、国家試験対策定期目標指数「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」などを検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指す
- ・学生の学習到達度の検証や学生の学修成果の結果を受けて、教育支援のための研修会や情報交換会を継続的に実施する

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【留年率】 **4%未満**

※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・新入生と保護者に向け、入学式後に学部教育や留年に至る例など大学での学習に関するガイダンスを実施した。他学年については前期後期ガイダンスで学習への動機づけを行った。
- ・学習支援に関して保護者の協力を得るため、各学年で保護者懇談会および必要な保護者に対して面談を実施した。
- ・チューター面談でも、教育の動機づけと学習相談を定期的に行っている。
- ・学生生活委員会と連携し、8月に学習成果検討会を開催し、教職員同士で情報を共有した。
- ・留年率は3.7%、留年者11名(1年生0名、2年生10名、3年生1名、4年生0名)であった。休学者は4名(2年生)である。
- ・学生が学習到達度を確認して学習を進めるようにポートフォリオを活用し、チューター面談で活用している。
- ・掲示のオフィスアワーの時間帯だけではなく、タイミングよく学生相談に対応するために、学生来訪時は課題解決のための時間を確保した。
- ・学生が学生相談室の活用して、心身状態を良好に保ち学生生活を送ることを支援するためにカウンセラーとの連携を図っている。

【取組に対する自己点検・評価】

受講態度において私語が多く、講義中の教室の出入りも多い。講義を受ける学生の態度について、科目担当者やチューターから個別指導を行っている。講義を担当する教員には学生が集中力を持続できるような教授方法の工夫も必要とされる。また、個人の学習では授業について行くことが難しい学生も存在しており、そのような学生の早期発見と学習支援が必要である。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- ・留年率は8.0%、留年者数24名(1年生4名、2年生17名、3年生3名)であった。後期の休学者数は10名(1年生3名、2年生4名、3年生3名)である。
- ※2025年3月10日現在の学籍情報である。
- ・休学中の学生に対しては、離籍防止にむけて、信頼関係を構築したチューターが継続して担当し、不安なく復学に迎えるように精神的なサポートを行った。その結果、後期から2年生2名が予定通り復学することができた。

【取組に対する自己点検・評価】

- ・留年率は8.0%であり目標達成することはできなかった。2年生では2月に実施された看護学基礎実習Ⅱで不可となった結果、留年者数が圧倒的に多い結果となった。
- ・進級不可となった学生の心身状況を見守りつつ、離籍防止にむけて、修学意欲低下、アルバイト過多や学業の影響、経済面困窮などの早期把握をチューターを中心に行っていく必要がある。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

国際看護学部	実施責任者	学部長	川口孝泰
--------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・外部研究費の獲得
- ・競争的資金の採択
- ・国際関連の大型資金の確保

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・申請説明会等を実施する。
- ・組織的に申請書チェックを行う。
- ・研究業績を年度更新しガルーンへ保管する。

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【外部資金獲得件数】 新規3件以上 【研究業績管理】 100% 【科研費採択率】 採択数／申請数 30%以上	R7.4月
---	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・外部資金獲得件数は1件であった。
- ・研究業績管理は、全教員分を学部長が保有(100%)している。教員面談の際に各教員の自己点検について確認・査定すると同時に、今後の課題について話合った。
- ・科研費採択率については、採択数:1件、申請数:7件で採択率は14.3%であった。

【取組に対する自己点検・評価】

外部資金の獲得については、昨年度に採択された科研費の継続中の課題が6件ある。継続中の教員以外の教員が新規で7件申請したが、採択は1件で採択率は14.3%であった。目標値の30%より下回った。今後は全教員に新規申請を啓発すると同時に、来年度に向けて30%以上の新規採択率を確保していきたい。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- ・科学研究費の申請件数は10件で、29名の教員のうちで35%の教員が申請した。
- ・申請数10件のうち採択は4件であった。採択率は40%で、目標値を超えた。代表者としての継続は7件である。
- ・研究業績は教員評価票にて把握しており、全員が提出しており目標値(100%)を達成した。

【取組に対する自己点検・評価】

- ・申請件数は三分の一の教員であったが、新規採択件数は4件であった。その中でも基盤研究Bが1件採択された。科学研究費の採択率は例年20%ほどなので、本学部は申請数の40%が採択されたことになる。
- ・研究業績に関しては、毎年地道に研究業績を積み重ねている教員は科学研究費の採択と連動している。一方で研究業績の無い教員に関しては外部資金の獲得もほとんどないことから、研究面での指導が必要である。
- ・外部資金の確保は、研究業績に繋がるので、全ての教員がエントリーして採択に繋がるような仕組みづくりが必要である。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

国際看護学部	実施責任者	学部長	川口孝泰
--------	-------	-----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・調査結果を活かした環境改善、各種支援の強化等により、学生満足度70%を達成する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・教職協働、学部横断による学生満足度調査の実施
- ・検討された支援方策や改善内容について、学生に向けた適切な情報の公表
- ・学生の心理面への調査検討、および実施
- ・各調査結果に基づく支援の検討、環境改善・教育指導

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【離籍率】 2%未満

※アセスメントプランに基づくチェック項目(退学率)と一致。

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

新入生と保護者に向け、入学式後に学部教育や留年に至る例など大学での学習に関するガイダンスを実施した。学習支援に関して保護者の協力を得るため、各学年で保護者懇談会および必要な保護者に対して面談を実施した。8月に学習成果検討会を開催し、教職員同士で情報を共有した。

- ・離籍率は0%、学生数合計299名(1年生69名、2年生87名、3年生62名、4年生81名)、退学者0名であった。
- ・入学後の環境変化を考慮し、新入生に対し、4月にレクレーションや歓迎会などを実施し、離籍防止に務めた。
- ・チュータによる学生面談を全学年実施した。支援の必要な学生に対しては適宜面談を実施し学生生活の適応促進を図った。
- ・保護者懇談会および面談を実施し、保護者との連携を図った。対面で参加できない保護者にはZoomを用いたオンラインでの同時開催を行った。1年生は6月、2年生は9月実施した。3年生は2月実施予定である。
- ・国際看護学部独自の学生実態調査を6月に実施し、学生生活の現状を把握した。また、教務委員会と連携し学修成果検討会議を8月に開催し、学習に集中できていない学生や生活面で問題を抱える学生の有無などに関して教職員で情報共有を図った。
- ・学生カウンセラーによる学生相談室を週2回設け心身の不調を整えるための取り組みを図っている。

【取組に対する自己点検・評価】

受講態度において私語が多く、講義中の教室の出入りも多い。学生の個人的な問題もあるが、このような教室環境が、授業に集中できないなど学生に悪影響を与え、離席に繋がっている面も否定できない。そこで、離籍防止に向けた対策として、主に以下の4点を考えている。①授業参観制度の活用を通して、授業中の問題点や課題を明確にしていく ②Microsoft Formsを用いた要注意学生に関する成績報告システムの運用を学部独自で開始し、これにより遅刻・欠席状況を早期に教員間で情報共有することで、支援が必要な学生の早期発見に努め、学習支援に繋げていく ③問題のある学生に対しては、保護者との連携を強化し連絡を密にとる取り組みを積極的に継続していく ④とくにメンタルヘルズ相談を必要とする学生に対して、カウンセラーによる介入や医療支援にむけた取り組みを強化する。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- ・離籍率3.7%、学生数合計299名(1年生69名、2年生87名、3年生62名、4年生81名)のうち、退学者11名(1年生5名、2年生6名)であった。※2025年3月10日現在の学籍情報
- ・チュータによる学生面談を全学年で実施した。特に支援の必要な学生に対しては学生生活の適応促進を図った。
- ・定期的対面によるチュータ面談後の継続フォローにおいては、学生状況や希望に応じてメール、電話などフレキシブルな対応で、学生の不安・悩み・困りごとをキャッチし、共に考える姿勢を示しながら丁寧な支援を心がけた。
- ・復学後に学生相談室(週2回)のカウンセラーによる専門的な支援を上手に活用しながら、安定した学生生活を送ることができている学生が一定数おり、相談の詳細は学部長に定期的に報告されている。
- ・3年生は2月に保護者面談を行い、学生の学修状況や生活状況、国試対策、就職・進学状況の情報共有を行った。希望者に対しては対面、オンライン、電話による個別面談を行い、チュータと保護者が連携することによる支援体制の強化を図った。
- ・3月進級判定会議で学修成果検討会を行い、学修や生活面で困難な状況にある学生に関して教務委員会・学生委員会が連携し教職員で情報共有を図った。

【取組に対する自己点検・評価】

- ・1年生7.2%、2年生6.9%と低学年での離籍率が高く目標を達成することはできなかった。
- ・3年生および4年生では離籍者はいなかった。
- ・離籍理由として学業問題6名、健康問題2名、進路変更4名があげられた。入学前から抱えていた持病のコントロール不良、目指す方向性の変更など、個々の学生により離籍理由の背景は異なるものの、専門基礎科目や看護学基礎実習などの未修得科目数の増加が、離籍に影響しているようである。学生が前向きに、本学を志した目的・目標に対する意欲を持ち続けることができるように、今後も教務委員会、学生生活委員会、教務学生課で情報共有をはかりながら、学生を見守り支援していく必要がある。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

国際看護学部	実施責任者	学部長	川口孝泰
--------	-------	-----	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・教育課程レベル:在学时

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【GPA】 学年ごとの平均値 **2.5**
 【成績分布状況】 下位1/4に該当するGPAの値 **2.0**
 【修得単位数】 必修科目の単位修得率 **100%**

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

・今年度前期のGPA平均値は、4年次:3.0 3年次:2.6 2年次:2.5 1年次:2.4であった。
 ・今年度前期のGPA2.0以下の学生割合では、4年次:4%(3名/81名) 3年次:20%(13名/62名) 2年次:22%(18名/83名) 1年次:26%(18名/69名)であった。
 ・必修科目単位未修得者数は、4年次:0名/81名(0) 3年次:6名/62名(1科目2名、2科目以上4名) 2年次:9名/83名(1科目4名、2科目以上5名) 1年次:16名/69名(1科目8名、2科目以上15名)であった。必修科目の単位修得率は、4年次:100%、3年次:90.3%、2年次:89.2%、1年次:76.8%である。

【取組に対する自己点検・評価】

前期では、受講態度において私語が多く、講義中の教室の出入りも多い。講義を受ける学生の態度について、科目担当者やチューターから個別指導を行っている。講義を担当する教員には学生が集中力を持続できるような教授方法の工夫も必要とされる。また、個人の学習では授業について行くことが難しい学生も存在しており、そのような学生の早期発見と学習支援が必要である。今後の対策として、①教員の教授方法について、授業参観制度の活用を通じて問題点や課題を明確にしていく。これにより学生の授業に対する興味関心を高め、学習意欲の向上に繋げていく。また、②Microsoft Formsを用いた成績(要注意学生)報告システムの運用を学部独自で開始するにより遅刻・欠席状況を早期に教員間で情報共有することで、支援が必要な学生の早期発見に努め、学習支援に繋げていく予定である。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

・今年度後期のGPA平均値は、4年次: 3.4 3年次:3.0 2年次:2.1 1年次:2.3であった。
 ・今年度後期のGPA2.0以下の学生割合では、4年次: 1%(1名/81名) 3年次: 5%(3名/62名) 2年次: 42%(35名/83名) 1年次: 32%(22名/69名)であった。
 ・必修科目単位未修得者数は、4年次:0名/81名(0) 3年次:4名/62名(1科目2名、2科目以上2名) 2年次:25名/84名(1科目16名、2科目以上9名) 1年次:15名/64名(1科目7名、2科目以上8名)であった。必修科目の単位修得率は、4年次:100%、3年次:93.5%、2年次:70.2%、1年次:76.6%である。

前期の状況を踏まえて今後の対策として、①教員の教授方法について、授業参観制度の活用を通じて問題点や課題を明確にしていく。これにより学生の授業に対する興味関心を高め、学習意欲の向上に繋げていく。また、②Microsoft Formsを用いた成績(要注意学生)報告システムの運用を学部独自で開始するにより遅刻・欠席状況を早期に教員間で情報共有することで、支援が必要な学生の早期発見に努め、学習支援に繋げていくことを試みた。

【取組に対する自己点検・評価】

4年生のみ目標を達成できた。後期では、専門的科目が多くなり、難易度が高い可能性のある2年次の結果が落ち込んだ。学習上の困難があり、かつGPA1点台の複数の学生に対して勉強の仕方から指導していく必要がある。授業参観制度の活用を通じて教員の教授方法について問題点や課題を明確にし対策を個々の教員が考え実践すること、支援が必要な学生の早期発見に努めるためのMicrosoft Formsを用いた成績(要注意学生)報告システムの運用は早期からの教員間の情報共有において有用だった。さらに学習上問題のある学生の細やかな指導にあたっては、学生生活委員会等と連携してきめ細やかな対応を行っていく必要がある。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

国際看護学部	実施責任者	学部長	川口孝泰
--------	-------	-----	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・教育課程レベル:在学时

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【国家試験模試 外部模擬試験】 受験率 **100%**

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

模擬試験の実施:1年生:1回、7月17日、既習の国家試験科目(3科目)を対象に国家試験WEBを使用した模擬試験(学内WEB模試)を実施、受験率は96%(受験予定者67名、受験者64名、退学予定3名)であった。2年生:1回、7月19日に株式会社Gakken「基礎学力UPチャレンジテスト」を実施、受験率は96%(受験予定者83名、受験者81名、1名休学予定)であった。3年生:1回、7月19日にテコム看護「基礎力チェックテスト」を実施、受験率は97%(受験予定者62名、受験者60名、1名休学予定)であった。4年生:5回実施、実施内容と受験率は以下の通りである。4月9日2月に実施された第113回看護師国家試験を模試として実施、受験率96.3%。5月15日東京アカデミー、受験率100%。6月19日なすもし、受験率100%、7月25日株式会社Gakken、受験率98.8%、9月4日さわ研究所、受験率100%。

模擬試験はあらかじめ時間割に記載するとともに、国家試験対策用のC-learning、Teams、ニュースレターで日時、持ち物、対象科目等を事前に案内し、直前の講義でも出席を呼びかけたが、当日の体調不良等により全ての実施回で数値目標100%を達成することはできなかった。

4年生は解説集や解説動画が充実し復習がしやすい業者の模擬試験を選択した。また、2か月に1回外部講師による模擬試験復習講義を入れ、全国的な正答率と本学の正答率を比較し、押さえるべきポイントをまとめて講義していただいた。4月時点で合格圏判定の学生は非常に少なかったが徐々に合格圏内に入ってきた。

【取組に対する自己点検・評価】受験率は100%近く概ね良好であると思われる。今後も同様に受験の案内を送っていく。1～3年生は定期試験終了時に模擬試験を計画しており、前期の学修成果を客観視することができている。しかしながら結果は「人体の構造と機能」「疾病と治療」等、専門基礎科目の学力が著しく低いという状況であり、これらの既習科目の得点が上がるように復習を促す必要がある。4年生は月1回模擬試験開始前、白板上に目標得点(全国平均)を記載し、得点率向上を目指している。全国での自分の位置を確認でき、学習の必要性を理解できるようになってきている。また、外部講師による解説講義は高評価であり、受験日まで時間が無い中でポイントを効果的に学習でき、これにより、合格圏内の学生が増加していると考えられる。これらのことより、前期の4年生の模擬試験日程、外部講師招聘等の取り組みは良好であると評価する。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- ・1, 2年生の希望者対象に、11月29日に国家試験の概要と低学年から始める国家試験対策についてのガイダンスを実施した。低学年向けの講座等を紹介し、大学外の学習が早期から必要なことを説明した。
- ・4年生を対象に、11月5日において国家試験ガイダンスを実施した。ガイダンス終了後のアンケート結果によると国家試験に関する理解は深まり、ガイダンスの目的は達成できた。
- ・4年生の成績下位5名を対象に11月19日に個別のガイダンスを実施した。対象者からは自分が直面している問題と実施すべき内容が理解できたという発言が見られ、その後、成績も上昇した。
- ・1年から3年生までは年間2回の模試を行った。その結果については、保護者にも郵送で配布し、ご子息の状況について報告を行った。低学力層の学生については外部業者などを通じた学外での学習の必要性を伝えた。
- ・4年生については年度10回の外部の業者による模擬試験を実施した。個々人の学力はチュートと共有し、低学力層の学生に対しては個別の指導などを心がけた。
- ・全学年において、ほぼ100%(1・2年生は100%、3年生は98.4%、4年生は初回は88.9%であったが、その他はほぼ100%)の参加率であった。

【取組に対する自己点検・評価】

- ・1年生の模擬試験については模試の正式な結果はまだ出ていないが、模試の実施が当事者意識を高めた。2年生の模擬試験成績は上向いてきており、チューターゼミの成果と言える。3年生の模擬試験についてはD判定、E判定の人数は減少した。
- ・4年生の模擬試験については、月1回のペースで実施した。得点率は徐々に上昇した傾向はみられたが、ボーダー上の低学力層が相当数であり、低学力層に対する早期の個別介入が必要であった。
- ・模試の年間計画については、1～3年生は年2回実施で妥当と考える。4年生は対策方法について検討の余地が残された。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

国際看護学部	実施責任者	学部長	川口孝泰
--------	-------	-----	------

【2023年度自己点検・評価報告に基づく改善課題への取組み状況】

■改善課題及び改善指示

【改善課題】

入学定員充足率が目標値に達していません(100%に対し、86%)。

【改善指示】

入学定員充足率が目標に達していない現状を分析し、それに基づいた改善策を実施してください。また、完成年度を迎え、国家試験合格率が学生募集にも大きく影響するものと考えられることから、目標達成に向け支援体制の再確認、強化を行ってください。

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

・昨年度は全入試で一昨年度より志願者が微減し最終的に充足率86%であったが、合格者は93名であったことから歩留率が一因と考えられた。また、千葉県内19大学で競合大学が至近距離にあり県内の受験生が微減したが、県外受験者が増加した。
・今年度は、大学説明会や高校訪問の広報担当を充足して近隣県への広報活動推進、ホームページ等の様々な情報媒体の活用、オープンキャンパスの充実等による受験者のニーズに沿った効果的・効率的・積極的な広報活動を目指している。
・国際的な取り組みの支援を見える化するための工夫として、海外での実習場所を具体的に6カ国提示し、それぞれの国ごとで体験できる内容を明示しホームページやオープンキャンパスなどの広報媒体に明示した。また、実習費の金銭面のサポートを加えることで、金銭面で参加をあきらめていた学生にも参加可能な道筋を示した。

【取組に対する自己点検・評価】

現時点では、大学説明会や高校訪問の順調な進捗、ホームページやオープンキャンパスの充実等により、オープンキャンパスの来場者が増加し、入試の受験者数の増加につながった。今後も引き続き広報活動の充実を図り、受験者数を増やす必要がある。国際体験が可能な様々な取り組みを検討していく予定している。とくに国際看護学実習Ⅱについては、選択科目であるが参加者が9名と少数の学生のみであった。これらを解消するための工夫として、参加費の一部を支援する方策を取って行くことで、多くの学生が選択できるような取り組みを挑戦的に企画していく計画である。これらの取り組みを積極的に広報していくことで、受験生確保に繋がることにもつながると考えられる。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

2025年4月の入学者数は83名で定員充足率は104%で数値目標は達成した。
・前期に引き続き大学説明会や高校訪問、オープンキャンパス開催を実施し、後期も各回の来場者は昨年度を上回っていた。積極的な広報活動によってオープンキャンパスの来場者を伸ばすことができた。さらに、来場者の2～3割がリピーターであり、入試の出願者でもあったことから広報活動の効果はあったと評価できた。今後も新たな試みを検討し、本学部の魅力を伝えていく。
・2025年の志願者数は177名(2024年度108名)、受験者165名(102名)、合格者129名(93名)、辞退者1名(4名)、入学者83名(69名)であり、昨年度よりも増加した。本年度は補欠合格者もあり、入学者が確保できた。
・今後も多くの受験生が受験機会を得られるように、来年度も入試日程を今年同様に確保することが必要と考えられる。
・本学部の特徴である国際的な取り組みとして、国際看護学実習Ⅱの参加費支援も受験数増加に貢献した。
・完成年度を迎え、国家試験合格率が出たことによる受験者への影響も今後考えられるため、本学部の国家試験対策の充実を目指し広報活動を進めて行く必要がある。

【取組に対する自己点検・評価】

入学定員充足率が104%であり数値目標が達成した。これは、大学説明会や高校訪問等の積極的な広報活動によってオープンキャンパスの来場者を伸ばし、入試の出願に繋がったことが考えられ、広報活動の効果があったと評価できた。来年度も引き続き積極的な広報活動および国家試験対策も含めた本学部の魅力を伝えつつ、本年度同様に多くの受験機会を作り受験生を確保することが必要である。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

生命理工学研究科	実施責任者	研究科長	古川勉寛
----------	-------	------	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

・入学定員充足率を100%にする。補佐的に志願倍率、合格率、歩留率を設定する。今後、福島県の18歳人口が減少していくことから、福島県内の入学者数を確保した上で、県外からの入学者数を増やす。

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・遠隔広報(動画、DM、HP、SNS、WEB版オープンキャンパス)
- ・対面広報(オープンキャンパス、高校ガイダンス、進学ガイダンス、高校訪問、高大連携、中学生向けガイダンス)

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【入学定員充足率】 100%	R7.4月
-----------------------	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- 1) 長期履修制度の導入
令和6年度から長期履修制度を導入し、令和6年4月1日付で本学の大学院長期履修規程が制定された。
- 2) 留学生の大学院入学者増加に対応するための募集要項の改訂
外国籍の留学生が大学院へ入学する希望者が増加することに対応するため、2024年度空き入学・2025年度春入学の生命理工学研究科募集要項の以下の項目について改訂を企画課に提案した。①入試名称を「外国人入試」から「外国人留学生入試」に変更、②説明文の追加「外国籍の者は、出願資格の他に、在留資格「留学」、もしくは入学に支障のない在留資格を2025年3月22日までに有すること、③本学の「安全保障輸出管理規程」に基づいた審査の実施、④外国からの出願書類提出は電子メールで対応する。
- 3) 看護学系教員の追加
国際看護学部と看護学部の卒業生が大学院進学を検討可能にするため、看護学系教員の追加に向けて学内募集を実施している。
- 4) 広報活動の実施
作業療法学系・理学療法学系の入学者を確保するため、法人内にある柏リハビリテーション学院を訪問して、生命理工学研究科の広報活動を実施した。また、新たにオンライン説明会を企画し、SNS上で広報活動を実施している。
- 5) 今期の入学定員充足率は修士が20%、博士後期が200%であった(令和6年5月1日現在)

【取組に対する自己点検・評価】

・修士の入学定員充足率が目標を達成していないが、上記にあるように大学院の入学者数を増やす取り組みを行っており、評価できる。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- 1) オンライン説明会の実施
令和6年10月15日に大学ホームページに「理学療法士、作業療法士向けの大学院オンライン説明会」を掲載し、入学定員充足率の改善に貢献できるよう取り組んだ。
- 2) 大学公式ガイドブック(パンフレット)の強化
公式ガイドブックに使用する写真を理学療法学系教員が撮影し、実態に沿った写真に入れ替えた。また、3つのプログラムとして、学部教育と連動するように、理学療法学系、看護学系、作業療法学系と記載して、社会人理学療法士、看護師、作業療法士を受け入れる体制があることを周知する内容に修正した。
- 3) 理学療法学科卒業生に対する広報
理学療法学科の新卒予定者および既卒生に対して、大学院の広報活動を各教員で実施した。

【取組に対する自己点検・評価】

令和6年度の入試結果では、修士課程が2名(定員5名)、博士後期課程が1名(定員2名)という結果になり、入学定員充足率100%を達成できなかったため、広報活動の活性化が必要である。ただし、博士後期課程においては、留年生が生じてしまうと定員通りの学生募集が行えなくなることから、留年防止策も併せて実施する必要があると考える。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

生命理工学研究科	実施責任者	研究科長	古川勉寛
----------	-------	------	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う
- ・質保証サイクルを実質化する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していく
- ・達成度評価のに基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【就職率】 100% ※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。	R7.4月
---	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

【取組に対する自己点検・評価】

- ・就職率について、本学の大学院生はほぼ全員が社会人ないし国家資格有資格者であり、具体的な就職対策を行う必要はない。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

【取組に対する自己点検・評価】

- ・就職率について、本学の大学院生はほぼ全員が社会人ないし国家資格有資格者であり、具体的な就職対策を行う必要はない。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

生命理工学研究科	実施責任者	研究科長	古川勉寛
----------	-------	------	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う
- ・質保証サイクルを実質化する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していく
- ・達成度評価のに基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【留年率】 5.3%	R7.4月
------------	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- 1) 長期履修制度の導入
令和6年度から長期履修制度を導入し、令和6年4月1日付で本学の大学院長期履修規程が制定された。
- 2) 複数教員による指導教員制度の導入
今年度に大学に入学した修士課程1名、博士後期課程4名には主指導教員および副指導教員が承認された(第1回議事録)。

【取組に対する自己点検・評価】

- ・長期履修の活用や複数の指導教員制度を導入したことで留年率の低下に一定の効果が得られる、と考えられ、評価できる。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- 1) 指導教員による研究指導の実施

【取組に対する自己点検・評価】

修士課程は在籍者数4名に対して留年率0%、博士後期課程は在籍者数7名に対して留年率14.3%(留年者1名)、理工学研究科博士後期課程は在籍者1名に対して留年率0%であった。そのため、博士後期課程のみ、目標を達成できていない。博士後期課程の3年次で留年が生じているため、学位審査を行うための査読付き論文や博士論文の進捗について、更なる対策が必要であると考えられる。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

生命理工学研究科	実施責任者	研究科長	古川勉寛
----------	-------	------	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

・調査結果を活かした環境改善、各種支援の強化等により、学生満足度を70%を達成する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

・教職協働、学部横断による学生満足度調査内容の見直し ・検討された支援方策や改善内容について、学生に向けた適切な情報の公表 ・学生の心理面への調査検討、および実施	・各調査結果に基づく支援の検討、環境改善 ・教育指導 ・大学と保護者の情報共有を促進し、学生支援の連携を図るため調査を実施
---	---

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【離籍率】 **3.0%**

※アセスメントプランに基づくチェック項目(退学率)と一致。

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

1) 長期履修制度の導入

令和6年4月1日付で本学の大学院長期履修規程が制定され、令和6年度から長期履修制度を導入した(根拠資料:大学院長期履修規程)。

2) 複数教員による指導教員制度の導入

今年度に大学に入学した修士課程1名、博士後期課程4名には主指導教員および副指導教員が承認された(第1回議事録)。

【取組に対する自己点検・評価】

・長期履修制度の導入や複数の指導教員制度を導入したことで離籍率の低下に一定の効果が得られる、と考えられ、評価できる。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

特になし

【取組に対する自己点検・評価】

・離席率0%であり、評価できる。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

生命理工学研究科	実施責任者	研究科長	古川勉寛
----------	-------	------	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・教育課程レベル:在学時

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【GPA】 学年ごとの平均値 **2.0**
 【成績分布状況】 下位1/4に該当するGPAの値 **1.5**
 【修得単位数】 必修科目の単位修得率 **100%**

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組みの状況】

・上記の数値目標は全て達成している。

【令和5年度実績__GPA】

修士課程:3.7

博士後期課程:在籍者全員が2年次までに必修単位を取得済みのため、3年時以降のGPAは計算できない。

【令和5年度実績__成績分布】

修士課程:GPA平均3.7であり、下位1/4とするGPA1.5に達しない学生はいない。

博士後期課程:在籍者全員が2年次までに必修単位を取得済みのため、3年時以降の成績分布を調べることはできない。

【令和5年度実績修得単位数】

修士課程:100%

博士後期課程:100%

【自己点検・評価】

・数値目標を達成していることから、高く評価できる。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

特になし

【取組に対する自己点検・評価】

数値目標を達成しており、評価できる。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

生命理工学研究科	実施責任者	研究科長	古川勉寛
----------	-------	------	------

【2023年度自己点検・評価報告に基づく改善課題への取組み状況】

■改善課題及び改善指示

【改善課題】

入学定員充足率が目標値に達していません(修士:100%に対し、40%、博士:100%に対し、50%)。

【改善指示】

長期履修制度の導入、入学試験の効率化などの取組を確実に実施するとともに、学生募集につながるような広報活動を積極的に行ってください。

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

改善指示内容に対しては、長期履修制度を4月から導入し、入学試験の効率化については指摘されている

1) 長期履修制度の導入

令和6年4月1日付で大学の大学院長期履修規程が制定され、令和6年度から長期履修制度を導入した(根拠資料:大学院長期履修規程)。

2) 複数教員による指導教員制度の導入

今年度に大学に入学した修士課程1名、博士後期課程4名には主指導教員および副指導教員が承認された(第1回議事録)。

3) 留学生の大学院入学者増加に対応するための募集要項の改訂

外国人留学生入試において、面接試験のオンライン化を導入した。また筆記試験(英語)について、TOEICテストの成績が550点以上の者については筆記試験(英語)を免除することとした。

4) 広報活動の実施

作業療法学系・理学療法学系の入学者を確保するため、法人内にある柏リハビリテーション学院を訪問して、生命理工学研究科の広報活動を実施した。また、新たにオンライン説明会を企画し、SNS上で広報活動を実施している。

【取組に対する自己点検・評価】

- ・博士後期の入学定員充足率は200%であり、改善がみられており評価できる。
- ・改善指示に従って長期履修制度の導入、入学試験の効率化および医療に従事している社会人の大学院修学に配慮することに取り組んでおり、評価できる。
- ・広報活動については、今後も継続的な活動に取り組む必要がある。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

1) 大学公式ガイドブック(パンフレット)の強化

公式ガイドブックに使用する写真を理学療法学系教員が撮影し、実態に沿った写真に入れ替えた。また、3つのプログラムとして、学部教育と連動するように、理学療法学系、看護学系、作業療法学系と記載して、社会人理学療法士、看護師、作業療法士を受け入れる体制があることを周知する内容に修正した。

2) 広報活動の開始

学部卒業生等に対して周知の連絡を行うこと、または、オンライン説明会を企画した。

【取組に対する自己点検・評価】

目標値をほとんど達成していないため、広報活動の修正が必要であると考えます。

令和7年度からは、生命理工学研究科内に系別の広報担当者を設けて、普段の研究教育活動をPRできるように専攻長と協議しながら進めていきたい。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

人文学研究科	実施責任者	研究科長	窪田文子
--------	-------	------	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

・入学定員充足率を100%にする。補佐的に志願倍率、合格率、歩留率を設定する。今後、福島県の18歳人口が減少していくことから、福島県内の入学者数を確保した上で、県外からの入学者数を増やす。

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・遠隔広報(動画、DM、HP、SNS、WEB版オープンキャンパス)
- ・対面広報(オープンキャンパス、高校ガイダンス、進学ガイダンス、高校訪問、高大連携、中学生向けガイダンス)

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【入学定員充足率】 100%	R7.4月
-----------------------	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

今年度も例年通り、大学院説明会を2回実施することを年度当初に決定した。それに則り、6月に説明会ポスターを作成し、大学ホームページ等を通して、説明会の周知を図った。

7月に第1回目の大学院説明会を実施し、6名が参加した。内訳は、外部から3名、内部学生が3名。外部の3名のうち1名は他大学4年生、2名は現職を持つ社会人であった。内部学生3名は、全員が3年在学生であった。

8月に実施された学内推薦入試は、6名が受験し、6名が合格した。9月に実施された一般1期・社会人1期入試では、一般入試の受験者は4名、社会人入試の受験者は1名であり、それぞれ合格者は、3名、1名であった。

【取組に対する自己点検・評価】

学内推薦入試と一般1期入試で、合わせて11名が受験し、10名に合格を出している。この時点で定員100%に達しており、取り組みは評価できる。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

12月7日(土)に第2回大学院説明会を実施し、11名の参加があった。内訳は、外部から2名、残りの9名は心理学部生であった。外部の2名のうち1名は社会人で、もう1名は他大学の3年生であった。9名の心理学部生のうち、3年生が2名、2年生が4名、1年生が3名であった。全体説明の後、希望者に個別相談を行った。個別相談を希望したのは、外部からの社会人1名で、公認心理師受験資格取得のための、学部科目の読み替えについての質問が中心であった。

2月に実施された一般2期・社会人2期入試では、一般2期入試を1名が受験し、1名が合格した。学内推薦入試と一般1期・社会人1期での合格と合わせて合格者は11名となった。

【取組に対する自己点検・評価】

2025年度の入学者は11名が見込まれ、定員充足率は110%となり、今年度の学生募集・広報活動は評価できる。入学予定者11名のうち、本学心理学部出身者が9名で、他の2名もいわき市出身である。一定の入学者を確保するためには、学部生で大学院進学に関心を持つ学生を入学につなげることが、より効果的であると考ええる。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

人文学研究科	実施責任者	研究科長	窪田文子
--------	-------	------	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う
- ・質保証サイクルを実質化する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していく
- ・達成度評価のに基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【就職率】 100% ※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。	R7.4月
---	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

大学院生の実習を引き受けていただいている実習施設と、実習巡回指導などを通して、常に連絡をとり、就職情報が得られるよう体制を取っている。また、関連機関から大学に送られてくる心理職の求人情報を大学院生に回覧し、大学院生が就職情報を得られるようにしている。

2024年度修了予定の2年次生は、全員社会人学生であり、3名のうち2名は現職に戻るため、就職活動の該当者は1名である。

【取組に対する自己点検・評価】

就職情報が得られるよう、実習施設など外部機関と連絡を密にしていること、また、大学に送付される就職情報を大学院生に回覧し、常に情報提供をしている点は評価できる。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

大学院生の実習を引き受けていただいている実習施設と、実習巡回指導などを通して、常に連絡をとり、就職情報が得られるよう体制を取っている。また、関連機関から大学に送られてくる心理職の求人情報を大学院生に回覧し、大学院生が就職情報を得られるようにしている。

2024年度修了の2年次生は、全員社会人学生であり、3名のうち2名は現職に戻るため、就職活動の該当者は1名であった。該当の1名は、就職よりも10月に行われる臨床心理士の試験を優先させて、就職活動を行わなかった。したがって、就職率は66.6%となる。

【取組に対する自己点検・評価】

就職情報が得られるよう、実習施設など外部機関と連絡を密にしていること、また、大学に送付される就職情報を大学院生に回覧し、常に情報提供をしている点は評価できる。1名の該当者については、本人・家族の意志で、就職活動は行われず、就職は達成されなかったが、各種の情報提供を行い、相談にのってきたプロセスは評価できる。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

人文学研究科	実施責任者	研究科長	窪田文子
--------	-------	------	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う
- ・質保証サイクルを実質化する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していく
- ・達成度評価のに基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【国家試験合格率】 100% *臨床心理士、公認心理師とも資格取得を希望する者を分母とする ※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。	R7.4月
--	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

今年度の修了予定者3名は、国家資格である公認心理師の受験資格はなく、臨床心理士の資格取得を希望する者たちである。そのため、3名に対して、臨床心理士の試験の準備のために、外部模試の受講について検討を行った。

【取組に対する自己点検・評価】

昨年一昨年度と、修了予定者に対して、公認心理師の試験準備のために、外部模試を実施してきて、受講した者は資格試験に合格しており、一定の成果を挙げた。臨床心理士の受験についても外部模試を受講することは、結果につながると考えられるため、取り組みは評価できる。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

今年度の修了者3名は、国家資格である公認心理師の受験資格はなく、臨床心理士の資格取得を希望する者たちである。そのため、3名に対して、臨床心理士試験の準備のための外部模試の情報提供を行った。大学院としては予算化されていないため、本人の負担で希望者は行えるように、資料提供し、案内した。臨床心理士の資格試験は10月に行われ、結果発表は12月であるため、合格率が出るのは12月になる。

【取組に対する自己点検・評価】

昨年一昨年度と、修了予定者に対して、公認心理師の試験準備のために、外部模試を実施した。受講した者は資格試験に合格しており、一定の成果を挙げた。臨床心理士の受験についても外部模試を受講することは、結果につながると考えられるため、取り組みは評価できる。しかし、今年度は、該当者全員が社会人であり、予算化されていない中だったため、資料提供がなされ、案内されたことは評価できる。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

人文学研究科	実施責任者	研究科長	窪田文子
--------	-------	------	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う
- ・質保証サイクルを実質化する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していく
- ・達成度評価のに基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【留年率】 5.3%	R7.4月
-------------------	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

大学院生から毎月活動報告書の提出を求め、実習状況や学外の研修会への参加状況などについてモニターし、学修の状況をフォローしている。また、研究科委員会で、各院生の修学状況や体調不良等を教員全員で共有し、支援している。

2023年度後期に休学した2名の1年次生のうち、1名は2024年度前期も引き続き休学、1名は4月より復学したものの、その後、体調を崩し退学となった。現在の休学者1名に対しては、専攻長が定期的に面談し、現在の状況や復学に向けての準備状態、復学に向けて専攻からどのような支援を期待するかなどについて話し合う面談を行っている。

【取組に対する自己点検・評価】

今年度休学している1名の学生については、状況を把握できており、支援体制は機能していると評価できる。学内実習開始に向けてより実践的な学修が本格化していくなか、心理の高度専門職業人に求められる水準に自身の現状が追いついていない現実への直面過程で生じた不安であると考えられる。専門家として求められる水準と本人の現在の準備状況とのギャップは実務家を養成する過程では、目を背けてはいられない問題であり、今後、本人がこの状況にどのように取り組み、その過程でどのような決断をしていくかをサポートしていく。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

大学院生から毎月活動報告書の提出を求め、実習状況や学外の研修会への参加状況などについてモニターし、学修の状況をフォローしている。また、研究科委員会で、各院生の修学状況や体調不良等を教員全員で共有し、支援している。

前年度から休学していた1年次生は、前期に引き続き後期も休学となり、専攻長が定期的に面談し、現在の状況や復学に向けての準備状態、復学に向けて専攻からどのような支援を期待するかなどについて話し合う面談を行っていたが、進路変更により退学した。後期より休学していた1年次生1名は、他学への進学が決まり退学となった。在籍している1年次生3名は進級し、2年次生3名も修了したため、留年率は0%であった。

【取組に対する自己点検・評価】

休学学生については、状況を把握できており、支援体制は機能していると評価できる。学内実習開始に向けてより実践的な学修が本格化していくなか、心理の高度専門職業人に求められる水準に自身の現状が追いついていない現実への直面過程で不安が生じる学生も少なくはない。専門家として求められる水準と本人の現在の準備状況とのギャップは実務家を養成する過程では、目を背けてはいられない問題であり、今後、個々の学生がこの状況にどのように取り組み、その過程でどのような決断をしていくかをサポートしていく。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

人文学研究科	実施責任者	研究科長	窪田文子
--------	-------	------	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

・調査結果を活かした環境改善、各種支援の強化等により、学生満足度を70%を達成する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

・教職協働、学部横断による学生満足度調査内容の見直し ・検討された支援方策や改善内容について、学生に向けた適切な情報の公表 ・学生の心理面への調査検討、および実施	・各調査結果に基づく支援の検討、環境改善 ・教育指導 ・大学と保護者の情報共有を促進し、学生支援の連携を図るため調査を実施
---	---

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【離籍率】 **3.0%**

※アセスメントプランに基づくチェック項目(退学率)と一致。

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

大学院生から毎月活動報告書の提出を求め、実習状況や学外の研修会への参加状況などについてモニターし、学修の状況をフォローしている。また、研究科委員会で、各院生の修学状況や体調不良等を教員全員で共有し、支援している。

2023年度後期に休学した2名の1年次生のうち、1名は2024年度前期も引き続き休学、1名は4月より復学したものの、その後、体調を崩し退学となった。現在の休学者1名に対しては、専攻長が定期的に面談し、現在の状況や復学に向けての準備状態、復学に向けて専攻からどのような支援を期待するかなどについて話し合う面談を行っている。

【取組に対する自己点検・評価】

今年度休学している1名の学生については、状況を把握できており、支援体制は機能していると評価できる。学内実習開始に向けてより実践的な学修が本格化していくなか、心理の高度専門職業人に求められる水準に自身の現状が追いついていない現実への直面過程で生じた不安であると考えられる。専門家として求められる水準と本人の現在の準備状況とのギャップは実務家を養成する過程では、目を背けてはいられない問題であり、今後、本人がこの状況にどのように取り組み、その過程でどのような決断をしていくかをサポートしていく。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

大学院生から毎月活動報告書の提出を求め、実習状況や学外の研修会への参加状況などについてモニターし、学修の状況をフォローしている。また、研究科委員会で、各院生の修学状況や体調不良等を教員全員で共有し、支援している。

前年度から休学していた1年次生は、前期に引き続き後期も休学となり、専攻長が定期的に面談し、現在の状況や復学に向けての準備状態、復学に向けて専攻からどのような支援を期待するかなどについて話し合う面談を行っていたが、進路変更により退学した。後期より休学していた1年次生1名は、他学への進学が決まり退学となった。在籍者10名(1年次生7名、2年次生3名)のうち4名が退学し、離籍率は40%であった。

【取組に対する自己点検・評価】

休学学生については、状況を把握できており、支援体制は機能していると評価できる。学内実習開始に向けてより実践的な学修が本格化していくなか、心理の高度専門職業人に求められる水準に自身の現状が追いついていない現実への直面過程で不安が生じる学生も少なくはない。専門家として求められる水準と本人の現在の準備状況とのギャップは実務家を養成する過程では、目を背けてはいられない問題であり、今後、個々の学生がこの状況にどのように取り組み、その過程でどのような決断をしていくかをサポートしていく。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

人文学研究科	実施責任者	研究科長	窪田文子
--------	-------	------	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・教育機関レベル:在学時

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【心理実践家コンピテンシー評価】 チェックリスト **100点**
 【実務実習進行率】 内部実習の担当率 **100%**
 【修得単位数】 資格関連科目の単位修得率 **100%**

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

1) <心理実践家コンピテンシー評価> このチェックリストは、大学の心理相談センターでの内部実習で実際のクライアントを担当する準備ができていないかを確認する項目となっている。1年次の6月に学生の自己採点を提出させて面談し、その後7月に教員3名で学生に面談を実施し、ケース担当の可否を決定する。チェックリストに基づいた面談の結果、今年度は5名のうち、4名を実習可とした。あとの1名は当該面談において、学習継続への不安が語られ、本人の同意のもと、ケース担当の可否の決定は延期とされた。したがって、チェックリストは100点には及んでいない。

2) <実務実習進行率> 心理実践家コンピテンシー評価及び履修状況や面談で、実務実習担当の可否を決めている。現在、5名中2名がケース担当の許可となったため、40%の進行率である。

3) <修得単位数> 前期科目で、1年次生の2名が必修の単位を1科目落としており、単位修得率は60%であった。

【取組に対する自己点検・評価】

それぞれ数値目標には届かなかったが、臨床心理の実務家を育てるためには、コンピテンシー評価及び履修状況や面談などを用いて一人一人丁寧に指導した結果であり、取り組みについては、一定の評価はできると考える。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

1) <心理実践家コンピテンシー評価> このチェックリストは、大学の心理相談センターでの内部実習で実際のクライアントを担当する準備ができていないかを確認する項目となっている。7月の時点で対象学年5名中4名を実習可能な状態と判断し、基準に達しなかった1名の学生は、その後退学した。さらに7月には実習可能と判断した1名より、特定場面での体調面での不調とそれに関わる履修への配慮希望が伝えられたことから、実習開始を判断するための面談を継続している。したがって、チェックリストは100点には達していない。

2) <実務実習進行率> 心理実践家コンピテンシー評価及び履修状況や面談で、実務実習担当の可否を決めている。現在、1年次性3名中2名がケース担当の許可となったため、66%の進行率となる。

3) <修得単位数> 2年次生3名は、臨床心理士受験資格取得に必要な科目の単位を取得して修了した。1年次生3名についても、全員が受験資格取得に必要な科目の単位は取得できており、達成率は100%となる。

【取組に対する自己点検・評価】

数値目標には届かなかった項目もあるが、臨床心理の実務家を育てるためには、コンピテンシー評価及び履修状況や面談などを用いて一人一人丁寧に指導した結果であり、取り組みについては、一定の評価はできると考える。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

人文学研究科	実施責任者	研究科長	窪田文子
--------	-------	------	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・教育機関レベル:在学時

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【国家試験模試 外部模擬試験】 受験率 100%	R7.4月
---------------------------------	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

今年度、2年次生3名が国家試験受験対象者ではないため、模擬試験受験も該当しない。

【取組に対する自己点検・評価】

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

今年度、2年次生3名が国家試験受験対象者ではないため、模擬試験受験も該当しない。

【取組に対する自己点検・評価】

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

人文学研究科	実施責任者	研究科長	窪田文子
--------	-------	------	------

【2023年度自己点検・評価報告に基づく改善課題への取組み状況】

■改善課題及び改善指示

【改善課題】

入学定員の充足

【改善指示】

入学定員充足率の目標を達成すべく、一人でも多くの学生が学べるよう環境の整備を行ってください。

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

現在の定員は10名であるが、これは臨床心理士の養成機関として開設したときに設定したものである。臨床心理士の養成に関しては、内部実習施設及び外部実習機関での実習は必要だが、時間数までは規定されていない。しかし、公認心理師養成においては、受験資格を取得するための実習時間が規定されている。そのうち、外部の実習機関での実習時間も規定されている。その一方、本学が位置するいわき市には、心理の専門家が働く病院などの医療施設や福祉施設などが少なく、その中で、実習を受け入れてもらえる機関はさらに少ない状況である。また、外部実習機関には実習指導ができる公認心理師がいることが条件となっており、その条件を満たし、かつ実習の受け入れを承諾してもらえる機関を確保することが困難な状況である。また、地域を拡大して実習機関を確保する可能性を考えたが、実習中に巡回指導を行うことが条件とされており、現在の実習担当教員の授業担当状況を鑑みると遠方まで巡回指導に行く時間は確保できない。このような状況を鑑み、専攻では、過去に定員の削減を要望したが、認められなかった。しかしそのような中、今年度は学内推薦や一般一期の入学試験ですでに10名に合格を出している。

【取組に対する自己点検・評価】

定員充足率は満たしたが、定員削減を検討する状況は変わらない。今後、備品や人員の補充、近隣の実習先の確保などが必要となり、大掛かりな環境整備が必要であると考ええる。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

現在の定員は10名であるが、これは臨床心理士の養成機関として開設したときに設定したものである。臨床心理士の養成に関しては、内部実習施設及び外部実習機関での実習は必要だが、時間数までは規定されていない。しかし、公認心理師養成においては、受験資格を取得するための実習時間が規定されている。そのうち、外部の実習機関での実習時間も規定されている。その一方、本学が位置するいわき市には、心理の専門家が働く病院などの医療施設や福祉施設などが少なく、その中で、実習を受け入れてもらえる機関はさらに少ない状況である。また、外部実習機関には実習指導ができる公認心理師がいることが条件となっており、その条件を満たし、かつ実習の受け入れを承諾してもらえる機関を確保することが困難な状況である。また、地域を拡大して実習機関を確保する可能性を考えたが、実習中に巡回指導を行うことが条件とされており、現在の実習担当教員の授業担当状況を鑑みると遠方まで巡回指導に行く時間は確保できない。このような状況を鑑み、専攻では、過去に定員の削減を要望したが、認められなかった。しかしそのような中、今年度は11名の合格者を出し、定員を充足し、数値目標は達成した。

【取組に対する自己点検・評価】

定員充足率は110%であったが、定員削減を検討する状況は変わらない。備品や人員の補充、近隣の実習先の確保などが必要となり、大掛かりな環境整備が必要であると考ええる。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

自己評価委員会	実施責任者	委員長	五十嵐 幸一
---------	-------	-----	--------

【実施目標】

・内部質保証システムを適切に機能させ、教育の充実と学修成果の向上を図る

【実施計画】

・内部質保証システムの有効性、適切性の評価・検証
・教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等の公表

【数値目標】

【基準日(報告月)】

情報の公表:6月末日まで	R7.4月
--------------	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】
内部質保証システムの有効性・適切性を検証することの一環として、大学基準協会の認証評価受審の準備を行っている。大学基準協会が求めている評価項目に沿って、大学が2018年から2025年までの行ってきた取り組みについて、自己評価委員会委員会のメンバーに加えて認証評価受審のための作業部会を結成し、自己点検・評価を行っている。

【取組に対する自己点検・評価】
2025年度の大学基準協会の認証評価受審に向けて、計画的に委員会を行い、提出された各項目の自己点検・評価について意見集約を行っていることは高く評価できる。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】
内部質保証システムの有効性・適切性を検証することの一環として、大学基準協会の認証評価受審の準備を行ってきた。大学基準協会が求めている評価項目に沿って、大学が2018年から2025年までに行ってきた取り組みについて、自己評価委員会委員会のメンバーならびに認証評価受審のための作業部会を設置し、自己点検・評価を行い、点検・評価報告書を作成した。

【取組に対する自己点検・評価】
2025年度の大学基準協会の認証評価受審に向けて、計画的に委員会を行い、提出された各項目の自己点検・評価について意見集約を行い、点検・評価報告書を作成したことは高く評価できる。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

教務委員会	実施責任者	委員長	GOH AH CHENG
-------	-------	-----	--------------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う
- ・質保証サイクルを実質化する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していく
- ・達成度評価のに基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【学修行動調査】 授業時間以外の学修時間 11時間以上／1週間の割合 81% ※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。	R7.10月
--	--------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

授業時間外の学修時間としては、「学習行動調査」アンケートを実施している。実施期間を10月末〆切としたため、基準日より遅れ11月に報告の予定である。

【取組に対する自己点検・評価】

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

2023年度の結果を踏まえて各学科で改善策を実施したが、2024年度の学修行動調査では、「授業時間以外の学修時間 11時間以上/週」の割合は全学で15.88%であった。学科別にみると薬学科は32.03%(昨年度31.22%)、看護学科は14.79%(昨年度10.43%)、作業療法学科は4.41%(昨年度5.63%)、理学療法学科は12.00%(昨年度7.65%)、臨床心理学科は12.14%(昨年度13.57%)であり、一部を除き昨年度よりも学修時間が増加している学科が多い状況であった。

【取組に対する自己点検・評価】

学修成果には学修時間を伴うことが前提であることを踏まえて、学修行動調査を実施しており、毎年、各学科で学修行動調査の対応策を検討し改善を図っていることは評価できる。ただし、実際の学修時間は、僅かに増加しているとはいえ依然として目標値には大きな隔たりがある。今後もさらなる工夫が必要である。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

学生生活委員会	実施責任者	委員長	五十嵐幸一
---------	-------	-----	-------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

・調査結果を活かした環境改善、各種支援の強化等により、学生満足度を70%を達成する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

・教職協働、学部横断による学生満足度調査内容の見直し ・検討された支援方策や改善内容について、学生に向けた適切な情報の公表 ・学生の心理面への調査検討、および実施	・各調査結果に基づく支援の検討、環境改善 ・教育指導 ・大学と保護者の情報共有を促進し、学生支援の連携を図るため調査を実施
---	---

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【学生満足度調査】 **60%**
※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。

R6.10月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

2023年度の学生生活満足度調査の分析結果から、次の施策として取り組むこととした。①学部自習室・自習スペース、図書館・学習センター利用率向上、②学友会活性化支援、③Wi-Fi使用に関する注意の周知、④無人コンビニ商品改善(いわき)、⑤学部・学科の満足度の改善(柏)

①については新入生等に対し、各学科で学部自習室・自習スペースの運用ルールについて通知することとした。②については学友会イベント支援の活用、愛好会活動支援をおこなうこととした。③については整備進行中だが、事前ダウンロードなどを推奨することとした。④については総務課に検討を依頼。⑤については学科内で検討することとした。

学生生活満足度調査については選択肢の変更を行った。

【取組に対する自己点検・評価】

各施策ともに進行中の状態であるが、②の学友会イベント支援については、残額が0になる学部もでており、活性化に繋がる利用促進がなされている点として評価できる。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

1月の学生生活委員会において、2023年度の卒業時アンケートの自由記述項目から各学部の改善点と改善に向けた具体的取組の報告を行った。

【取組に対する自己点検・評価】

2024年度調査から選択肢に「どちらでもない」が追加されたことで、学生が満足と考えているのか不満と考えているかの判断がつきにくくなっているが「満足」+「やや満足」+「どちらともいえない」を満足とは言い難いが不満ではないので「満足」としている。

令和6年度の学生満足度は、全体で89.8%(昨年度91.9%)と昨年度を約2%下回った。

【今後の計画】

いわきキャンパスの学部学科全体を通して「不満」が20%以上を示した項目として「情報関連機器・設備」(29.5%)、「売店・無人コンビニ」(25.0%)があげられる。改善項目としてあげられる「情報関連機器の整備・増設」は2023年度から学生生活委員会の施策として掲げ、対策を講じてきたが、未だ不十分だと言わざるを得ない。各学部の改善策として、通信安定ゾーンと不安定ゾーンなどの情報をマップに示して周知することが示されており、ハード面の改善とともに使う側の情報提供も行っていく必要がある。

次に改善項目としてあげられるのは売店・無人コンビニである。これも2023年度から改善項目として掲げられているものであり、文具や食品の品揃えに学生からの不満の訴えがあることも改善されていない。業者が入っている以上、利益が出るような品揃えになることは仕方のないことであるが、学生のニーズを反映したものに改善されるよう検討を重ねる必要がある。

2024年度の学生生活委員会施策としては前述の2項目の他に「学部・自習室・自習スペース・図書館・学習センター利用率向上」、「学友会活性化支援」を掲げた。年次における満足度の定量的な比較はできないが、「学部自習室・自習スペース・図書館・学習センター利用率向上」については、各学部の分析から強く改善を求める意見はなかったことから推察すると、ある程度改善されていると思われる。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

学生生活委員会	実施責任者	委員長	五十嵐幸一
---------	-------	-----	-------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・機関レベル:卒業時(後)(DP評価)

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【学生満足度調査(卒業時)】 満足度 60%	R6.10月
------------------------	--------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

2023年度の卒業生アンケートから学生生活に関わる部分をピックアップし、分析する予定。

【取組に対する自己点検・評価】

進行が遅れている点は早急に改善すべき点である。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取り組みの状況】

1月の学生生活委員会において、2023年度の卒業生アンケートの自由記述項目から各学部の改善点と改善に向けた具体的取組の報告を行った。

【取組に対する自己点検・評価】

指摘される点として各学部に共通してみられるのが、学修環境の整備・改善と学生間または教職員と学生との関係向上という点であった。自由記述項目は数値化しにくい部分であり、見逃されやすいところではあるが、丁寧に読み込むことで学生満足度向上の糸口が見えてきたことは評価できる。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

教務学生課(いわき)	実施責任者	課長	馬目高伸
------------	-------	----	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・機関レベル:卒業時(後)(DP評価)

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【卒業生アンケート(既卒生)】 満足度 82%

R6.10月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

8月にアンケートの調査を実施した結果、72%が満足していると回答した。

アンケートの要件は、次の通り

①対象:221人 [内訳]看護学科 3期生(2022年度卒)、作業療法学科 1期生(2022年度卒)、薬学科 4期生(2015年度卒)、薬学科 9期生(2020年度卒)、理学療法学科 1期生(2022年度卒)

②調査期間:2024年8月5日～8月31日

③調査方法:Microsoft FormsによるWeb回答(ハガキによる案内)

④回答者数 25人(11.3%)

【取組に対する自己点検・評価】

回答が11.3%(25人)と少ないため、参考値としての扱いになるが、満足度は、72%と未達となっている。しかし、不満(どちらかという)との回答は8%にとどまっており、目標は未達であるものの評価は良好といえる。

次年度以降の実施時期については、見直しが必要と考えられる。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

アンケートの集計結果を第2回全学共通教育委員会に報告した。

【取組に対する自己点検・評価】

調査結果について、学生生活委員会での検討を行っていない。

全学共通教育委員会へは、検討結果を含めての方向工を行うべきである。ただし、回答件数が少ないため、十分な回答を得る必要があるが、回答率を増加の方法については、結論を得ることができなかった。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

教務学生課(いわき)	実施責任者	課長	馬目高伸
------------	-------	----	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・機関レベル:卒業時(後)(DP評価)

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【就職先アンケート】卒業生に満足している割合 **100%**

R6.10月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

8月にアンケートの調査を実施した結果、90%が満足していると回答した。

アンケートの要件は、次の通り

- ①対象:198社 (複数学科回答あり)
- ②調査期間:2024年8月5日～8月31日
- ③調査方法:Microsoft FormsによるWeb回答(ハガキによる案内)
- ④回答者数 56人(28.3%)

【取組に対する自己点検・評価】

目標とした満足度は、90%と高い数値となったが、数値は未達となっている。
また、不満(どちらかというと)との回答は3%にとどまっており、目標は未達であるものの評価は良好といえる。
次年度以降の実施時期については、見直しが必要と考えられる。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

アンケートの集計結果を第2回全学共通教育委員会に報告した。

【取組に対する自己点検・評価】

調査結果について、学生生活委員会での検討を行っていない。

全学共通教育委員会へは、検討結果を含めての方向工を行うべきである。ただし、回答件数が少ないため、十分な回答を得る必要があるが、回答率を増加の方法については、結論を得ることができなかった。”

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

FD・SD委員会	実施責任者	委員長	松本司
----------	-------	-----	-----

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う
- ・質保証サイクルを実質化する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していく
- ・達成度評価のに基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【FDSD参加率】 100%	R7.4月
----------------	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

全学SD研修会：「性別違和を抱える学生への対応」をテーマに全学SD研修会を4月に実施した。

全学FD研修会：令和6年度は全学FD研修会を3回実施する計画を策定し、全教職員に周知した。第2回研修会として予定したFD研修会を第1回FD研修会として「本学における学修成果の可視化ツールの活用法」をテーマに8月に実施した。研修会対象の教職員全員が参加し、参加率100%であった。

令和5年度授業改善アンケート、ならびに令和6年度前期科目の授業改善アンケートの集計結果を学部学科ごとに取りまとめ公開するとともに、その結果を、FD活動報告等とともに全学教育委員会へ報告した。
授業改善アンケートの結果をもとに各学部で実施した学部FDの結果が、「授業改善検討報告書」として本委員会に提出され、授業改善アンケートのフィードバックが有効に実施されていることを確認した。

【取組に対する自己点検・評価】

令和7年度に全学でコンピテンシーテストを導入出来るように10月以降もFD活動を継続する。開催時期に一部変更が生じたが、全学FD・SD年間計画で策定した令和6年度全学FDを年度内に実施する予定である。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- ・第2回全学FD研修会を開催し、出席状況が全員参加の100%であった。
- ・自学部の学生が目指す姿をコンピテンシーテストで評価することを目的とした第3回全学FD研修会を実施した。録画の聴講も含め、出席状況は100%であった。
- ・6年度後期科目の授業改善アンケートを集計し、令和7年度5月の全学教育委員会に提出することとした。
- ・各学部及び各キャンパスの全学共通教育科目担当が取りまとめた授業参観報告書をとりまとめた。報告書は当初予定通り、学部ごとに取りまとめ、ガールーン上で公開することとした。

【取組に対する自己点検・評価】

・年度当初にとりまとめたFD・SD活動年間計画に従い、委員会活動は実施された。また、参加率は100%であり数値目標も達成された。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

情報システムセキュリティ委員会	実施責任者	委員長	新谷幸義(代理:中尾剛)
-----------------	-------	-----	--------------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・遠隔講義やICT技術を活用した授業を実施するための環境を提供する
- ・施設修繕計画に則り、教育に支障のない適切な整備を進める

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・無線LAN、建屋間ネットワークおよび学外接続ネットワークの改善を行う
- ・施設・設備の更新及び修繕を行う

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【ネットワーク・無線LANの利用状況に関する満足度調査】 90%	R6.10月
----------------------------------	--------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

以下の項目について、委員会で議論を行っている。

- ・無線APの整備について
- ・新入生向けPCの推奨仕様について
- ・情報システム利用アンケート(学生対象)について

【取組に対する自己点検・評価】

今年度実施する学生向けの情報システム利用アンケートについては、現時点で実施中であり、数値データに基づく評価はできない。

今年度予定していた無線LAN整備について文部科学省補助金の選に漏れたことから、昨年度実施した学生アンケートを加味し、整備範囲および機器を再検討して、実施することになるが、学生の学修環境の満足度の向上を行う。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

以下の項目について、委員会で議論を行っている。

- ・情報システム利用アンケート(学生対象)について
- ・新入生向けPCの推奨仕様について
- ・令和7年度後期からのパソコン教室の台数削減について

【取組に対する自己点検・評価】

後期最初に情報システム利用アンケート(学生対象)についてを行ったが、回答数が少ないことから数値的な評価を行うことができなかった。

次年度は数値評価が行えるようにアンケート時期や手法についても検討する余地がある。

新入生購入のPCについては、推奨使用と問い合わせ方法を受験生に通知した。問い合わせをTeamsで共有化して回答に漏れないように行うことで、トラブルなく対応することができ、評価できるシステムであった。

パソコン教室(3-203、3-204、DI室)や学習センターのパソコンの適正台数の検討を行っているが、結論に至っていない。次年度の委員会で利用状況を再度調査して、検討を継続する必要がある。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

情報システムセキュリティ委員会	実施責任者	委員長	新谷幸義(代理:中尾剛)
-----------------	-------	-----	--------------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・遠隔講義やICT技術を活用した授業を実施するための環境を提供する
- ・施設修繕計画に則り、教育に支障のない適切な整備を進める

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・無線LAN、建屋間ネットワークおよび学外接続ネットワークの改善を行う
- ・施設・設備の更新及び修繕を行う

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【ICTシステム設備利用率】 50%	R6.10月
---------------------------	--------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

以下の項目について、委員会で議論を行っている。

- ・学修成果の可視化システムの導入について
- ・16号館実験室のプロジェクト更新について
- ・教室のAV 機器設定について
- ・教室用情報システム利用アンケート(教員対象)について

【取組に対する自己点検・評価】

ICTシステム設備利用率については、教職員向けのアンケートを行う準備をしており、数値データに基づく氷塊はできない。
また、今後順次実施する遠隔授業の併用(ハイフレックス型授業)の準備のため、教室の整備を進める計画を進めており、これらについても、今後評価を行う必要がある。
学修成果の可視化システムについては、学修成果の可視化ツール導入にあたり、教育の質保証といった社会情勢の理解、導入目的、ツールの活用方法などについて理解するため、8月に全学FD研修会を実施し、教職員への周知、共有を図ることができたと考える。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

以下の項目について、委員会で議論を行っている。

- ・学修成果の可視化システムの運用について
- ・次期コンピュータシステム(ISUCS10)の仕様について
- ・Microsoft365の継続について
- ・教室用情報システム利用アンケート(教員対象)について

【取組に対する自己点検・評価】

学修成果の可視化システムは、基礎データ整理やどのようなデータを蓄積するかなどの検討を行いながら、作業を続けているが、まだ本稼働には至っていない。早期の可動を目指して準備を進める必要がある。
次期システムの検討については、現状のパソコン教室の利用状況(用途)や学生数、学生の個人所有を用いた授業展開なども考慮して、最小限のシステムを検討する必要がある。検討については、次年度へ持ち越す。
Microsoft365のライセンスについては、大学ICT推進協議会の特別プログラムが終了するため、教員数1000人未満の大学での利用契約ができなくなるため、どのような形態で利用を続けるかについては、次年度委員会での検討を継続する予定である。
教室用情報システム利用アンケート(教員対象)については今年度実施できなかったため、数値目標としての評価を行うことができなかったため、これについても次年度への持ち越しとなった。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

看護キャリア教育研究センター	実施責任者	看護キャリア教育研究センター長	新谷幸義（代理:川口 孝泰）
----------------	-------	-----------------	----------------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

・医療施設(看護職)・地域(看護)活動に資す教育訓練の実施・支援を通じて、医療創生大学(国際看護学部)の社会的プレゼンス向上を図る

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・広報・外部連携体制の整備（HP、相談窓口など）
- ・医療機関（看護職）の教育・研究にかかる情報利用支援
- ・大学・地域行政機関・医療施設における研修会の企画および実施
- ・外部医療機関での看護職員教育の支援（特定行為研修、新任職員研修など）

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【情報利用支援にかかる講習会実施】 **1件**
 【研修会・講演会の実施に向けた行政・医療機関との検討あるいは実施】 **3件**
 【外部医療機関における職員研修の支援実施】 **4件**

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

前年度に引き続き、千葉県委託事業であるコロナウィルスの影響により実技学修が不十分であった実務者を対処として看護職員の卒後フォローアップ研修を実施した。とくに摂食嚥下障害に対する看護技術について、柏たなか病院での研修も含めた事業を行っている。6月から柏市の事業の一つである子育て支援として実施されている「はぐはぐひろば柏たなか」に参画し、6月、11月、次年の3月の3回実施の計画で、地域貢献活動を実施している。第一回は6月に本学の実習室においてプレパパ・プレママ支援と称して、妊婦体験や沐浴体験などを通じた研修を実施した。活動の報告は「看護キャリア教育研究センター」のホームページで公開している。

【取組に対する自己点検・評価】

柏市事業である子育て支援を引き続き行っていくと同時に、目標としている情報活用のリカレント教育の実施や、外部医療機関の職員研修などの支援を実施するための広報活動に力を入れていく予定である。具体的には以下のとおりである。

■広報・外部連携体制の整備

・昨年度開設したホームページを更新し、更なる広報活動の推進、外部連携の整備を図る。

■医療機関(看護職)の教育・研究に係る情報利用支援

・情報利用支援として今年度は特に「看護管理者とICT」をテーマにグループ病院等を中心に後期実施に向けた企画の実施。

■大学・地域行政機関・医療施設における研修会の企画および実施

・看護職員のキャリア支援に向けて、グループ病院・施設等を中心に「臨床倫理」や「特定領域における実習指導者」研修等の後期実施の方向で、打ち合わせ等を行い検討を進める。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

・情報利用支援にかかる講習会実施(0件)：○情報利用支援として今年度は特に「看護管理者とICT」をテーマにグループ病院等を中心に実施予定であったが、ニーズ把握の段階にとどまった。

・大学・地域行政機関・医療施設における研修会の企画および実施(4件133%)：○子育て支援センター「はぐはぐひろば柏たなか」との共同企画(柏市の子育て支援事業への参画)：プレパパ・プレママ支援目的の「たまご学級」を3回/年実施した。また柏市社会福祉協議会依頼により、かしわファミリー・サポート・センター協力員に対する「子どもの病気の症状別対処方法や看護方法と乳児のお世話の仕方(実践含む)研修」を実施支援した。○柏北部地域包括支援センターとの連携事業(2件)：①認知症を知る映画上映会による認知症支援の普及・啓発、②地域ケア推進会議等を開催した。

・外部医療機関における職員研修の支援実施(3件 75%)：○柏たなか病院主催の特定行為研修の協力機関として支援：4～11月までに特定行為研修の講義・演習・実習を本学部にて実施。○柏たなか病院看護職員に対する「倫理研修」を実施した。

【取組に対する自己点検・評価】

・目標としている情報活用のリカレント教育の実施や、地域貢献を見据えた外部医療機関の職員研修などの支援を実施していくため、初めて取り組んだ柏市事業である子育て支援センターとの共同実施や柏北部地域包括支援センターとの共同事業は引き続き行っていくと同時に、看護職員等のキャリアアップにつながる病院施設職員の支援研修実施のための広報活動に力を入れていくことが重要。広報・外部連携体制の整備：・昨年度開設したホームページを更新し、更なる広報活動の推進、整備を図る。

・大学・地域行政機関・医療施設における研修会の企画および実施：・看護職員のキャリア支援に向けて、グループ病院・施設等を中心に話題となるトピックス研修はじめ「特定領域における実習指導者研修」等、継続的にキャリアアップを図るための研修支援を行うため、ニーズ把握も併せて実施していく。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

法人	実施責任者	事務局長	鷺田 祐
----	-------	------	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

中期財務工程表をもとに評価し、5年度までに収支均衡させる

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

前年度の支出を分析し、当年度の支出の抑制を図る

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【経常収支差額比率(経常収支差額／経常収入)】 ▲3% 【人件費比率(人件費／経常収入)】 51%	R7.4月
--	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取り組み状況】 法人全体の資金収支および事業活動収支について、2022年度と2023年度の収支を比較し分析をおこなった。 2024年度学校法人資金収支内訳表見込(学校別)を作成し、昨年度と同月累計額でも比較できるようにしている。 5月1日現在の学生数により医療創生大学(いわきキャンパス)の予算を再積算し、学生数に見合う予算減額をおこなった。 毎月、2024年度学校法人資金収支内訳表見込(学校別)に実績額を埋め込み、理事長へ報告をおこなった。 【自己点検・評価】 昨年同時期で収支を比較すると、 収入は、92%、支出は106%(人件費は97%、教育研究経費は98%、管理経費は119%、その他)で推移している。 昨年度末で岡山・建部医療福祉専門学校の廃止、今年度より歯科衛生士専門学校専門学校が開設したこと、また、大学部門で柏キャンパスは完成年度を迎えたが大学全体で入学者が5%程度減少により収入は減少し、人件費及び教育研究経費は若干減少しているが管理経費は19%増加で推移している。
--

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください) 2024年度学校法人資金収支内訳表(学校別)の見込について、昨年度同月累計額との比較確認を継続して実施した。 教育運営費や光熱水費、教職員手当の削減を進めているものの、以下の要因により法人全体で約▲2億3千万円の見込みとなった。 ①予想外の退職金支出 ②歯科衛生専門学校の未完成 ③借入金返済の負担 ④千葉・柏リハビリテーション学院の空調設備及びLED照明更新 本年度は全期間・全学校からのデータを遅滞なく集計し、2024年度学校法人資金収支内訳表(学校別)の実績額を理事長へ報告した。また、次年度の学生数予測に基づき、学生数に見合った予算を作成した。 【取組に対する自己点検・評価】 昨年同時期の収支と比較すると、以下のように推移しました。 収入:84% 支出:93%(内訳:人件費93%、教育研究費97%、管理経費92%、借入金利息・返済支出486%、施設関係支出18%、設備関係支出34%) 今期は資金収支差額で▲2億3千万円となった。 【結果】 経常収支差額比率:0.6% 人件費比率:48.9% 上記結果より、目標を達成した。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

法人	実施責任者	企画課長	佐々木正和
----	-------	------	-------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

主体性を重んじ公共性を高める自律的なガバナンスを確保し、より強固な経営基盤と、時代の変化に対応する大学づくりを進める

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

ガバナンスコードの遵守状況を可視化し、運営の適切化を進める

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【ガバナンスコードチェックリスト点数】 60%	R7.4月
-------------------------	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

5月開催の理事会において、以下の報告を行い、見直しを行う予定である。
「令和7年度4月に私立学校法が改正されることに伴い、内部統制システムの強化が求められているため、私立学校法の改正にあわせてガバナンス・コードの全体的な見直しを行う。」

【取組に対する自己点検・評価】

現行のガバナンスコード277項目のうち、チェック対象項目は263項目であり、そのうち達成できている項目(○)は249項目(94.7%)、一部未達成(△)の項目は10項目(3.8%)、未達成(×)の項目は4項目(1.5%)である。60%の数値目標に対して、94.7%の達成率であり、評価できる。しかしながら、数値目標は大きく上回っているものの、ガバナンスの強化には重要な項目が未達成であるため、引き続き、改善に努めるとともに全体的な見直しを行う必要がある。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

上半期の状況と同様である。2025年4月に私立学校法が改正されることに伴い、内部統制システムの強化が求められているため、私立学校法の改正にあわせてガバナンス・コードの全体的な見直しを行うことを報告したところではあるが、具体的な変更は未策定の状況である。

【取組に対する自己点検・評価】

私立学校法の改正に伴い、2025年度のガバナンスコードの策定に取り組む予定である。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

企画課(いわき)	実施責任者	課長	佐々木正和
----------	-------	----	-------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

・入学定員充足率を100%にする。補佐的に志願倍率、合格率、歩留率を設定する。今後、福島県の18歳人口が減少していくことから、福島県内の入学者数を確保した上で、県外からの入学者数を増やす。

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・遠隔広報(動画、DM、HP、SNS、WEB版オープンキャンパス)
- ・対面広報(オープンキャンパス、高校ガイダンス、進学ガイダンス、高校訪問、高大連携、中学生向けガイダンス)

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【入学定員充足率】 100% 【志願倍率】 2.52倍 【合格率】 81.1%	【歩留率】 50.5% 【県外入学者数】 128人	R7.4月
--	--	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・対面広報の実績
会場型ガイダンス 延べ 50会場、412名の接触(前年 延べ 61会場、329名の接触)
学校型ガイダンス 延べ 75校、457名の接触(前年 延べ 71校、815名の接触)
大学見学の受入れ 5校 185名(前年 7校 247名)
出前講座の派遣 27件(うち、高校19件)(前年 14件)
オープンキャンパス 6/22, 7/20・21, 8/24・25, 9/14, 参加者数 延べ 437名(同伴除く)(前年 延べ 530名(同伴除く))

- ・遠隔広報の実績
DM(はがき)発送 7月(2回), 8月, 9月 合計 約11,100件(前年 6回 約28,000件)

【取組に対する自己点検・評価】

会場型、学校型のガイダンス、及び高校訪問は、4つの重点エリア(福島県・茨城県(県北)・宮城県・山形県)を設定し、エリアリーダーを配置し、教員の協力も得ながら実施した。高校生、保護者、高校教員との接触機会は、取組みによって若干の差はあるが、前年と同規模である。しかし、オープンキャンパスへの動員が減少していることは、課題として捉えており、内容を始め、開催時期、回数、広報など見直しが必要であると認識している。総合型選抜入試(1期)の志願状況は前年比83%(24/29)と減少しており、今後の入試の志願状況も踏まえ、次年度募集も見据えて引き続き、全学体制での募集・広報を行う必要がある。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- ・対面広報の実績
会場型ガイダンス 延べ 75会場、555名の接触(前年 延べ 61会場、329名の接触)
学校型ガイダンス 延べ 156校、1001名の接触(前年 延べ 71校、815名の接触)
大学見学の受入れ 10校 448名(前年 7校 247名)
出前講座の派遣 48件(前年 14件)
オープンキャンパス 6/22, 7/20・21, 8/24・25, 9/14, 10/6, 参加者数 延べ 520名(同伴除く)(前年 延べ 530名(同伴除く))

- ・遠隔広報の実績
DM発送 6回(7月(2回), 8月, 9月, 12月, 3月) 合計 約13,000件(前年 6回 約28,000件)

【取組に対する自己点検・評価】

入学定員充足率:76%、志願倍率:1.40倍、合格率:95.4%、歩留率:58.9%、県外入学者数:34人(21.4%)
実施目標の入学定員充足率100%には厳しい結果となった。薬学部の募集停止、総合医療学部の開設、と新たな学部・学科構成とし、ニーズ調査において定員を充足する結果を得ていることから、戦略的な広報活動により次年度に向け、計画していく。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

企画課(いわき)	実施責任者	課長	佐々木正和
----------	-------	----	-------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・地域への知識の提供を目的とし、公開講座や生涯学習を開催することで認知度を向上させる

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・公開講座を毎年開催する
- ・各学部の生涯学習活動を実施する
- ・対外活動の管理を行う

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【公開講座参加者満足度】 85%	R7.1月
-------------------------	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・いわきヒューマンカレッジ

⇒今年度は、健康医療科学部作業療法学科が担当し、9月～11月にかけて「健康増進学部」として7コマ開講中。
約50名の申込があった。最終人数は、終了後にいわき市の担当者より報告がある。

- ・公開講座(大学主催)

⇒企画立案は、薬学部薬学科が担当。10月6日(日)に、学園祭と同時開催で実施。
学園祭のポスターや特設ページ(HP)、各SNSで広報中である。

【取組に対する自己点検・評価】

「いわきヒューマンカレッジ」は予定通り実施中であり、「公開講座」も順調に準備が進んでおり、計画通りに進んでいると評価できる。
それぞれ、後期に終了するため、その結果から、次年度の実施に向けて検討していく予定である。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- ・いわきヒューマンカレッジ

健康医療科学部作業療法学科の教員を主とし、「健康増進学部」を開講。

9月から11月にかけて、計7回実施。

延べ47名の受講があり、受講者の満足(満足・やや満足)は約84%であった。(※いわきヒューマンカレッジによるアンケート結果より算出)。

- ・公開講座(大学主催)

2024年度の医療創生大学公開講座を学園祭の1つのコンテンツとして実施した。

担当は薬学部薬学科で、「薬と食品の間にあるもの-機能性表示食品の功罪;紅麹サプリを例として-

31名の参加があり、参加者の満足度は約74%に留まり、目標の85%を大きく下回る結果であった(※アンケート結果により算出)。

【取組に対する自己点検・評価】

- ・各アンケート結果を踏まえ、受講者、参加者の満足度を向上させ、更なる大学認知度向上に努める必要がある。

次年度のいわきヒューマンカレッジは新rに学部臨床心理学科が担当学科となり実施する予定であり、公開講座(大学主催)は看護学部看護学科が担当学科となり、実施する計画である。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

企画課(いわき)	実施責任者	課長	佐々木正和
----------	-------	----	-------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・地域への知識の提供を目的とし、公開講座や生涯学習を開催することで認知度を向上させる

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・公開講座を毎年開催する
- ・各学部の生涯学習活動を実施する
- ・対外活動の管理を行う

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【生涯学習公開講座実施数】(公開講座・市民講座・出前講座等) 20件	R7.4月
---	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

各学部で、対応可能な範囲で実施している。
「出前講座」については、昨年度の講座より内容を充実させ、大学ホームページでの広報を継続している。
また、全教職員で実施している高校訪問等で、市内外の高校へ周知していることから、昨年度より、市外の高校等からの問い合わせが多くなっている。

【取組に対する自己点検・評価】

教員個人に依頼がある市民講座等の実施状況(結果)は、年度末に集計する予定である。

9月末までの「出前講座」の実施状況は、薬学科:4件、看護学科:7件、作業療法学科:1件、理学療法学科:1件、臨床心理学科:12件、薬学科・看護学科(合同):1件の合計26件であり、「出前講座」だけで、すでに数値目標を達成している。
なお、昨年度は9月末までの実施状況が15件で、昨年度より約1.7倍増となっていることから、本学の認知度向上に貢献していると思われる。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

・学部の生涯学習活動

薬学部薬学科において、いわき七夕まつり(8/6~8/8)にて、「薬学系実験体験イベント」を実施した。
来場者数は合計561名で、市内だけではなく、県外からも多くの来場者があった。

・心理学部臨床心理学科において、「親子で考える中高生のためのSNSの歩き方」と題し、9/21に無料講演会を実施した。
対面とオンラインのハイブリット型で実施し、市内の中高生や保護者、教育関係者など、来場者11名、オンライン参加者最大13名の参加があった。

・対外活動(公開講座、市民講座、出前講座の実施数)

今年度の実績は、全学部学科で71件であり、詳細は下記の通り。

〔薬学部薬学科〕公開講座(担当学科):1件、市民講座:0件、出前講座:7件

〔看護学部看護学科〕市民講座:0件、出前講座:13件

〔健康医療科学部作業療法学科〕市民講座:12件、出前講座:2件

〔健康医療科学部理学療法学科〕市民講座:2件、出前講座:4件

〔心理学部臨床心理学科〕市民講座:0件、出前講座:30件

【取組に対する自己点検・評価】

目標数値の20件を大きく上回る結果となった。また、各種研究会や研修会、科学の祭典などの学科イベント等にも積極的に参加しており、今後も各種活動を通して大学認知度の向上に努める計画である。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

企画課(いわき)	実施責任者	課長	佐々木正和
----------	-------	----	-------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・機関レベル:入学前教育アンケート

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【入学前教育アンケート】 回答率 100%	R6.10月
-----------------------	--------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

進研アドの入学前教育プログラム「サキドリプログラム」の結果

薬学部	受講人数	25名/28名(89.3%)
看護学部	受講人数	31名/38名(81.6%)
健康医療科学部	受講人数	45名/55名(81.8%)
心理学部	受講人数	37名/37名(100%)
合計	受講人数	138名/158名(87.3%)

【取組に対する自己点検・評価】

入学前教育に取り組んだ割合は全体で87.3%で、そのうち「大学でどんなことを学ぶのかイメージがわいた」「大学での学びが楽しになった」という学習意欲のアンケートでは、「あてはまる」回答が以下のとおりで比較的満足度は高い。

薬学部	「イメージがわいた」	95.0%	「楽しみのになった」	90.0%
看護学部	「イメージがわいた」	100%	「楽しみのになった」	81.5%
健康医療科学部	「イメージがわいた」	97.1%	「楽しみのになった」	97.1%
心理学部	「イメージがわいた」	87.5%	「楽しみのになった」	87.5%

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

上期での報告で完了しているため、記載なし。

【取組に対する自己点検・評価】

上期での報告で完了しているため、記載なし。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

企画課(いわき)	実施責任者	課長	佐々木正和
----------	-------	----	-------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・教育課程レベル:入学時(前)(AP評価)

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【総合型選抜入試】 志願倍率 **2.52倍**
 【学校推薦型選抜入試】 志願倍率 **2.52倍**
 【大学入学共通テスト利用入試】 志願倍率 **2.52倍**
 【一般入試】 志願倍率 **2.52倍**
 ※中期計画に基づく数値目標に同じ

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

【総合型選抜入試】 志願倍率 0.6倍(1期終了時点、2期-4期未実施)

【取組に対する自己点検・評価】

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

総合型選抜及び学校推薦型選抜における、口頭試問や学び・活動記録を取り止め、一般入試における試験科目選択の拡大、等の見直しを行い、各種入学試験を実施した。

【取組に対する自己点検・評価】

受験生、高校の進路指導の負担軽減も含め、入試内容の見直しを図ったが、結果は以下のとおり数値目標にはいたらなかった。

【総合型選抜入試】 志願倍率 0.80倍

【学校推薦型選抜入試】 志願倍率 0.93倍

【一般・共通利用入試】 志願倍率 2.48倍

入試制度、内容も然ることながら教育内容、学部・学科の特色・魅力を募集活動で効果的につたえることが重要である。
 なお、一般・共通利用入試の定員を「一般入試」として一括したため、志願倍率は一般入試の志願者80人と共通利用入試の志願者84人の合計164人を定員66人で除して算出している。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

総務課(いわき)	実施責任者	課長	半澤智祐
----------	-------	----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

・外部研究費の獲得 ・競争的資金の採択

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

・申請説明会等を実施する ・組織的に申請書チェックを行う ・研究業績を年度更新しガルーンへ保管する

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【外部資金獲得件数】 7件 【科研費採択率】 採択数／申請数 23%	R7.4月
---------------------------------------	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組み状況】 6月5日 産業イノベーション創出支援事業 1件採択 令和7年度(2025)科研費申請に向けて科研費申請アドバイザーを配置し下記を実施した。また、申請者は研究計画調書の内容を科研費申請アドバイザーに相談しチェックを受けて提出期限内に提出した。 ・7月08日に2024年度科学研究費申請書の書き方説明会及び個別相談会の開催を周知した。 ・7月17日に「令和7(2025)年度の科学研究費助成事業への申請方法」及び「2025科研費申請スケジュール」を全教員へ周知した。 ・7月30日に【2025年度科学研究費申請書の書き方説明会(オンライン)】を開催し、また説明動画をいつでも見れるようにした。 ・8月02日に【2025年度科学研究費個別相談会】を開催した。 【自己点検・評価】 外部資金は1件の採択となった。 実施計画に基づき取組みをおこなった結果、申請書の書き方説明会には13名参加、相談会には数名が参加した。 科研費申請件数が41件(昨年度37件)となり昨年度より増加したことから評価できる。
--

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください) 令和7年度外部研究助成金について、以下のように学内周知を実施した。 ・11月7日:令和7年度公益財団法人福島県学術教育振興財団助成対象事業の募集について、全教職員へ周知。 ・1月9日:令和7(2025)年度科学研究費助成事業-科研費-(国際共同研究加速基金(国際先導研究))の公募について、全教員へ周知。 ・3月4日:令和7(2025)年度科学研究費助成事業(研究活動スタート支援)の公募について、全教員へ周知。 ■結果 ・外部資金獲得件数:8件 ・科研費採択率:5件／41件(12.2%) 【取組に対する自己点検・評価】 実施計画に基づき取組を実施した結果、福島県学術教育振興財団助成への応募が1件あった。今後も引き続き、外部研究費や助成金の公募案内を教員へ積極的に発信していく。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

総務課(いわき)	実施責任者	課長	半澤智祐
----------	-------	----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

中期財務工程表をもとに評価し、5年後までに収支均衡させる

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

・支出を分析し、抑制を図る ・資金繰り表を作成し支出を管理する

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【教育活動収支差額比率】(教育活動資金収支差額/教育活動資金収入計) ▲8%	R7.7月
--	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組み状況】 専門学校を含む2024年度学校法人資金収支内訳表見込(学校別)4月～翌3月を作成した。4月より毎月の収支実績値を記入し収支の状況を把握すると共に昨年度の数値と比較もおこなっている。この2024年度学校法人資金収支内訳表見込(学校別)は、毎月理事長へ報告している。 この表から詳細を分析すると、収入はほぼ見込値で推移している。支出は人件費は若干低く、教育研究経費・管理経費は見込値より若干高く推移している。さらに電気料金は昨年度と比較して大学キャンパスにおいては、4月～9月では電気使用量が100.2%で推移しているが、料金は86.6%となっている。女子寮(大学会館)においては、4月～9月では電気使用量が105.8%で推移しており、料金は91.5%となっている。節電対策として、①暖房便座OFFおよび便座節電モードに変更した ②出席管理システムを電源OFFとした ③女子寮(大学会館)に対し節電協力要請を実施している。 【自己点検・評価】 今年度は想定外の真夏日が続いたが節電対策を実施したこと、契約電力会社を変更したことに電気使用量は昨年度同時期で若干増加しているが、料金は大幅に減少ができたため評価できる。 さらに省エネを推進し、電気使用量の抑制も図っていく。
--

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください) 専門学校を含む2024年度学校法人資金収支内訳表見込(学校別)(4月～翌3月)を作成し、毎月の収支実績値を記入して収支状況を把握するとともに、昨年度の数値との比較を行った。この2024年度学校法人資金収支内訳表見込(学校別)は、毎月理事長へ報告している。 この表を詳細に分析した結果、収入は見込値より若干低く推移している。一方、支出については、人件費および教育研究経費が見込値より若干低い水準で推移している。また、電気料金については、昨年度と比較して以下の傾向が見られる： 大学いわきキャンパス：10月～3月の電気使用量は101.6%で推移したが、電気料金は99%となっている。 女子寮(大学会館)：10月～3月の電気使用量は107.0%で推移し、電気料金は104.2%となっている。 節電対策として、4月-9月の節電対策以外に、①図書館の開架スペースの設定温度を2℃下げた。②学生の自習を講義室利用から学習センター利用へ推進を実施した。③事務局内のエアコン稼働率を約50%に縮小した。④LED外灯工事を実施した。 ■結果 教育活動収支差額比率(教育活動資金収支差額/教育活動資金収支計) ▲17.2% 【取組に対する自己点検・評価】 今年度は、想定外の真夏日が続いた影響で電気使用量が昨年度比で若干増加した。しかし、電気料金は628万円削減できたため、一定の成果があったと評価できる。さらに、LED化工事を推進するとともに、学生数に見合った講義室数の使用制限を実施し、電気使用量のさらなる抑制を図る必要がある。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

教務学生課(いわき)	実施責任者	課長	馬目高伸
------------	-------	----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

・外部研究費の獲得 ・競争的資金の採択

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

・申請説明会等を実施する ・組織的に申請書チェックを行う ・研究業績を年度更新しガルーンへ保管する

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【研究業績管理】 100%	R6.7月
---------------	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】 ・研究業績管理については、2024年度より中止し、各自が任意の様式で、研究業績を管理することとした。 このため、今年度の取り組みは、行っていない。
【取組に対する自己点検・評価】

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください) 同様の内容が、大学HPの教員紹介に掲載していることから、この内容で代替することとした。 実際に、98.8%(84/85)の教員(助手を除く)について、業績を表示している。
【取組に対する自己点検・評価】 内容の重複を避けることで、省力化を図ったが、データが不十分なものについては、引き続き確認する。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

教務学生課(いわき)	実施責任者	課長	馬目高伸
------------	-------	----	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

・調査結果を活かした環境改善、各種支援の強化等により、学生満足度を70%を達成する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

・教職協働、学部横断による学生満足度調査内容の見直し ・検討された支援方策や改善内容について、学生に向けた適切な情報の公表 ・学生の心理面への調査検討、および実施	・各調査結果に基づく支援の検討、環境改善 ・教育指導 ・大学と保護者の情報共有を促進し、学生支援の連携を図るため調査を実施
---	---

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【保護者満足度調査】 65% ※アセスメントプランに基づくチェック項目と一致。	R6.7月
---	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】 ・父母会総会時に父母会が実施したアンケートの結果を受けて、対応案を事務局で検討する予定とした。 ・保護者アンケートの準備を行い、一部修正を行う予定である。
【取組に対する自己点検・評価】 ・昨年度に続き、父母会総会アンケート結果に対する対応案の提示行う予定である。ただし、取り組みは昨年に比べ遅延している。 ・父母からの意見の元となる、学生からの意見について、学生満足度の向上のため検討を行っている。さらに、個々の事例となるが、障害のある学生については5件の対応し、必要があれば父母と調整を行い実施している

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください) 保護者アンケートについては、新入生の保護者の入学直後の状況を把握するため、卒業生、就職先アンケートと同様に6月に実施する。
【取組に対する自己点検・評価】 実施時期を変更したため、結果を出すことができない状況となった。他アンケートと合わせて早急に対応する必要がある。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

教務学生課(いわき)	実施責任者	課長	馬目高伸
------------	-------	----	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・機関レベル:卒業時(後)(DP評価)

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【学位授与数】 **92% (卒業生数／卒業年次数)**

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

・教育改善については、基本的に各学部における進学指導に依存している。
・在学期間から卒業時にかけてのDP達成状況については、今年度導入に向けて構築中である。今年度中に稼働を開始する予定である。

【取組に対する自己点検・評価】

・DP達成状況確認のツールについては、事務局主導で構築しており、年内に稼働を始める予定である。
・事務局で取り組むべき教育支援については可能な限り実施している。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

教育成果の可視化システムの構築に必要な学内データの精査とシステム構築業者へのデータ提供を行い、仮運用まで進めることができた。

令和7年度(2025)は、前期中に大学が設定している観点別(知識・技能、思考力・判断力、関心・意欲・態度等)に学修成果が可視化できるように整備を進めると同時に、全学SDなどで利用方法等を教職員へ共有し、令和7年度後期にはテスト運用、令和8年度(2026)には、各学科の初年次教育への導入を実施していく計画である。

【取組に対する自己点検・評価】

教育成果の可視化システムの導入時期が遅れたこと、システムにセットアップするデータの精査に時間がかかったことにより、本格稼働時期が当初予定から大幅に遅れている。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

教務学生課(いわき)	実施責任者	課長	馬目高伸
------------	-------	----	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・機関レベル:卒業時(後)(DP評価)

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【進学率】 100% (進学者数／進学希望者数)

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・進学指導については、各学部への指導に依存している状況となり、教務学生課へ届いた他大学院等の情報を各学と共有している。
- ・心理学部は完成年次を迎えたことにより、内部進学についても情報を公開している。

【取組に対する自己点検・評価】

- ・事務局では、心理学部の内部進学者を中心に、進学者数を増やす取り組みを実施している。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

進学希望者は、看護学部1名

- ・進学指導については、各学部への指導に依存している状況となり、教務学生課へ届いた他大学院等の情報を各学と共有している。
- ・進学率は100%であり、内訳は看護学部が1名(専門学校)、心理学部が9名(内部進学)となった。

【取組に対する自己点検・評価】

進学率100%達成に浮いては、各学部の進路担当者の功績が大きのが現状である。事務局としては、今後も各学部の後方支援を行うこととする。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

教務学生課(いわき)	実施責任者	課長	馬目高伸
------------	-------	----	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・教育課程レベル:入学時(前)(AP評価)

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【入学前教育課題】 **入学前教育履修率 91%**

R6.10月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・教務委員会で実施内容について検討し、看護学部、健康医療科学部の科目を変更した。
- ・実施率は、88%となった。

【取組に対する自己点検・評価】

- ・実施率は、目標未達となっており、改善を図る必要がある。
- ・実施に伴う、一連の作業については主に事務局が行い、結果を学部と共有している。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

上期での報告で完了しているため、記載なし。

【取組に対する自己点検・評価】

上期での報告で完了しているため、記載なし。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

総務課(柏)	実施責任者	総務課長	小花里美
--------	-------	------	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・ICT技術を活用した授業を実施するための環境を提供する
- ・施設修繕計画に則り教育に支障のない適切な整備を進める

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・無線LAN等のネットワーク
- ・学外接続ネットワーク環境の充実
- ・施設・設備の維持管理

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【ネットワーク・無線LANの整備状況に関する満足度調査】 70% 【ICTシステム設備稼働率】 100%	R6.10月
---	--------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】【取組の状況】

ネットワーク・無線LANの整備状況に関する満足度調査は、学生生活委員会が中心に進めている学生生活満足度調査の中の項目にネットワーク・無線LAN等に関する満足度の調査項目を入れている。その結果、Wi-Fiの通信環境の改善に関する項目では1年生においては70%を超える満足度であったが、学年が進むごとに満足度は低くなり、2年では63%、3年生に至っては43%の満足度となっている。関連要因としてプリンター設置数の増加の要望や、利用代金の負担軽減など、情報関連機器・設備の改善に関わる要望が多く出されており、ネットワークそのものよりも周辺機器の充実を求めている結果となっている。

【取組に対する自己点検・評価】

ICTシステムの稼働については、全学年が揃っても特に問題なく100%稼働している。引き続き問題が発生しないよう機器の維持管理に努める。周辺機器の問題に関しては、高学年の学生たちの要望を具体的に把握し、可能な範囲での対応を検討していく予定である。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- ・国際看護学部ではICTを活用した教育を実施している。情報関連機器・設備(Wi-Fi、PC・タブレット、プリンタ等)及び支援体制についての満足度調査では、全学年では29.4%が満足と回答した。とくに学年が進むごとに満足の傾向は低下しており、4年生に関しては21.6%の満足。不満足については56.7%が不満と回答した。
- ・上半期と比較すると満足度は全学年ともに低くなっており、2年生では31.4%、3年生では28.0%と上半期と比較すると約半分の値となっている。自由記述欄の記載に多い要望としては、Wi-Fi通信環境の改善が多い。目標値の70%の満足度を満たすには、今後無線通信環境の整備を行う必要がある。

【取組に対する自己点検・評価】

- ・ICTシステムの稼働状況については100%稼働しているが、学生の満足度からすると、当初320人以上の学生が同時使用できることを想定した整備が行われていたと思われるが、一人の学生が複数台の通信機器を使用することもあるため、それらを想定した改善が求められる。
- ・学習環境を確保する観点から、Wi-Fi通信環境の現状把握と改善策を講じることは、学生の満足度を高めるために必要である。今後、関連部署と問題点を共有し学修環境の整備にむけて検討していく。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

総務課(柏)	実施責任者	総務課長	小花里美
--------	-------	------	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・中期財務工程表をもとに評価し、5年後までに収支均衡させる。

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・前年度の支出を分析し、当年度の支出の抑制を図る。
- ・補助金の増収を目指し、要件の検証を行う

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【教育活動収支差額比率】(教育活動資金収支差額/教育活動資金収入計) 99%	R7.4月
---	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

完成年度となり、補助金対象の学校会計原則に基づき、学生生徒納付金および経常費補助金の収入管理の確定、厳格な予算書作成し、支出を制御することを目的とした学校法人会計処理を明確に表示していく。
前年度同様に継続して、節電・消耗品の管理徹底・広報戦略効率を図り支出の管理を徹底していく。
光熱水費の増加に加え紙類など消耗品費の増加など、教育研究費支出および管理経費支出について、さらなる節約実施を行う。
教員人件費および職運人件費についても比率減に努める。

【取組に対する自己点検・評価】

光熱水費の増加に関して、管理業者の見直しを行い比率減に努める。また、昨年度閉校した専門学校後からの建物および施設設備等の連引き継ぎに伴い経年劣化が散見するため、修繕費支出の管理を行いつつ来年度予算の精査を行う。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

教育活動による資金収支に関してR6年度の実績は76.34%だった。
人件費、広報活動費の予算対比を検討し、引き続き光熱水費や消耗品の削減を管理徹底する。

【取組に対する自己点検・評価】

予算設定後にR7年度からの学生食堂無料化準備にて修繕費支出もあり、また、広報活動費も予算見込みを上回るため、過年度の経費支出と異なる管理を改善していくことが必須との評価になる。

R7年度から学生食堂無料化および海外研修費用大学負担を鑑み、経費削減を徹底する様に務める。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

教務学生課(柏)	実施責任者	教務学生課長	森谷友晴
----------	-------	--------	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・国家試験合格に向けた学力の担保
- ・教育の質を保証する体制(サイクル)の確立
- ・学生の国際交流に向けた交流拠点の開拓

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・年間の各単位において、国家試験対策定期目標指数「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」などを検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指す
- ・学生の学習到達度の検証や学生の学修成果の結果を受けて、教育支援のための研修会や情報交換会を継続的に実施する

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【学修行動調査】 授業時間以外の学修時間 10時間以上／1週間	R6.10月
--	--------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・学生満足度調査のなかに学習到達度を把握できる項目を反映させ、国試や大学での自己学習の実態を把握し指導に役立てている。
- ・個々の学生の個別の問題を把握するため、学生満足度調査の中に学生の心理面の悩みや問題を把握できるような質問項目を反映させていくと同時に、チューターによる個々の学生の悩み相談などを積極的に実施している。柏キャンパスでは、週2回のペースでカウンセラーによるカウンセリングを実施して、個別の学生への心理相談を行い、毎月学部長および事務局担当者と情報共有を行っている。

【取組に対する自己点検・評価】

概ね計画通りである。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・学修行動調査において授業時間外の学習時間は、全学年平均「約20時間/1週間」であった。最終学年の学生にとっては学習場所の確保が課題となっている。
- ・国際交流拠点は、実習先であるタイ王国ランパーン県総合病院との提携を進めている。
- ・留年率は8.0%、留年者数24名(1年生4名、2年生17名、3年生3名)であった。2年生の割合が高いのは、本格的に専門科目の学習が始まるために科目修得が困難な学生が多かった。
- ・国家試験合格率は81名が受験し72名が合格した。合格率は89%であった。低学力層の学生が不合格となっているので、早めの国家試験対策に向けた企画の工夫や早めの対処が必要であった。

【取組に対する自己点検・評価】

- ・学習場所の支援については、教室や図書館などの学内での学習環境を整備し、自己学習の場を提供していく。就職先未定の1名は、国家試験不合格者である。来年の受験に向けた支援を行う予定である。
- ・国際交流拠点は、国外の実習病院(タイ国のランパーン病院)をベースにして交流を深める予定である。
- ・留年率の高い2学年については、専門科目のチューターを中心とした学習支援体制を検討している。国家試験の支援対策については、チューターを中心に自己学習を支援する環境づくりを検討していく。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

教務学生課(柏)	実施責任者	教務学生課長	森谷友晴
----------	-------	--------	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

- ・調査結果を活かした環境改善、各種支援の強化等により、学生満足度70%を達成する

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・教職協働、学部横断による学生満足度調査の実施
- ・検討された支援方策や改善内容について、学生に向けた適切な情報の公表
- ・学生の心理面への調査検討、および実施
- ・各調査結果に基づく支援の検討、環境改善・教育指導

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【学生満足度調査(回収率)】 100% 【学生ポータルサイトの構築と活用】 100%	R6.10月
---	--------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・学生生活満足度調査の調査内容などについて、回収率100%となるような質問項目の精査を行った。
- ・柏キャンパスではK-Port(学生ポータルサイト)を通じて直接学生への通知可能な連絡網を構築し機能させている。
- ・学生と保護者の情報交流を深めるため、保護者会を企画実施している。1年生は入学式直後に実施した。2年生は9/28に実施した。

【取組に対する自己点検・評価】

概ね計画通りである。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- ・学生ポータルサイトの構築後の活用は順調であり、全学年および各学年のチャネルを通じて授業や学生生活に関する情報提供、時間割の掲示、SNSの注意喚起など学生生活に必要な情報のやり取りが可能となっている。柏キャンパスの全学生および教職員との情報共有ややり取りができており100%活用できていた。
- ・学生満足度調査を10月～11月にかけて実施し、回収率は53.68%であった。

【取組に対する自己点検・評価】

- ・学生ポータルサイトの構築後の活用は順調で、全学生および教職員による活用率は100%であり、目標は達成した。今後は、学生ポータルサイトの活用方法を新入生へ周知し、引き続き活用率100%を目指す。
- ・学生満足度調査回収率について53.68%と低い結果となった。原因として学生への周知が直前となってしまったこと。質問項目が多く整理しきれなかったこと。が考えられる。次年度は余裕をもって周知をし、質問項目をさらに精査し実施する。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

教務学生課(柏)	実施責任者	教務学生課長	森谷友晴
----------	-------	--------	------

【実施目標(中期事業計画に基づく)】

入学定員充足率を100%にする。補佐的に志願倍率、合格率、歩留率を設定する。今後、18歳人口が減少していくことから、県外からの入学者数を増やす。

【実施計画(中期事業計画に基づく)】

- ・広報用媒体の充実(WEB版のオープンキャンパス等)
- ・対面広報(オープンキャンパス、高校ガイダンス、進学ガイダンス、高校訪問、高大連携、中学生向けガイダンス)

【数値目標(中期事業計画に基づく)】

【基準日(報告月)】

【入学定員充足率】 100% 【志願倍率】 2倍 【合格率】 2倍	【歩留率】 40%以上 【県外入学者数】 40%以上	R7.4月
--	---	-------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

- ・オープンキャンパスを5/18(土)、6/22(土)、7/20(土)、8/3(土)、8/24(土)、9/7(土)の6回実施した。
- 参加者は5月31名、6月55名、7月95名、8月3日106名、8月24日152名であった。
- ・大学説明会は、メインエリア(千葉・茨城・埼玉・東京)において、72件の業者依頼があり、58件の説明会に参加した。
- ・高校訪問は、千葉県内・茨城県内・埼玉県内・東京都内を中心に訪問を実施した。今後も引き続き実施していく。
- ・総合型選抜入試Ⅰ期の出願者数32名であった。(出願期間9/13～9/27)

【取組に対する自己点検・評価】

- ・オープンキャンパスの総来場者数が9月の時点で昨年度来場者数を上回った。今後も来場者数増を目指し取り組みを続行する。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

- ・後期オープンキャンパスを4回開催した。参加者は11月9日(土)23名、12月7日(土)18名、1月25日(土)26名、3月22日(土)66名で、前期に引き続き各回の来場者は昨年度を上回った。積極的な広報活動によってオープンキャンパスの来場者を伸ばすことができた。来場者の2～3割がリピーターであり、入試の出願者でもあったことから広報活動の効果はあったと評価できた。
- ・本年度より在学生による授業紹介を取り入れ、来場者からは好評価を得た。
- ・神田女学園との高大連携協定を締結し、来年度より開始予定である。受験生の確保に向けて本学部の魅力を伝えていく。
- ・ホームページやSNSを効果的に活用し、幅広い地域からの学生募集活動を引き続き進める。

【取組に対する自己点検・評価】

- ・2025年4月の入学者数は83名で定員充足率は104%で数値目標は達成した。
- ・2025年の志願者は176名(2024年度108名)で志願倍率2.2倍、受験者は166名(102名)、合格者131名(93名)合格率1.6倍、辞退者1名(4名)、入学者83名(69名)で、昨年度よりも増加した。歩留率64%、県外入学者数60%と合格率以外の項目で数値目標を達成できた。
- ・今後も多くの受験生が受験機会を得られるように、入試日程を今年同様に確保する必要がある。特に社会人入試では、能力や判断力を評価できるように、入試方法を再検討し社会人入学者確保に向けた取り組みを検討している。
- ・今後も大学説明会や高校訪問等の積極的な広報活動を実施し、オープンキャンパスの来場者を伸ばし、入試の出願に繋がるような企画を実施していく。同時に、受験生の確保にとって重要な指標となる国家試験対策も含めた活動内容を精力的にアピールしながら本学部の魅力を伝えていく。さらには受験生には、多くの受験機会が提供できるような工夫をしていく必要がある。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

教務学生課(柏)	実施責任者	教務学生課長	森谷友晴
----------	-------	--------	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・機関レベル:入学前教育アンケート

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【入学前教育アンケート】 回答率100%	R6.10月
----------------------	--------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

・入学前教育として業者提供(進研アド)のサキドリプログラムを実施した。

【取組に対する自己点検・評価】

概ね計画通りである。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

・入学前教育であるサキドリプログラムは、総合型入試合格者の高校教員から高評価が得られているため本年度も継続した。
 ・前年度は全入学者を対象に受講期間を合格発表後～5月末としたが、入学後の受講は大学の学習への影響が懸念されたため、本年度は12月末までに合格発表が終了する総合型選抜Ⅰ期・2期、学校推薦型(一般公募Ⅰ期・指定校推薦Ⅰ期)、社会人特別Ⅰ期入試の学生71名(昨年度51名)のうち受講生60名(受講率84.5%)が3月末までに受講を終了した。
 ・受講生に対し、担当委員より励ましメッセージを送りフォローした。受講生の受講前後の成績向上が認められ、アンケート結果のサキドリプログラム受講に関する満足度は概ね良好であった。

【取組に対する自己点検・評価】

本年度は年内合格者のみとしたところ、受講率およびアンケート回答率は84.5%であり、100%には届かなかった。これは、本プログラムが有料であるために受講生に受講の意思に委ねていることが理由の一つに挙げられる。しかし、受講前後の効果が認められ、合格者の出身高校の進路指導教員や保護者より本プログラムの有用性の評価を得ているため、今後は本プログラムの効果を合格者へ周知するとともに、入学前アンケートの回答率を上げていく必要がある。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

教務学生課(柏)	実施責任者	教務学生課長	森谷友晴
----------	-------	--------	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・機関レベル:卒業時(後)(DP評価)

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【保護者満足度調査】 満足度60%	R6.10月
-------------------	--------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

・保護者と情報交流を深めるため、保護者会及び保護者面談を実施した。

【取組に対する自己点検・評価】

・概ね計画通りである。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

・各学年のチュータを中心に、年1回の保護者会を開催した。その他、保護者に対しては模擬試験の結果を郵便で送るなどを実施し、現在の学内での勉学状況を報告している。
・保護者会におけるアンケートでは、履修や学習に対しては「とても満足」「まあまあ満足」が46.2%、学生生活や就職については「とても満足」が46.2%、「まあまあ満足」が30.8%で合計で77.0%で目標値を超えた結果となっている。その他、実習施設に対しては61.6%が満足と回答した。

【取組に対する自己点検・評価】

・保護者会の参加ツールとしてリモート設備を介した参加も導入した結果、複数人の参加者が得られた。今後、オンラインでの保護者会の希望者を募ることを積極的に行っていく。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

教務学生課(柏)	実施責任者	教務学生課長	森谷友晴
----------	-------	--------	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・教育課程レベル:入学時(前)(AP評価)

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【総合型選抜入試】 志願倍率 2倍
 【学校推薦型選抜入試】 志願倍率 2倍
 【大学入学共通テスト利用入試】 志願倍率 2倍
 【一般入試】 志願倍率 2倍
 ※中期計画に基づく数値目標と同じ

R7.4月

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

・オープンキャンパスを5/18(土)、6/22(土)、7/20(土)、8/3(土)、8/24(土)、9/7(土)の6回実施した。
 参加者は5月31名、6月55名、7月95名、8月3日106名、8月24日152名であった。
 ・大学説明会は、メインエリア(千葉・茨城・埼玉・東京)において、72件の業者依頼があり、58件の説明会に参加した。
 ・高校訪問は、千葉県内・茨城県内・埼玉県内・東京都内を中心に訪問を実施した。今後も引き続き実施していく。
 ・総合型選抜入試Ⅰ期の出願者数32名であった。(出願期間9/13～9/27)

【取組に対する自己点検・評価】

・オープンキャンパスの総来場者数が9月の時点で昨年度来場者数を上回った。今後も来場者数増を目指し取り組みを続ける。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

一般入試における試験科目選択の拡大などの見直しを行い、各種入学試験を実施した。

【総合型選抜入試】 出願者数35名
 【学校推薦型選抜入試】 出願者数37名
 【大学入学共通テスト利用入試】 出願者数39名
 【一般入試】 出願者数65名

【取組に対する自己点検・評価】

総合型選抜、推薦型選抜の専願入試に関しては数値目標を達成できなかった。

【総合型選抜入試】 志願倍率1.8倍
 【学校推薦型選抜入試】 志願倍率1.1倍
 【大学入学共通テスト利用入試】 志願倍率3.9倍
 【一般入試】 志願倍率4.3倍

総合型・推薦型は専願入試のため、本学第一希望をさらに増加させることが必要である。今後はさらに本学の魅力を強くアピールしていく。

令和6年度 自己点検チェックリスト

【担当部局】

教務学生課(柏)	実施責任者	教務学生課長	森谷友晴
----------	-------	--------	------

【実施目標(アセスメントプランに基づく)】

・教育の成果を可視化し教育改善を恒常的に実施することを目的とし、独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価する。

【測定・評価のレベル(アセスメントプランに基づく)】

・教育課程レベル:入学時(前)(AP評価)

【数値目標(アセスメントプランに基づく)】

【基準日(報告月)】

【入学前教育課題】 提出率 90%	R6.10月
-------------------	--------

■4月-9月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】

・導入内容について検討し、昨年度と同様の内容で実施することとした。

【取組に対する自己点検・評価】

計画通り進行している。

■10月-3月 取組の状況と取組に対する自己点検・評価

【取組の状況】(数値目標に対する実績も記入してください)

・入学前教育であるサキドリプログラムは、総合型入試合格者の高校教員から高評価が得られているため本年度も継続した。
 ・前年度は全入学者を対象に受講期間を合格発表後～5月末としたが、入学後の受講は大学の学習への影響が懸念されたため、本年度は12月末までに合格発表が終了する総合型選抜Ⅰ期・2期、学校推薦型(一般公募Ⅰ期・指定校推薦Ⅰ期)、社会人特別Ⅰ期入試の学生71名(昨年度51名)のうち受講生60名(受講率84.5%)が3月末までに受講を終了した。
 ・受講生に対し、担当委員より励ましメッセージを送りフォローした。受講生の課題提出も概ね順調で受講前後の成績向上が認められた。

【取組に対する自己点検・評価】

・本年度は年内合格者の受講率は84.5%であり、100%には届かなかった。これは、本プログラムが有料であるために受講生に受講の意思に委ねていることが理由の一つに挙げられる。しかし、受講前後の効果が認められ、合格者の出身高校の進路指導教員や保護者より本プログラムの有用性の評価を得ているため、今後は本プログラムの効果や必要性を合格者へ周知し、入学前教育としての本プログラムの受講率を高め、課題提出を促していく必要がある。

全学教育委員会委員長 様

自己評価委員会 委員長 大原貴弘

2024年度自己点検・評価報告書及び改善課題について

2024年度の自己点検・評価報告書につきまして、「自己点検・評価に関する規程」第6条に基づき、別添のとおりご報告いたします。また、各部局の自己点検・評価結果を確認した結果、以下のとおり改善課題として認識いたしました。

医療創生大学内部質保証体制に基づき、全学教育委員会委員長及び自己評価委員会委員長の連名による改善の取組みを各部局へ依頼したく、ご検討のほどお願いいたします。

■薬学部【改善課題及び改善指示】 【改善課題】 国家試験合格率が目標値に達していません(100%に対し、66.67%)。 【改善指示】 在校生の国家試験合格率が目標を達成できるよう、CBT対策などを改善し、国家試験対策を実施してください。
■看護学部【改善課題及び改善指示】 【改善課題】 入学定員充足率が目標値に達していません(100%に対し、76%)。また、国家試験合格率が目標値に達していません(100%に対し、看護師89.6%、保健師88.2%)。 【改善指示】 高校訪問や公開シンポジウムなど学部内の様々な取組は積極的に行われていますが、入学定員充足率が目標に達していない現状を分析し、それに基づいた改善策を実施してください。 また、国家試験合格率が目標を達成できるよう、低学年からの国家試験対策を充実するなどの改善を行ってください。
■健康医療科学部【改善課題及び改善指示】 【改善課題】 入学定員充足率が目標値に達していません(100%に対し、PT 76.6%、OT 37.5%)。また、国家試験合格率が目標値に達していません(100%に対し、PT 93.4%、OT 81.0%)。 【改善指示】 SNSを利用した広報活動などの取組は積極的に行われていますが、入学定員充足率の向上に結びついていない現状を詳細に分析し、その結果に基づいた改善策を実施してください。 また、国家試験合格率が目標を達成できるよう、国家試験対策の改善を行ってください。
■心理学部【改善課題及び改善指示】 【改善課題】 入学定員充足率が目標値に達していません(100%に対し、72.5%)。 【改善指示】 出前講座など学部の様々な取組は積極的に行われていますが、入学定員充足率が前年度を下回った原因を詳細に分析し、それに基づいた改善策を実施してください。
■国際看護学部【改善課題及び改善指示】 【改善課題】 国家試験合格率が目標値に達していません(100%に対し、88.9%)。また留年率が目標を上回っていました(4%未満に対し、8.0%)。 【改善指示】 国家試験合格率が目標を達成できるよう、国家試験対策の改善を行ってください。また留年率を下げるよう学生支援体制の改善を実施してください。

■生命理工学研究科【改善課題及び改善指示】 【改善課題】 入学定員充足率が目標値に達していません(修士:100%に対し、40%、博士:100%に対し、50%)。また留年率が目標を上回っていました(5.3%に対し、14.3%)。 【改善指示】 オンライン説明会やガイドブックの強化など取組は積極的に行われていますが、入学定員充足率の向上に結びついていない現状を詳細に分析し、その結果に基づいた改善策を実施してください。また留年率を下げるよう学生支援体制の改善を実施してください。
■人文学研究科【改善課題及び改善指示】 【改善課題】 離籍率が目標値を上回っていました(3%に対して、40%)。 【改善指示】 離籍率が目標値を下回るよう、学生支援体制ならびに教育環境の整備を行ってください。